

えびの市埋蔵文化財調査報告書 第48集

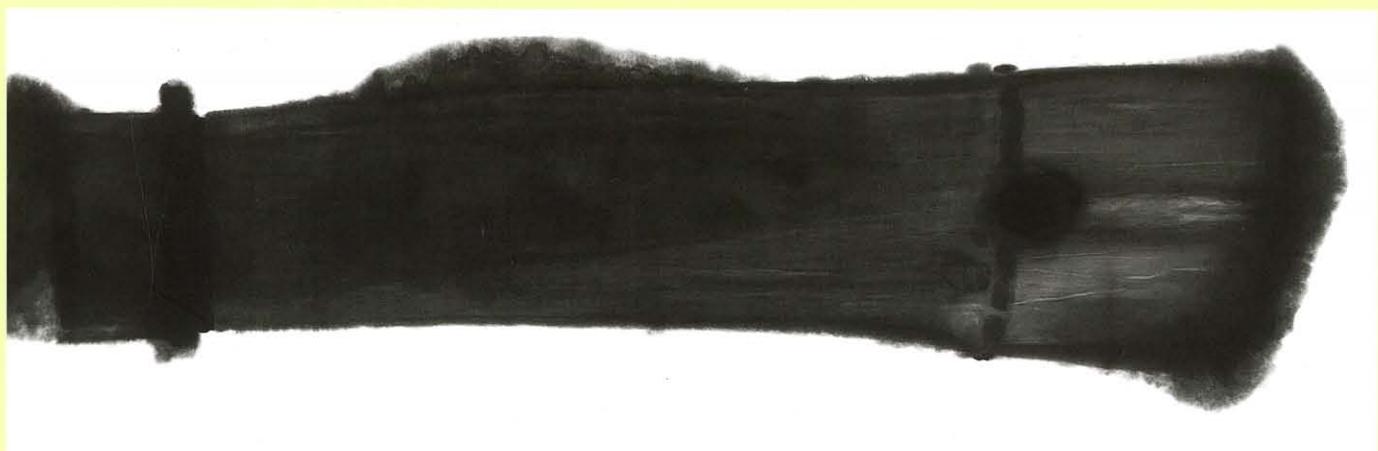
北岡松地区遺跡群

県営経営体育成基盤整備事業・北岡松地区に伴う天神免遺跡・岡松遺跡発掘調査報告書

本文 編

天神免遺跡

岡松遺跡



2010

宮崎県えびの市教育委員会

北岡松地区遺跡群

県営經營体育成基盤整備事業・北岡松地区に伴う天神免遺跡・岡松遺跡発掘調査報告書

本文編

天神免遺跡

岡松遺跡

2010

宮崎県えびの市教育委員会



天神免遺跡 II～V区 遺構分布状態（合成写真）



天神免遺跡 VI～X区 遺構分布状態（合成写真）



天神免遺跡 XI～XII区 遺構分布状態（合成写真、右が北）



岡松遺跡 I～III区 遺構分布状態（合成写真、右が北）

序

えびの市は、宮崎県の南西端に位置し、北の九州山地・加久藤カルデラ壁と南の霧島山系に囲まれた狭長な盆地であります。県内で唯一西へ流れる川内川へは大小20あまりの支流が合流し、発達した河岸段丘の殆どは周知の遺跡であります。当地は、日向・肥後・薩摩の分岐点にあたり、古くから様々な文化・文物が混在した独特の地域として発展してきました。

標高1,700mを測る韓国岳を主峰とする霧島山系は大量の雨と湧水、肥沃な氾濫原を形成し、寒暖の差が大きいために農産物は糖度を高め、特に米は古くから真幸米として名を馳せていました。

本市の北東部、白川右岸の北岡松地区45haに圃場整備事業が計画され、県文化課による試掘調査が実施され、8haの遺跡の存在が明示されました。市ではこれを受けて工事計画図と照合して約6haの発掘調査を3ヶ年で記録保存することにしました。

本書は、平成16～18年度に実施した天神免遺跡と、平成19年度に実施した岡松遺跡の発掘調査報告書であります。旧石器時代の石器や縄文時代前期の陥し穴16基、弥生時代後期～古墳時代後期の竪穴住居230軒あまり、乳幼児～小児用地下式横穴墓28基、自然流路、中世の掘立柱建物のほか、近世～近現代の約600基の座棺墓や溝状遺構などを調査し、約157,000点の出土遺物もあり、当地区に刻まれた歴史がわかりました。

本書が学術資料としてだけでなく、生涯学習や学校教育の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する理解と認識が深まれば幸いです。

本遺跡の調査にあたりご指導・ご協力いただいた諸先生方や県文化財課諸氏、調査に対してご理解ご協力いただいた西諸県農林振興局・県土地改良・工事関係者ならびに地権者・耕作者の諸氏、発掘作業・整理作業に従事していただいた作業員の方々に對しまして厚く御礼申し上げます。

平成22年3月

えびの市教育委員会

教育長 萩 原 和 範

例　　言

1. 本書は、平成16～19年度に実施した、県営経営体育成基盤整備事業北岡松地区に伴う天神免遺跡と岡松遺跡の発掘調査の本報告であり、北岡松地区遺跡群と総称する。
2. 調査はえびの市教育委員会が主体となり、天神免遺跡は平成16年10月22日から平成17年3月25日までと、同年5月9日から同年6月20まで、同年8月16日から平成18年3月31日まで、同年5月8日から6月13日まで、同年7月11日から11月21日までの3次にわたる調査を、岡松遺跡においては、平成19年9月18日から平成20年1月31日まで実施した。
3. 本報告書作成のための整理作業は主として平成19～21年度に実施した。
4. 遺構全体図は、平成16年度は朝日航洋株式会社に、平成17～19年度は九州航空株式会社に委託し、1/50と1/200を作成した。
5. 本書使用の地形図（1/5000）の原図は、昭和57年（1982）作成図であり、写真図版の航空写真とは若干の違いがある。
6. 天神免遺跡出土の旧石器と火打ち石については、宮崎県埋蔵文化財センターの藤木聰氏に助言を頂いた。記して御礼申し上げます。
7. 鉄鉱石を牛馬で運んだ道路跡については、元えびの市歴史民俗資料館嘱託の市田寛幸氏に原稿を賜り、付篇に掲載させて頂くと共に、記して御礼申し上げます。
8. 出土陶磁器については、佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二館長に鑑定して頂いた。
9. 鉄製遺物のX線写真の撮影は、平成20年度、宮崎県総合博物館学芸課の永友良典主幹を通して宮崎県埋蔵文化財センターにご協力頂いた。御礼申し上げます。
10. 天神免遺跡出土の鉱滓および付着物については株式会社古環境研究所に委託し、その成果は付篇に掲載している。
11. 出土遺物洗浄後の分類・選択および石材の肉眼観察は中野が担当した。
12. 出土須恵器の拓本は、平成20年11月の、宮崎県立小林高等学校1年生6名の職場体験で実施した成果の多くを使用している。また、弥生時代の石器剥片接合作業にも挑戦して頂いたところ、3例7点が接合したことを契機に整理作業員に引き継ぎ、18点も接合した成果を得ることができた経緯があり、この場を借りてお礼申し上げます。
13. 本書の執筆・編集は中野が行った。
14. 調査の関連資料および出土遺物はえびの市歴史民俗資料館に保管・一部展示している。

凡　　例

1. 本書掲載の遺構は、S A：竪穴住居、S B：掘立柱建物跡、S D：溝状遺構、S E：井戸、S H：周溝状遺構、S K：土坑・土壙墓、S L：石器ブロック、S R：道路状遺構、S T：地下式

横穴墓、S U：埋設土器、S X：自然流路、S Z：用途不明 として略している。記号の無い数字のみの遺構は柱穴や柱穴状遺構および搅乱である。

2. 遺構分布図では、近現代の搅乱や自然樹木痕、風倒木痕等は削除している。
3. 遺構番号は、遺跡毎に独立させ、柱穴と搅乱以外は検出順に通し番号にしている。ただし、S A-173と182、S T-18は欠番である。
4. 遺構実測図は、規模や重要度を考慮して、1/10から1/100に仕上げ、統一していない。
5. 出土遺物実測図は、大きさと細部表現を考慮して、1/3から4/5に仕上げている。
6. 挿図記載の方位は、国土座標軸の北を示す。
7. 壇穴住居の土層において、「覆土」は廃絶後の流入土（第1層）とし、貼り床の土（第2層）とは明確に区別し、人為的埋め土を「埋土」としている。また、柱穴の深さの数値は、2層下の底面からの深さである。
8. 市内遺跡においては、壇穴住居構築時に地形改変（造成）を施した例は無く、当地区でのIV層の厚さを30cmとして、その上10cmから掘り込むことを前提として、遺構の上面が何cm削失しているかを推定して記述している。
9. 遺構分布図と個別遺構図は完掘後の実測図であり、特に近世以降の溝状遺構は、機械掘削と遺構掘り込みによって本来の形状を保っていない。なお、近世～近現代の座棺墓については、特殊な遺構のみ報告する。
10. 出出土器実測図のスクリーントーンは丹塗りおよび黒色処理を示し、痕跡程度の場合は実測図の半分で止めている。
11. 鉄器の実測図は、全て保存処理前のものである。
12. 断面層序図の注記および出土遺物観察表の胎土欄に記載した砂粒は、目測ではあるが、微砂：概ね直径0.5mm未満、細砂：0.5～1.5mm位、粗砂：1.5～2.5mm位、小礫：3mm以上に分けている。
13. 同表の調整欄に記載した「工具ナデ」は「ハケ」の一種であるが、意図されたものではないハケなので区別している。また、「半ミガキ」とは、工具ナデでしかもミガキ（＝ヘラか石）状に仕上がっている状態を表す。

調査組織

調査主体 えびの市教育委員会

教 育 長	松 田 忠 信 (平成16年度)
	上 野 兼 寛 (平成16～20年度)
	萩 原 和 範 (平成20年度～)
社会教育課長	白 坂 良 二 (平成16年度～)
文化係長	岩 下 百 年 (平成16年度～)

主　　査　　鶴　永　靖　(平成16年度)
　　　　　西　正　利　(平成21年度、事務・連絡調整)
主　　事　　下　東　嘉　也　(平成16年度　事務)
　　　　　下　堀　美佐子　(平成21年度　事務)
主任技師　中　野　和　浩　(発掘調査・整理作業担当)
技　　師　　東　　真　一　(平成17～20年度　事務・連絡調整)

特別調査員　佐賀県立九州陶磁文化館　館長　大橋康二

調査協力　宮崎県教育委員会文化財課
宮崎県埋蔵文化財センター

平成16年度

発掘作業員　有馬セツ、上原テル子、大木場登美子、岡田俊昭、岡田春代、岡田ミエ子、上水流タマ、上畠トシ子、狩集憲子、川辺一實、木原典子、桑田カズ子、佐藤ミチ子、里岡カズ子、志波ナツ子、菖蒲久子、白川ノリ子、新屋敷節子、末川アツ子、大王サツミ、瀧山志保子、竹本カツ子、出水一美、時吉三千子、永田美智子、長野修身、西脇ミキ、野村カズ子、原内アヤ子、原内ツルエ、東田幸子、東田政子、福山シズエ、古市ツル子、星指利江子、松下ヤエ子、水無口勝、宮崎ヨシ子、本坊福子、森政宏、八重尾ヤス子、山岡一雄、山岡チエノ、山毛政義、山崎フジ子、山下キミエ、山本洋子、横手マツエ、米盛みな子

整理作業員　入木和代、大重泉、大田由美子、末継さおり、長野真弓、野田幸子、橋口清美、原山征子、米倉千春

平成17年度

発掘作業員　構松テル、有馬セツ、岩下久子、上原テル子、大木場登美子、大脇キヨ子、岡田俊昭、加藤良子、上熊須さとみ、上畠トシ子、狩集憲子、假屋千代子、川辺一實、木原典子、木室ミチ子、黒木ノリ子、桑田カズ子、源嶋ミエ、迫田緑、佐藤ミチ子、里岡カズ子、志波ナツ子、白川ノリ子、新原敏子、新屋勝子、末川アツ子、杉元美知子、大王サツミ、瀧山志保子、田代亜希子、出水一美、時吉ミチ子、豊永ヨシ子、永田美智子、長野修身、中村夏江、永山美雪、成見正弘、野村カズ子、櫨山定伸、畠江繁孝、原内アヤ子、原内るり子、春田義一、東田幸子、東田政子、樋口地人、久松泰、福重真諭美、福園次男、福園初美、古川マス子、星指利江子、松下ヤエ子、松田チヅ、水無口勝、三成徳子、宮崎ヨシ子、宮田スエ子、宮原ミヨ、本坊福子、八重尾ヤス子、山岡綾子、山岡一雄、山岡一也、山毛政義、山崎フジ子、横手マツエ、米盛みな子

整理作業員　安藤紀代、伊塚愛、入木和代、梅木真由美、大重泉、大田由美子、末継さおり、

中村康代、橋口清美、原山征子、東蕨香菜、久松泰、松下恵美

平成18年度

発掘作業員　　精松淳、精松テル、有馬セツ、岩下久子、大木場登美子、岡田俊昭、小倉克己、柿木照子、加藤良子、上熊須さとみ、上別府政子、狩集憲子、假屋千代子、川路郁子、北別府栄子、木原典子、源嶋ミエ、里岡カズ子、志波ナツ子、白川ノリ子、新原敏子、新屋勝子、杉元美知子、大王サツミ、瀧山和樹、瀧山志保子、田代亜希子、茶園政三、当山開作、豊永孝、豊永ヨシ子、永田美智子、畠江繁孝、原内アヤ子、原内迅、原内るり子、東田政子、樋口地人、福重真諭美、福園次男、福園初美、星指利江子、松下ヤエ子、三倉マスミ、三成徳子、宮崎ヨシ子、宮原ミヨ、本坊福子、八重尾ヤス子、山岡一雄、山毛政義、山崎フジ子、山下勝弘、横手マツエ、米盛みな子

整理作業員　　有島浩子、安藤紀代、市野久子、入木和代、大重泉、大田由美子、小采みず子、下村理恵、末継さおり、樋木たか子、原山征子、別府慶彬、山下奈津子

平成19年度

発掘作業員　　有馬セツ、石井富士夫、石井由里子、岩下久子、大木場登美子、岡田俊昭、小倉克己、上熊須さとみ、上別府政子、狩集憲子、假屋千代子、木原典子、源嶋ミエ、里岡カズ子、島田加代、新原敏子、新屋勝子、瀧山志保子、田代亜希子、鶴田健介、豊永ヨシ子、永田美智子、西田育子、野間美代子、畠江繁孝、原内アヤ子、原内るり子、東田幸子、東田政子、福重真諭美、星指利江子、松下ヤエ子、三成徳子、宮原ミヨ、本坊福子、八重尾ヤス子、山岡一雄、山崎フジ子、山下勝弘、横手マツエ、吉岡知美子

整理作業員　　安藤紀代、市野久子、入木和代、大重泉、大田由美子、下村理恵、末継さおり、樋木たか子、原山征子、山下奈津子

平成20年度

整理作業員　　安藤紀代、市野久子、山元里美、入木和代、大田由美子、下村理恵、末継さおり、樋木たか子、原山征子、上村ゆかり、三森由紀子

平成21年度

整理作業員　　有木美穂、入木和代、大田由美子、樋木たか子、橋爪真美、山元里美

なお、現場の平板測量と個別遺構・断面層序図は、主として木原典子・星指利江子・永田美智子の3名が交代で測り、本坊福子氏に描いて頂いた。一部、加藤良子・瀧山志保子の2名が測り、瀧山和樹・原内迅・樋口地人の3名にも描いて頂き、調査が円滑に進んだ。出土遺物のうち弥生土器と土師器の一部、須恵器は中野が、陶磁器は末継が、石器は入木が、他は主として安藤・市野・入木・下村・末継・大重・大田・樋木・原山の9名が実測し、中野が加筆修正をしている。

目 次

第1章 はじめに.....	1
第2章 遺跡の位置と歴史的景観.....	1
第3章 天神免遺跡	
第1節 はじめに.....	4
第2節 基本的層序.....	4
第3節 II～V区の調査	
1. 遺構面の状況と検出遺構.....	6
2. 縄文時代の遺構と遺物.....	6
3. 弥生～古墳時代.....	8
4. 古代～中世.....	30
5. 近世以降.....	44
6. 遺構以外の調査と出土遺物.....	45
7. 追加調査.....	58
第4節 VI～X区	
1. 遺構面の状況と検出遺構.....	59
2. 縄文時代.....	60
3. 弥生～古墳時代.....	69
4. 古代～中世.....	98
5. 近世以降.....	103
第5節 XI～XVII区	
1. 遺構面の状況と検出遺構.....	114
2. 縄文時代.....	117
3. 弥生時代.....	117
4. 弥生～古墳時代.....	120
5. 古代.....	444
6. 近世.....	445
7. その他の出土遺物.....	446
第4章 岡松遺跡	
第1節 はじめに.....	539
第2節 基本的層序.....	539
第3節 発掘調査	
1. 遺構面の状況と検出遺構.....	539
2. 弥生～古墳時代.....	541

3. 古代～中世	582
4. 近世以降の遺構・遺物と自然流路・遺物包含層	584
5. 追確認調査	600
6. 小結び	603
第5章　まとめ	621
付篇1　真幸鉱山と木馬道	629
2　北岡松地区遺跡における蛍光X線分析	633

挿図目次

天神免遺跡

第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡位置図	2
第2図　調査地区割図	5
第3図　II～V区主要遺構分布図	7
第4図　SK-01遺構実測図	8
第5図　SA-01遺構実測図	8
第6図　SA-02遺構実測図	9
第7図　SA-03遺構実測図	9
第8図　SA-04遺構実測図	10
第9図　SA-05遺構実測図	11
第10図　SA-06遺構実測図	12
第11図　SA-07遺構実測図	12
第12図　SA-01～04出土遺物実測図（1）	13
第13図　SA-04出土遺物実測図（2）	14
第14図　SA-04出土遺物実測図（3）、SA-05出土遺物実測図（1）	15
第15図　SA-05出土遺物実測図（2）、SA-06出土遺物実測図	16
第16図　SA-08遺構実測図	17
第17図　SA-09遺構実測図	17
第18図　SA-10遺構実測図	18
第19図　SA-11遺構実測図	19
第20図　SA-12遺構実測図	19
第21図　SA-13遺構実測図	20
第22図　SA-14遺構実測図	21
第23図　SA-15遺構実測図	21
第24図　SA-16遺構実測図	22
第25図　SA-17遺構実測図	22
第26図　SA-07出土遺物実測図（1）	23
第27図　SA-07出土遺物実測図（2）、SA-08・09出土遺物実測図（1）	24

第28図　SA-09出土遺物実測図（2）、SA-10出土遺物実測図（1）	25
第29図　SA-10出土遺物実測図（2）、SA-11出土遺物実測図（1）	26
第30図　SA-11出土遺物実測図（2）	27
第31図　SA-11出土遺物実測図（3）、SA-12・13・15出土遺物実測図（1）	28
第32図　SA-15出土遺物実測図（2）、SA-16・17出土遺物実測図	29
第33図　SK-60遺構実測図	30
第34図　II区SB-01～04遺構実測図	31
第35図　II区SB-05～09、III区SB-01・02、IV区SB-01、V区SB-01遺構実測図	33・34
第36図　II区SR-01・SD-09遺構実測図	36
第37図　SK-16・33・78・96・97・113・125・236・237、IV区SR-03遺構実測	37・38
第38図　II～V区遺構・壁面断面実測図	39・40
第39図　III区SD-15遺構実測図	41
第40図　SZ-03・06遺構実測図	42
第41図　II区SZ-01遺構実測図	43
第42図　SK-01・04・26・33・43・60・89・98・164出土遺物実測図	44
第43図　SD-13～15・18・20・22出土遺物実測図（陶磁器以外）	45
第44図　SR-01～05出土遺物実測図（陶磁器以外）	46
第45図　I・II区II～III層・Pitほか出土遺物実測図	47
第46図　II区II～III層・Pitほか出土遺物実測図（2）	48
第47図　III区SX-01出土遺物実測図（1）	49

第48図 III区 S X-01出土遺物実測図（2）	50	第87図 S A-34遺構実測図	83
第49図 III～IV区 II～III層、S X-01出土遺物実測図	51	第88図 S A-35遺構実測図	84
第50図 II区 S Z-01～04出土遺物実測図（1）	52	第89図 S A-36遺構実測図	85
第51図 S Z-04出土遺物実測図（2）、S Z-05出土 遺物実測図	53	第90図 S A-37遺構実測図	85
第52図 V区 II～III層ほか出土遺物実測図	53	第91図 S A-38遺構実測図	85
第53図 I～V区出土輸入陶磁器青磁実測図	54	第92図 S A-39遺構実測図	86
第54図 I～V区出土輸入陶磁器白磁実測図	54	第93図 S A-40遺構実測図	87
第55図 I～V区出土輸入陶磁器青花実測図	55	第94図 S A-41遺構実測図	87
第56図 I～V区出土近世以降国産陶磁器実測図	56	第95図 S A-42遺構実測図	88
第57図 II-ア～オ区、VI～VII層出土遺物分布図	57	第96図 S A-43遺構実測図	88
第58図 I・II区出土縄文土器実測図	58	第97図 S A-44遺構実測図	89
第59図 II-ア・オ区出土石器実測図	58	第98図 S A-33・34出土遺物実測図（1）	90
第60図 VI～X区遺構分布図	61・62	第99図 S A-34出土遺物実測図（2）、S A-35～38 出土遺物実測図（1）	91
第61図 II・VI・VII区陥し穴遺構実測図（1）	63	第100図 S A-38出土遺物実測図（2）、S A-39・40 出土遺物実測図（1）	92
第62図 VII区陥し穴遺構実測図（2）	64	第101図 S A-40出土遺物実測図（2）、S A-41～43 出土遺物実測図（1）	93
第63図 IX区陥し穴遺構実測図	66	第102図 S A-43出土遺物実測図（2）	94
第64図 S A-18遺構実測図	67	第103図 S A-43出土遺物実測図（3）、S A-44出土 遺物実測図（1）	95
第65図 S A-18出土遺物実測図	68	第104図 S A-44出土遺物実測図（2）	96
第66図 S A-19遺構実測図	69	第105図 S K-660・694遺構実測図	98
第67図 S A-20遺構実測図	69	第106図 IX区 S K-480・482・483・488遺構実測図	99
第68図 S A-21遺構実測図	70	第107図 IX区 S B-01～04遺構実測図	100
第69図 S A-22遺構実測図	70	第108図 VI区 S X-02・S R-03、VII区南東壁断面層 序図	101・102
第70図 S A-23遺構実測図	71	第109図 VII～IX区出土縄文土器実測図	103
第71図 S A-24遺構実測図	71	第110図 S K-332・342・355・387・407・442・ 467・482出土遺物実測図	104
第72図 S A-25遺構実測図	72	第111図 S K-488・515・570・602・644・648・660 出土遺物実測図	105
第73図 S A-26遺構実測図	72	第112図 S D-43・54・62・65・73・79・92・97・ 104出土遺物実測図	105
第74図 S A-20・21・23～26出土遺物実測図	73	第113図 VI区 S X-02・03出土遺物実測図（1）	106
第75図 S A-27遺構実測図	74	第114図 VI～IX区 S X-03出土遺物実測図（2）、S X-04～06出土遺物実測図	107
第76図 S A-28遺構実測図	74	第115図 IX区 S X-06出土遺物実測図（2）、VI区 S Z-09出土遺物実測図	108
第77図 S A-29遺構実測図	75	第116図 VI区 S R-03出土遺物実測図（陶磁器以外）	108
第78図 S A-30遺構実測図	76	第117図 VI～IX区 II～III層・Pitほか出土遺物実測図	109
第79図 S A-31遺構実測図	76	第118図 IX・X区 II～III層・Pitほか出土遺物実測図	110
第80図 S A-32遺構実測図	77		
第81図 S A-33遺構実測図	77		
第82図 S A-28出土遺物実測図（1）	78		
第83図 S A-28出土遺物実測図（2）、S A-29出土 遺物実測図（1）	79		
第84図 S A-29出土遺物実測図（2）、S A-30・31 出土遺物実測図（1）	80		
第85図 S A-31出土遺物実測図（2）	81		
第86図 S A-31出土遺物実測図（3）、S A-32出土 遺物実測図	82		

第119図 VI～IX区出土輸入陶磁器実測図	111	第159図 S A-56出土遺物実測図（2）	149
第120図 VI～X区出土近世以降国産陶磁器実測図（1）	112	第160図 S A-56出土遺物実測図（3）、S A-57出土 遺物実測図（1）	150
第121図 VI～X区出土近世以降国産陶磁器実測図（2）	113	第161図 S A-57出土遺物実測図（2）、S A-58出土 遺物実測図（1）	151
第122図 XI～XVII区遺構分布図	115・116	第162図 S A-58出土遺物実測図（2）	152
第123図 S K-1082遺構実測図	117	第163図 S A-58出土遺物実測図（3）、S A-59・60 出土遺物実測図（1）	153
第124図 S A-45遺構実測図	118	第164図 S A-60出土遺物実測図（2）	154
第125図 S A-45出土遺物実測図（1）	119	第165図 S A-61遺構実測図	155
第126図 S A-45出土遺物実測図（2）	120	第166図 S A-62遺構実測図	156
第127図 S A-46遺構実測図	121	第167図 S A-63遺構実測図	157
第128図 S A-46 1a層出土遺物実測図（1）	122	第168図 S A-64遺構実測図	157
第129図 S A-46 1a層出土遺物実測図（2）	123	第169図 S A-61出土遺物実測図（1）	158
第130図 S A-46 1b層出土遺物実測図（1）	124	第170図 S A-61出土遺物実測図（2）、S A-62出土 遺物実測図（1）	159
第131図 S A-46 1b層出土遺物実測図（2）	125	第171図 S A-62出土遺物実測図（2）、S A-63・64 出土遺物実測図	160
第132図 S A-46 1b層出土遺物実測図（3）	126	第172図 S A-65遺構実測図	161
第133図 S A-46 1b層出土遺物実測図（4）	127	第173図 S A-66遺構実測図	161
第134図 S A-46 1b層出土遺物実測図（5）	128	第174図 S A-67遺構実測図	162
第135図 S A-46 1b層出土遺物実測図（6）	129	第175図 S A-68遺構実測図	163
第136図 S A-46 1b層出土遺物実測図（7）	130	第176図 S A-69遺構実測図	164
第137図 S A-47遺構実測図	130	第177図 S A-70遺構実測図	164
第138図 S A-48遺構実測図	131	第178図 S A-65出土遺物実測図（1）	165
第139図 S A-49遺構実測図	131	第179図 S A-65出土遺物実測図（2）	166
第140図 S A-47～49出土遺物実測図（1）	132	第180図 S A-65出土遺物実測図（3）、S A-66・67 出土遺物実測図（1）	167
第141図 S A-49出土遺物実測図（2）	133	第181図 S A-67出土遺物実測図（2）、S A-68出土 遺物実測図（1）	168
第142図 S A-50遺構実測図	134	第182図 S A-68出土遺物実測図（2）、S A-69・70 出土遺物実測図（1）	169
第143図 S A-50出土遺物実測図（1）	135	第183図 S A-70出土遺物実測図（2）	170
第144図 S A-50出土遺物実測図（2）	136	第184図 S A-71遺構実測図	171
第145図 S A-51遺構実測図	137	第185図 S A-72遺構実測図	172
第146図 S A-52遺構実測図	138	第186図 S A-73遺構実測図	172
第147図 S A-51出土遺物実測図（1）	139	第187図 S A-74遺構実測図	173
第148図 S A-51出土遺物実測図（2）、S A-52出土 遺物実測図	140	第188図 S A-75遺構実測図	174
第149図 S A-53遺構実測図	141	第189図 S A-76遺構実測図	174
第150図 S A-54遺構実測図	141	第190図 S A-77遺構実測図	175
第151図 S A-55遺構実測図	142	第191図 S A-78遺構実測図	176
第152図 S A-56遺構実測図	142	第192図 S A-79遺構実測図	177
第153図 S A-57遺構実測図	143	第193図 S A-80遺構実測図	177
第154図 S A-58遺構実測図	144	第194図 S A-71・72出土遺物実測図（1）	178
第155図 S A-59遺構実測図	145		
第156図 S A-60遺構実測図	146		
第157図 S A-53・54出土遺物実測図（1）	147		
第158図 S A-54出土遺物実測図（2）、S A-55・56 出土遺物実測図（1）	148		

第195図 S A-72出土遺物実測図（2）、S A-73・74 出土遺物実測図（1）	179	第230図 S A-98遺構実測図	212
第196図 S A-74出土遺物実測図（2）	180	第231図 S A-99・100遺構実測図	213
第197図 S A-74出土遺物実測図（3）、S A-75～77 出土遺物実測図（1）	181	第232図 S A-95・96出土遺物実測図（1）	214
第198図 S A-77出土遺物実測図（2）、S A-78 1a 層出土遺物実測図	182	第233図 S A-96出土遺物実測図（2）、S A-97出土 遺物実測図（1）	215
第199図 S A-78 1b層、S A-79・80出土遺物実測図 （1）	183	第234図 S A-97出土遺物実測図（2）、S A-98出土 遺物実測図（1）	216
第200図 S A-80出土遺物実測図（2）	184	第235図 S A-98出土遺物実測図（2）、S A-99出土 遺物実測図（1）	217
第201図 S A-81・S K-810遺構実測図	184	第236図 S A-99出土遺物実測図（2）	218
第202図 S A-82遺構実測図	185	第237図 S A-99出土遺物実測図（3）、S A-100出 土遺物実測図	219
第203図 S A-83遺構実測図	186	第238図 S A-101・103遺構実測図	220
第204図 S A-84遺構実測図	187	第239図 S A-101出土遺物実測図	221
第205図 S A-85・86遺構実測図	188	第240図 S A-102遺構実測図	222
第206図 S A-87遺構実測図	189	第241図 S A-104・105遺構実測図	223
第207図 S A-88遺構実測図	189	第242図 S A-106遺構実測図	224
第208図 S A-89・90遺構実測図	190	第243図 S A-102出土遺物実測図（1）	225
第209図 S A-81・82出土遺物実測図（1）	191	第244図 S A-102出土遺物実測図（2）	226
第210図 S A-82出土遺物実測図（2）、S A-83 1a 層・1b層出土遺物実測図	192	第245図 S A-102出土遺物実測図（3）、S A-103～ 105出土遺物実測図（1）	227
第211図 S A-83 1b層ほか出土遺物実測図、S A-84 出土遺物実測図（1）	193	第246図 S A-105出土遺物実測図（2）	228
第212図 S A-84出土遺物実測図（2）、S A-85出土 遺物実測図（1）	194	第247図 S A-105出土遺物実測図（3）、S A-106出 土遺物実測図（1）	229
第213図 S A-85出土遺物実測図（2）、S A-86・87 出土遺物実測図	195	第248図 S A-106出土遺物実測図（2）	230
第214図 S A-88・89出土遺物実測図（1）	196	第249図 S A-107・108遺構実測図	231
第215図 S A-89出土遺物実測図（2）	197	第250図 S A-109遺構実測図	232
第216図 S A-90出土遺物実測図	198	第251図 S A-110・111遺構実測図	233・234
第217図 S A-91遺構実測図	198	第252図 S A-107出土遺物実測図（1）	235
第218図 S A-92遺構実測図	199・200	第253図 S A-107出土遺物実測図（2）	236
第219図 S A-91出土遺物実測図（1）	201	第254図 S A-107・108、108出土遺物実測図（1）	237
第220図 S A-91出土遺物実測図（2）、S A-92出土 遺物実測図	202	第255図 S A-108出土遺物実測図（2）、S A-109・ 110出土遺物実測図（1）	238
第221図 S A-93遺構実測図	203・204	第256図 S A-110出土遺物実測図（2）	239
第222図 S A-93出土遺物実測図	205	第257図 S A-110出土遺物実測図（3）	240
第223図 S A-94遺構実測図	206	第258図 S A-110出土遺物実測図（4）	241
第224図 S A-94出土遺物実測図（1）	207	第259図 S A-110出土遺物実測図（5）	242
第225図 S A-94出土遺物実測図（2）	208	第260図 S A-110出土遺物実測図（6）	243
第226図 S A-94出土遺物実測図（3）	209	第261図 S A-110出土遺物実測図（7）	244
第227図 S A-95遺構実測図	210	第262図 S A-112遺構実測図	245
第228図 S A-96遺構実測図	211	第263図 S A-113遺構実測図	245
第229図 S A-97遺構実測図	212	第264図 S A-114遺構実測図	246
		第265図 S A-115遺構実測図	247

第266図	S A-116遺構実測図	247
第267図	S A-111・112出土遺物実測図（1）	248
第268図	S A-112出土遺物実測図（2）	249
第269図	S A-112出土遺物実測図（3）、S A-113・ 114出土遺物実測図（1）	250
第270図	S A-114出土遺物実測図（2）	251
第271図	S A-115出土遺物実測図（1）	252
第272図	S A-115出土遺物実測図（2）	253
第273図	S A-117遺構実測図	254
第274図	S A-118遺構実測図	255
第275図	S A-119遺構実測図	255
第276図	S A-120遺構実測図	256
第277図	S A-116・117出土遺物実測図（1）	257
第278図	S A-117出土遺物実測図（2）、S A-118出 土遺物実測図	258
第279図	S A-119・120出土遺物実測図	259
第280図	S A-121遺構実測図	260
第281図	S A-122遺構実測図	261
第282図	S A-123遺構実測図	262
第283図	S A-124遺構実測図	262
第284図	S A-125遺構実測図	263
第285図	S A-126遺構実測図	263
第286図	S A-127遺構実測図	264
第287図	S A-128遺構実測図	265
第288図	S A-129遺構実測図	266
第289図	S A-130遺構実測図	266
第290図	S A-121・122出土遺物実測図（1）	267
第291図	S A-122出土遺物実測図（2）、S A-123出 土遺物実測図（1）	268
第292図	S A-123出土遺物実測図（2）、S A-124・ 125出土遺物実測図（1）	269
第293図	S A-125出土遺物実測図（2）、S A-126出 土遺物実測図（1）	270
第294図	S A-126出土遺物実測図（2）、S A-127・ 128出土遺物実測図（1）	271
第295図	S A-128出土遺物実測図（2）、S A-129・ 130出土遺物実測図	272
第296図	S A-131遺構実測図	273
第297図	S A-132遺構実測図	274
第298図	S A-133遺構実測図	275
第299図	S A-134遺構実測図（XI・XVII区検出図合 成）	276
第300図	S A-135遺構実測図	277
第301図	S A-136遺構実測図	278
第302図	S A-131・132出土遺物実測図（1）	279
第303図	S A-132出土遺物実測図（2）	280
第304図	S A-132出土遺物実測図（3）	281
第305図	S A-132出土遺物実測図（4）、S A-133・ 134出土遺物実測図（1）	282
第306図	S A-134出土遺物実測図（2）	283
第307図	S A-134出土遺物実測図（3）、S A-135・ 136出土遺物実測図（1）	284
第308図	S A-136出土遺物実測図（2）	285
第309図	S A-136出土遺物実測図（3）	286
第310図	S A-137遺構実測図	287
第311図	S A-138遺構実測図	288
第312図	S A-139遺構実測図	289
第313図	S A-140遺構実測図	290
第314図	S A-137出土遺物実測図（1）	291
第315図	S A-137出土遺物実測図（2）	292
第316図	S A-138・139出土遺物実測図（1）	293
第317図	S A-139出土遺物実測図（2）、S A-140出 土遺物実測図	294
第318図	S A-141遺構実測図	295
第319図	S A-142遺構実測図	295
第320図	S A-143遺構実測図	295
第321図	S A-144遺構実測図	296
第322図	S A-145遺構実測図	297
第323図	S A-146遺構実測図	297
第324図	S A-147遺構実測図	297
第325図	S A-141～144出土遺物実測図（1）	298
第326図	S A-144出土遺物実測図（2）、S A-145・ 147出土遺物実測図	299
第327図	S A-148遺構実測図	300
第328図	S A-149遺構実測図	301
第329図	S A-150遺構実測図	302
第330図	S A-148出土遺物実測図（1）	303
第331図	S A-148出土遺物実測図（2）	304
第332図	S A-148出土遺物実測図（3）	305
第333図	S A-148出土遺物実測図（4）、S A-149出 土遺物実測図（1）	306
第334図	S A-149出土遺物実測図（2）、S A-150出 土遺物実測図	307
第335図	S A-151遺構実測図	308
第336図	S A-152遺構実測図	309
第337図	S A-153遺構実測図	310
第338図	S A-154遺構実測図	311
第339図	S A-155遺構実測図	311

第340図	S A-156遺構実測図	312
第341図	S A-157遺構実測図	312
第342図	S A-151出土遺物実測図（1）	313
第343図	S A-151出土遺物実測図（2）、S A-152出土遺物実測図（1）	314
第344図	S A-152出土遺物実測図（2）	315
第345図	S A-152出土遺物実測図（3）、S A-153出土遺物実測図（1）	316
第346図	S A-153出土遺物実測図（2）	317
第347図	S A-153出土遺物実測図（3）	318
第348図	S A-153出土遺物実測図（4）、S A-154～156出土遺物実測図	319
第349図	S A-158遺構実測図	321・322
第350図	S A-159遺構実測図	323
第351図	S A-160遺構実測図	323
第352図	S A-157出土遺物実測図（1）	324
第353図	S A-157出土遺物実測図（2）	325
第354図	S A-157出土遺物実測図（3）	326
第355図	S A-157出土遺物実測図（4）、S A-158出土遺物実測図（1）	327
第356図	S A-158出土遺物実測図（2）、S A-159出土遺物実測図（1）	328
第357図	S A-159出土遺物実測図（2）、S A-160出土遺物実測図	329
第358図	S A-161遺構実測図	330
第359図	S A-162遺構実測図	331
第360図	S A-163遺構実測図	332
第361図	S A-164遺構実測図	332
第362図	S A-165遺構実測図	333
第363図	S A-166遺構実測図	333
第364図	S A-161・162出土遺物実測図（1）	334
第365図	S A-162出土遺物実測図（2）、S A-163出土遺物実測図（1）	335
第366図	S A-163出土遺物実測図（2）	336
第367図	S A-163出土遺物実測図（3）、S A-164出土遺物実測図（1）	337
第368図	S A-164出土遺物実測図（2）、S A-165出土遺物実測図（1）	338
第369図	S A-165出土遺物実測図（2）、S A-166出土遺物実測図	339
第370図	S A-167遺構実測図	340
第371図	S A-168遺構実測図	341
第372図	S A-169遺構実測図	341
第373図	S A-170遺構実測図	342
第374図	S A-167～169出土遺物実測図（1）	343
第375図	S A-169出土遺物実測図（2）、S A-170出土遺物実測図（1）	344
第376図	S A-170出土遺物実測図（2）	345
第377図	S A-171遺構実測図	346
第378図	S A-172遺構実測図	347
第379図	S A-174遺構実測図	347
第380図	S A-171・172出土遺物実測図	348
第381図	S A-175遺構実測図	349
第382図	S A-176遺構実測図	350
第383図	S A-177遺構実測図	350
第384図	S A-178遺構実測図	351
第385図	S A-179遺構実測図	351
第386図	S A-180遺構実測図	352
第387図	S A-174・175出土遺物実測図（1）	353
第388図	S A-175出土遺物実測図（2）	354
第389図	S A-175出土遺物実測図（3）、S A-176出土遺物実測図	355
第390図	S A-177出土遺物実測図（1）	356
第391図	S A-177出土遺物実測図（2）、S A-178出土遺物実測図（1）	357
第392図	S A-178出土遺物実測図（2）、S A-179・180出土遺物実測図	358
第393図	S A-181遺構実測図	359
第394図	S A-182遺構実測図	359
第395図	S A-184遺構実測図	360
第396図	S A-185遺構実測図	360
第397図	S A-186遺構実測図	360
第398図	S A-187遺構実測図	361
第399図	S A-188遺構実測図	361
第400図	S A-189遺構実測図	362
第401図	S A-190遺構実測図	362
第402図	S A-191遺構実測図	363
第403図	S A-192遺構実測図	364
第404図	S A-181・183～187出土遺物実測図（1）	365
第405図	S A-187出土遺物実測図（2）、S A-188・189出土遺物実測図（1）	366
第406図	S A-189出土遺物実測図（2）、S A-190～192出土遺物実測図（1）	367
第407図	S A-193遺構実測図	368
第408図	S A-194遺構実測図	368
第409図	S A-195遺構実測図	369・370
第410図	S A-196遺構実測図	371

第411図 S A-197遺構実測図	372	第445図 S K-852出土遺物実測図（2）、S K-854・ 855出土遺物実測図	411
第412図 S A-192出土遺物実測図（2）、S A-193出 土遺物実測図（1）	373	第446図 S K-859・866・893・898・899・903・916・932・ 942・943・945・947・949出土遺物実測図	412
第413図 S A-193出土遺物実測図（2）	374	第447図 S K-969・972～974・986・988出土遺物実 測図（1）	413
第414図 S A-193出土遺物実測図（3）、S A-194・ 195出土遺物実測図（1）	375	第448図 S K-988出土遺物実測図（2）、S K-1002・ 1003・1009・1010・1014・1017出土遺物実測図	414
第415図 S A-195出土遺物実測図（2）	376	第449図 S K-1017・1018・1025・1042出土遺物実測 図（1）	415
第416図 S A-195出土遺物実測図（3）、S A-196出 土遺物実測図（1）	377	第450図 S K-1042出土遺物実測図（2）、S K-1056・ 1057・1075・1078～1082出土遺物実測図	416
第417図 S A-196出土遺物実測図（2）、S A-197出 土遺物実測図（1）	378	第451図 V区 S B-02、IX区 S B-05・06、XIII区 S B -01遺構実測図	417
第418図 S A-197出土遺物実測図（2）	379	第452図 XIII区 S B-02、XV区 S B-01、XVI区 S B-01 遺構実測図	419
第419図 XIII区出土縄文土器実測図	379	第453図 S D-124・S A-56南側拡張部西壁層序図	420
第420図 S L-01・02出土遺物実測図	380	第454図 仏龕付設座棺墓遺構実測図	421
第421図 S K-712遺構実測図	380	第455図 S D-115・118・120・123・124出土遺物実 測図（陶磁器以外）	422
第422図 S K-846・851遺構実測図	381	第456図 S D-126・128～130・132～135・140・142 ～144出土遺物実測図（陶磁器以外）	423
第423図 S H-01遺構実測図	381	第457図 S D-145～147・149・157・159・161・ 163・166・168・169出土遺物実測図（1）（陶 磁器以外）	424
第424図 01～06号地下式横穴墓遺構実測図	382	第458図 S D-169出土遺物実測図（2）、S D-172出 土遺物実測図（陶磁器以外）	425
第425図 06～12号地下式横穴墓遺構実測図	384	第459図 S D-203・205・208・209出土遺物実測図 (陶磁器以外)	425
第426図 13～17・19号地下式横穴墓遺構実測図	385	第460図 XI区・XII区II～III層・S A-116上IIIc層出 土遺物実測図（1）	426
第427図 20～23号地下式横穴墓遺構実測図	388	第461図 XII区 S A-116上IIIc層出土遺物実測図（2）、 II～III層ほか出土遺物実測図	427
第428図 24～27号地下式横穴墓遺構実測図	390	第462図 XIII区 P P-43・S A-65上IIIc層出土遺物実 測図	428
第429図 S T-02～04・07・12・13・22・24・25出土 遺物実測図	391	第463図 XIII区 II～III層・pitほか出土遺物実測図	429
第430図 片側小口付設土坑遺構実測図（1）	392	第464図 XIII・XIV区 II～III層ほか出土遺物実測図	430
第431図 片側小口付設土坑遺構実測図（2）	394	第465図 XIV区 II～III層ほか出土遺物実測図	431
第432図 片側小口付設土坑遺構実測図（3）	396	第466図 XV区 II層・P P-14上SKほか出土遺物実 測図	432
第433図 片側小口付設土坑遺構実測図（4）	397	第467図 XV区IIIc層出土遺物実測図（1）	433
第434図 S K-712・715・721出土遺物実測図	398	第468図 XV区IIIc層出土遺物実測図（2）	434
第435図 円形・楕円形土坑遺構実測図（1）	399		
第436図 円形・楕円形土坑遺構実測図（2）	400		
第437図 S K-722・729・730出土遺物実測図	401		
第438図 S K-840・859・943・1043・1044・1075遺 構実測図	403		
第439図 S K-973・1002・1018・1022・1055・1057 遺構実測図	404		
第440図 S K-866・1081遺構実測図	406		
第441図 S K-894・898遺構実測図	407		
第442図 S K-731・735・736・739・741・756・760 ・762・771・774出土遺物実測図	408		
第443図 S K-809・810・818・821・829・833・839 ・840出土遺物実測図	409		
第444図 S K-846・849・852出土遺物実測図（1）	410		

第469図	XV区III c層出土遺物実測図（3）	435	陶磁器実測図	440	
第470図	XV区III c層出土遺物実測図（4）	436	第476図	S L-01出土剥片 接合資料1	440
第471図	XV区III c層ほか出土遺物実測図	437	第477図	S L-01出土剥片 接合資料1の剥片、接合 資料2と剥片	441
第472図	XVI区III c層出土遺物実測図（1）	438	第478図	S L-01出土剥片 接合資料3、石核と剥片	442
第473図	XVI区III c層出土遺物実測図（2）	439			
第474図	XVII区III層ほか出土遺物実測図	440	第479図	S L-01出土剥片 接合資料4と剥片	443
第475図	XII～XVI区出土輸入陶磁器・近世以降国産				

岡松遺跡

第1図	I～III区遺構分布状態	540	第32図	S A-22遺構実測図	566
第2図	S A-01遺構実測図	541	第33図	S A-23遺構実測図	567
第3図	S A-02遺構実測図	541	第34図	S A-21出土遺物実測図	568
第4図	S A-03遺構実測図	542	第35図	S A-21出土遺物実測図（2）、S A-22出土 遺物実測図（1）	569
第5図	S A-04遺構実測図	542	第36図	S A-22出土遺物実測図（2）	570
第6図	S A-05遺構実測図	543	第37図	S A-22出土遺物実測図（3）、S A-23出土 遺物実測図	571
第7図	S A-06遺構実測図	544	第38図	S A-24遺構実測図	572
第8図	S A-07遺構実測図	544	第39図	S A-24出土遺物実測図	573
第9図	S A-08遺構実測図	545	第40図	S A-25遺構実測図	574
第10図	S A-09遺構実測図	545	第41図	S A-26遺構実測図	575
第11図	S A-10遺構実測図	546	第42図	S A-27遺構実測図	576
第12図	S A-01～03出土遺物実測図（1）	547	第43図	S A-25・26出土遺物実測図（1）	577
第13図	S A-03出土遺物実測図（2）	548	第44図	S A-26出土遺物実測図（2）、S A-27出土 遺物実測図（1）	578
第14図	S A-03出土遺物実測図（3）、S A-04・05 出土遺物実測図（1）	549	第45図	S A-27出土遺物実測図（2）	579
第15図	S A-05出土遺物実測図（2）、S A-06出土 遺物実測図（1）	550	第46図	S A-28遺構実測図	580
第16図	S A-06出土遺物実測図（2）、S A-08～10 出土遺物実測図	551	第47図	S A-28出土遺物実測図	581
第17図	S A-11遺構実測図	552	第48図	S T-01・02遺構実測図	582
第18図	S A-11出土遺物実測図	553	第49図	S U-01・02遺構実測図	582
第19図	S A-12遺構実測図	554	第50図	S K-30・52・53・62・74・78遺構実測図	583
第20図	S A-13遺構実測図	555	第51図	S T-01、S U-01・02、S K-52・53・74・ 78・出土遺物実測図	584
第21図	S A-14遺構実測図	555	第52図	S X-01・S Z-01・II区深掘坑断面層序図、 S R-01遺構実測図、S R-03断面図	585・586
第22図	S A-15遺構実測図	557・558	第53図	S K-24・34・40・75・77・95・98・119・ 126・141・177、S E-01出土遺物実測図（陶磁 器以外）	587
第23図	S A-16遺構実測図	559	第54図	S R-01・02、S D-01・08・09・14・18・19 出土遺物実測図（1）	588
第24図	S A-17遺構実測図	559	第55図	S D-19出土遺物実測図（2）、S D-23・26・ 28・29・32～34出土遺物実測図（陶磁器以外）	589
第25図	S A-18遺構実測図	560			
第26図	S A-19遺構実測図	560			
第27図	S A-20遺構実測図	561			
第28図	S A-12～16出土遺物実測図（1）	562			
第29図	S A-16出土遺物実測図（2）、S A-17・18 出土遺物実測図	563			
第30図	S A-19・20出土遺物実測図	564			
第31図	S A-21遺構実測図	565			

第56図 II～III区 S U-01・02周辺・S A内攪乱ほか出土遺物実測図	590
第57図 II A区 S X01-1 (IIIa) 層出土遺物実測図 (1)	591
第58図 II A区 S X01-1 (IIIa) 層出土遺物実測図 (2)、II B区 (1)	592
第59図 II B区 S X01-1 (IIIa) 層出土遺物実測図 (2)	593
第60図 II B区 S X01-1 (IIIa) 層出土遺物実測図 (3)	594
第61図 II B区 S X-01-1・2層、S Z-01-1層出土遺物実測図 (1)	595
第62図 S Z-01-1層出土遺物実測図 (2)、同2～4層出土遺物実測図	596
第63図 S Z-01-4層出土遺物実測図 (1)	597
第64図 S Z-01-4層出土遺物実測図 (2)	598
第65図 I・II区 II～III層・pitほか出土遺物実測図	599
第66図 I～III区出土輸入陶磁器実測図	600
第67図 I～III区出土近世国産陶磁器実測図 (1)	601
第68図 I～III区出土近世国産陶磁器実測図 (2)	602
第69図 I～III区出土近世国産陶磁器実測図 (3)	603

付

1. II～V区 遺構分布図
2. VI区 遺構分布図
3. VII区 遺構分布図
4. VIII～X区 遺構分布図
5. XI・XII・XVII区 遺構分布図

図

6. XIII・XIV区 遺構分布図
7. XV区 遺構分布図
8. XIV区 遺構分布図
9. 岡松遺跡 I～III区 遺構分布図

表 目 次

天神免遺跡

表1 出土遺物観察表 (1)	447
表2 出土遺物観察表 (2)	448
表3 出土遺物観察表 (3)	449
表4 出土遺物観察表 (4)	450
表5 出土遺物観察表 (5)	451
表6 出土遺物観察表 (6)	452
表7 出土遺物観察表 (7)	453
表8 出土遺物観察表 (8)	454
表9 出土遺物観察表 (9)	455
表10 出土遺物観察表 (10)	456
表11 出土遺物観察表 (11)	457
表12 出土遺物観察表 (12)	458
表13 出土遺物観察表 (13)	459
表14 出土遺物観察表 (14)	460
表15 出土遺物観察表 (15)	461
表16 出土遺物観察表 (16)	462
表17 出土遺物観察表 (17)	463
表18 出土遺物観察表 (18)	464
表19 出土遺物観察表 (19)	465
表20 出土遺物観察表 (20)	466
表21 出土遺物観察表 (21)	467

表22 出土遺物観察表 (22)	468
表23 出土遺物観察表 (23)	469
表24 出土遺物観察表 (24)	470
表25 出土遺物観察表 (25)	471
表26 出土遺物観察表 (26)	472
表27 出土遺物観察表 (27)	473
表28 出土遺物観察表 (28)	474
表29 出土遺物観察表 (29)	475
表30 出土遺物観察表 (30)	476
表31 出土遺物観察表 (31)	477
表32 出土遺物観察表 (32)	478
表33 出土遺物観察表 (33)	479
表34 出土遺物観察表 (34)	480
表35 出土遺物観察表 (35)	481
表36 出土遺物観察表 (36)	482
表37 出土遺物観察表 (37)	483
表38 出土遺物観察表 (38)	484
表39 出土遺物観察表 (39)	485
表40 出土遺物観察表 (40)	486
表41 出土遺物観察表 (41)	487
表42 出土遺物観察表 (42)	488
表43 出土遺物観察表 (43)	489

表44	出土遺物観察表 (44)	490	表86	出土遺物観察表 (86)	530
表45	出土遺物観察表 (45)	491	表87	出土遺物観察表 (87)	531
表46	出土遺物観察表 (46)	492	表88	出土遺物観察表 (88)	532
表47	出土遺物観察表 (47)	493	表89	出土遺物観察表 (89)	533
表48	出土遺物観察表 (48)	494	表90	出土遺物観察表 (90)	533
表49	出土遺物観察表 (49)	495	表91	出土遺物観察表 (91)	533
表50	出土遺物観察表 (50)	496	表92	出土遺物観察表 (92)	534
表51	出土遺物観察表 (51)	497	表93	出土遺物観察表 (93)	535
表52	出土遺物観察表 (52)	498	表94	出土遺物観察表 (94)	536
表53	出土遺物観察表 (53)	499	表95	出土遺物観察表 (95)	537
表54	出土遺物観察表 (54)	500			
表55	出土遺物観察表 (55)	501			
表56	出土遺物観察表 (56)	502			
表57	出土遺物観察表 (57)	503			
表58	出土遺物観察表 (58)	504			
表59	出土遺物観察表 (59)	505			
表60	出土遺物観察表 (60)	506			
表61	出土遺物観察表 (61)	507			
表62	出土遺物観察表 (62)	508			
表63	出土遺物観察表 (63)	509			
表64	出土遺物観察表 (64)	510			
表65	出土遺物観察表 (65)	511			
表66	出土遺物観察表 (66)	512			
表67	出土遺物観察表 (67)	513			
表68	出土遺物観察表 (68)	514			
表69	出土遺物観察表 (69)	515			
表70	出土遺物観察表 (70)	516			
表71	出土遺物観察表 (71)	517			
表72	出土遺物観察表 (72)	518			
表73	出土遺物観察表 (73)	519			
表74	出土遺物観察表 (74)	520			
表75	出土遺物観察表 (75)	521			
表76	出土遺物観察表 (76)	522			
表77	出土遺物観察表 (77)	523			
表78	出土遺物観察表 (78)	524			
表79	出土遺物観察表 (79)	525			
表80	出土遺物観察表 (80)	526			
表81	出土遺物観察表 (81)	527			
表82	出土遺物観察表 (82)	527			
表83	出土遺物観察表 (83)	528			
表84	出土遺物観察表 (84)	528			
表85	出土遺物観察表 (85)	529			

岡松遺跡

表 1	出土遺物観察表 (1)	605
表 2	出土遺物観察表 (2)	606
表 3	出土遺物観察表 (3)	607
表 4	出土遺物観察表 (4)	608
表 5	出土遺物観察表 (5)	609
表 6	出土遺物観察表 (6)	610
表 7	出土遺物観察表 (7)	611
表 8	出土遺物観察表 (8)	612
表 9	出土遺物観察表 (9)	613
表10	出土遺物観察表 (10)	614
表11	出土遺物観察表 (11)	615
表12	出土遺物観察表 (12)	616
表13	出土遺物観察表 (13)	617
表14	出土遺物観察表 (14)	617
表15	出土遺物観察表 (15)	617
表16	出土遺物観察表 (16)	618
表17	出土遺物観察表 (17)	619
表18	出土遺物観察表 (18)	619
表19	出土遺物観察表 (19)	620

第5章 まとめ

表 1	天神免遺跡竪穴住居一覧 (1)	624
表 2	天神免遺跡竪穴住居一覧 (2)	625
表 3	天神免遺跡竪穴住居一覧 (3)	626
表 4	天神免遺跡竪穴住居一覧 (4)	627
表 5	岡松遺跡竪穴住居一覧	628
表 6	地下式横穴墓の玄室規模と被葬者 (推定)	628

第1章 はじめに

平成12年、本市の西端、川内川に注ぐ白川右岸の段丘面に立地する北岡松地区の広大な圃場45haに区画整理が計画、採択された。一帯は周知の遺跡であり、縄文時代の石皿や奈良時代の蔵骨器などが採取されているため、様々な遺構・遺物を包蔵していることは容易に推測された。このため、県文化課によって平成13年度に小規模な第1次試掘調査が実施され、広範囲で遺構・遺物が確認された。

平成15年度から、西諸兼農林振興局・県文化課・本市耕地課および社会教育課の4者による協議を重ね、同年12月中旬、県文化課による第2次試掘調査が実施され、調査対象地が約80,000m²という概算が出された。⁽¹⁾ 平成16年2月の再協議において、遺構面まで20~40cmと浅いため、切り盛りの設計変更は不可能であることから、全面調査が必至となった。同年5月の協議では、工事計画図との照合によって調査面積が約60,000m²あり対応不可能であることから、3ヶ年に分割する方策をとることにした。7月上旬、工事の影響を受ける天神免遺跡52,710m²と岡松遺跡4,580m²を調査地として決定し、天神免遺跡をI~XV区に、岡松遺跡をI・II区に仮設定した。8月上旬、最終的協議を行い、I~V区10,560m²を平成16年度に、VI~X・XIII区24,870m²を平成17年度に、残り21,860m²を平成18年度に調査し、整理作業～本報告書刊行を平成19・20年度にかけて実施する計画で合意した。平成17年度は、VI~X区のほか、次年度の排土置き場と駐車場等に使用する用地確保のためにXIII区の先行調査を実施した。

平成18年度、調査にはいるとすぐに、岡松遺跡の調査は19年度に変更してほしいとの依頼があり、承諾した。また、XII区の北西側200m²について追加工事の依頼もあり、XIV区として調査を実施した。

平成19年度途中には、事業が22年度まで延びるとの通知を受け、本報告書刊行を21年度に変更し、整理作業～原稿作成に若干の余裕ができることとなった。

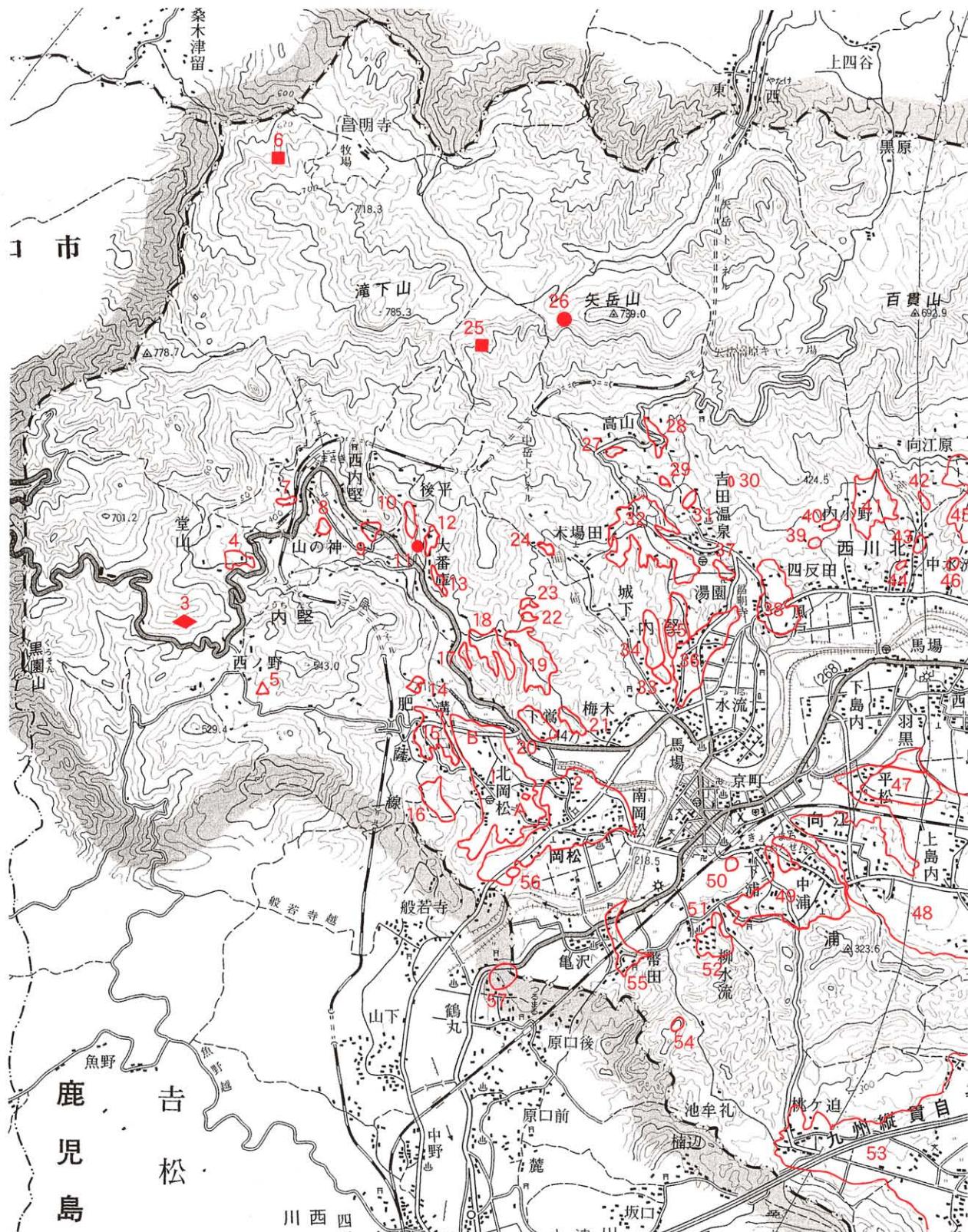
註

(1) 宮崎県教育委員会『平成15年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書』2004

第2章 遺跡の位置と歴史的環境（第1図）

天神免遺跡は、えびの市大字岡松字天神免、取添、朴ノ木、蓮花寺、枯木ヶ迫、七曲の広大な段丘に立地する。平成11年度の第1次調査地（A）は、遺跡の中央やや南寄り、字蓮花寺内の杉林の一角163m²であり、古墳時代の竪穴住居1軒と地下式横穴墓1基を検出した。⁽¹⁾ 平成16~19年度の調査地は、字取添・天神免地内にあたり、氾濫源との比高約20m、標高250~262mの南向きの緩斜面に立地する。

遺跡内には、奈良時代と推定される蓮花寺跡（B）があるが、寺域や伽藍配置等の詳細は不明である。白川を挟んだ対岸には、古墳時代前期の集落（県文化課による試掘調査で判明）下鳶遺跡（20）が立地する。白川の左岸には、鹿児島県大口市へ抜ける旧道があり、熊本県人吉市方面へと分岐する地点「大番庫」には近世の番所が設置されていた。19世紀中頃、当地の北西部（3）から良質の



1 : 天神免遺跡 A : 第一次調査区 B : 蓮花寺遺跡 2 : 岡松遺跡 3 : 鉄鉱石探掘跡 4 : 大河平第1遺跡 5 : 西ノ野第1遺跡 6 : 桑ノ木津留遺跡 黒曜石原産地 7 : 大河平第2遺跡 8 : 大河平第3遺跡 9 : 大河平第4遺跡 10 : 大河平第5遺跡 11 : 鉄鉱石精練所跡 12 : 後平第1遺跡 13 : 後平第2遺跡 14 : 松尾遺跡 15 : 宮ノ平遺跡 16 : 垣傍遺跡 17 : 瀬戸口遺跡 18 : 山王前遺跡 19 : 田平第1遺跡 20 : 下鶯遺跡 21 : 牛ヶ迫遺跡 22 : 田平第2遺跡 23 : 田平第3遺跡 24 : 田平木場田遺跡 25 : 砥石木場 26 : 矢岳第4遺跡 27 : 矢岳第2遺跡 28 : 矢岳第1遺跡 29 : 矢岳第3遺跡 30 : 山王第2遺跡 31 : 山王第1遺跡 32 : 高山遺跡 33 : 油田遺跡 34 : 松尾城跡 35 : 杉尾城跡 36 : 丸ノ尾城跡 37 : 明昌寺遺跡 38 : 風戸遺跡 39 : 老松田遺跡 40 : 西小原遺跡 41 : 内小野遺跡 42 : 芽刈遺跡 43 : 宮ノ東遺跡 44 : 東福城跡 45 : 寺園遺跡 46 : 新城跡 47 : 島内地下式横穴墓群 48 : 島内遺跡 49 : 中浦遺跡 50 : 德永牟田遺跡 51 : 古城跡 52 : 古城遺跡 53 : 岡元遺跡 54 : 猿ヶ城跡 55 : 幣田遺跡 56 : 赤花城跡(消滅) 57 : 鶴丸・馬場地下式横穴墓群(鹿児島県吉松町)

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡位置図 (1:50,000)

鉄鉱石が発見され、荷車に鉱石を積んで牛馬に引かせ川まで運んで船と陸路で薩摩藩の精錬所まで運んだらしい。安政5年（1858）には閉山となつたが、明治33年から地元に精錬所が建設され（11）、5年間操業した。⁽²⁾ 天神免遺跡Ⅷ区では、木場道の跡を検出している。

遺跡の5km北西部、県境付近の桑ノ木津留（6）では良質の黒曜石を産出し、後期旧石器時代から利用され縄文時代には県内外広範囲に流通している。その山塊が洪積世末期に削られ運搬されたと思われる天神免遺跡の地層から数mm～1・2cm大の原石が出土する。遺跡の北3.7kmの矢岳第4遺跡（26）においてはナイフ型石器や細石刃・細石刃核が採取されている。⁽³⁾

遺跡の1.8km北東には9世紀後半の荷札木簡や越州窯青磁が出土した昌明寺遺跡（37）、その東には弥生時代後期～古墳時代の大規模集落である内小野遺跡（41）と古屋敷遺跡（内小野遺跡の東1.5km）が立地する。その2km対岸には、短甲や冑・蛇行剣・骨鏃ほか多くの武器・武具が出土している島内地下式横穴墓群（47）が立地する。1.2km南西には鶴丸・馬場地下式横穴墓（鹿児島県湧水町）（57）が立地し、墓地としては最も近い。3.7km北東部には「砥石木場」と称される所（25）があり、明治～昭和初期頃、砥石を切り出して販売していたという話を聞いて踏査したところ、天草砥石に近似した石材を確認した。当地あたりから西の県境にかけては陶石（カオリン）が産出し、半磁器の原料として近代に利用されたが鉄分がやや多く肥前産に比べると質が劣り、利用されなくなった。陶石の岩脈は、風化・粘土化したものから硬質な岩まで様々で、露頭点在している。砥石木場はちょうど硬質泥岩に近似する硬度に風化した岩石が産出する極地点にあたると推定される。このたびの発見により、古墳時代の内小野遺跡100・102号住居や古屋敷遺跡46号住居、包含層、近現代の遺構などから出土した泥岩質の砥石は天草産ではなく、砥石木場産である可能性が強くなつた。

字天神免地区においては、昭和10年（1935）、白川の上流から水路を掘削し、広範囲に水田が営まれ始めた。それ以前は、谷水を利用した水田が僅かにあつただけで、ほとんどは畠だったらしい。しかも約10年前・30年前には個人で2～4枚の小区画を大区画に造成されたという区画が多く、地下水の遺構が相当の削失を受けている。

註

（1）えびの市教育委員会『天神免遺跡』2000

（2）原田葉風（利盛）「真幸鉱山史」『えびの』2号　えびの史談会1971

岡田広吉「宮崎県真幸鉱山—明治の高炉製鉄所—」『昭和57年度全国地下資源関係学協会合同秋季大会分科研究会資料』　社団法人日本鉱業会1982

飯田賢一「近代製鉄技術史上の佐賀・薩摩藩」『トヨタ財團助成研究報告書』III-024 1985

（3）藤木聰「宮崎県えびの盆地の旧石器」『九州旧石器』第7号　九州旧石器文化研究会2003

第3章 天神免遺跡

第1節 はじめに

I区は、約20年前に地権者が造成したらしく、1m前後の削平を受けており、工事掘削の影響も無いことから、造成整地土（II層）の途中で機械掘削を止めた。そのためI区は、I～II層から出土した少量の遺物を採取しただけである。

II区以降は、調査年次と区割りの枠を越え、II～V区、VI～X区、XI区～XVII区に分けて時代を追って報告する。なお、航空写真および航空測量終了後に調査したII区内のア～オ区については、その節の最後に述べる。

柱穴と搅乱以外の個別遺構は、混乱を避けるため区分けせずに、検出順に通し番号を付けているので、区割りよりも遺構番号を優先させて報告する。

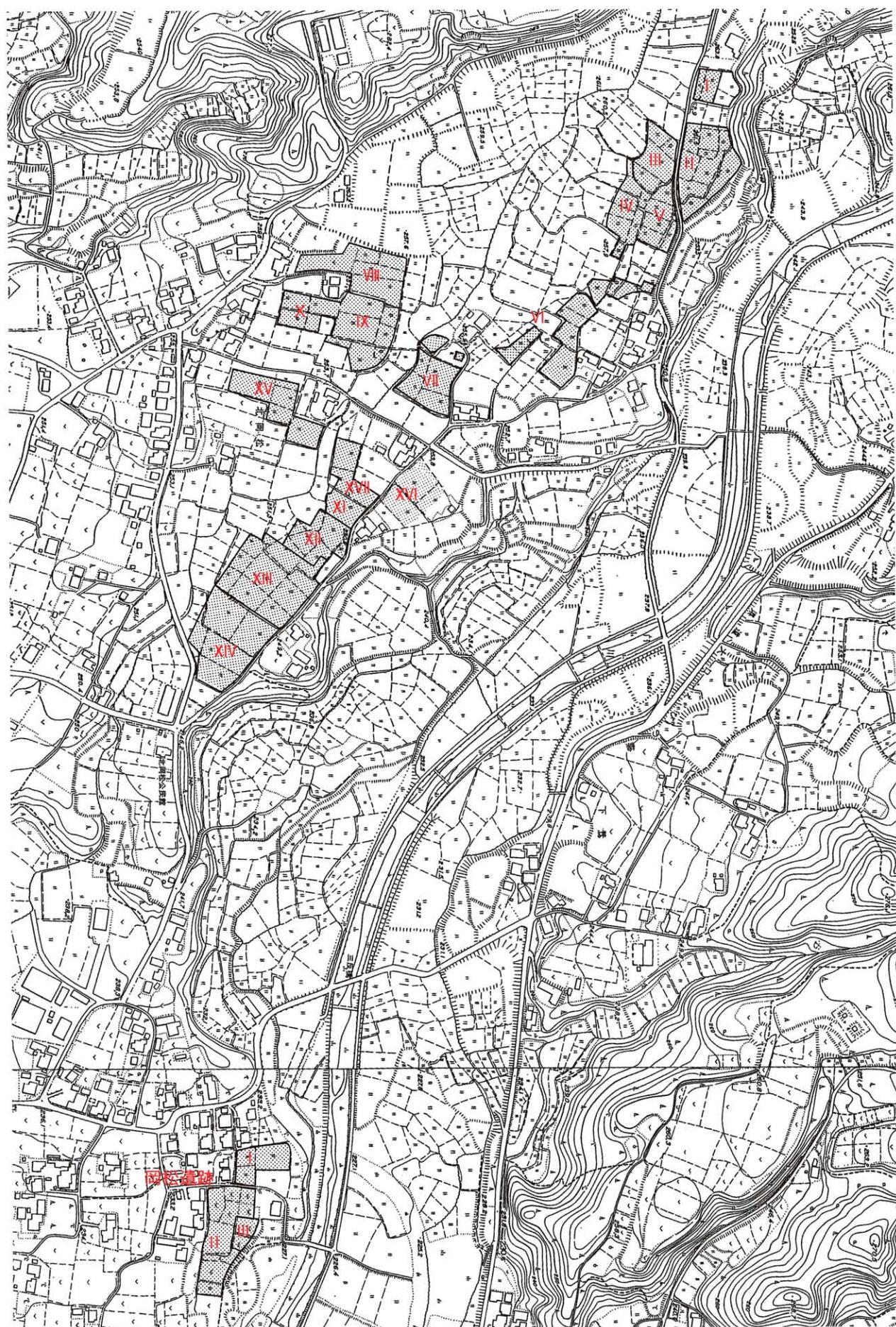
第2節 基本的層序

層序は、上からI層：暗灰色土（水田耕作土）、II層：床土・造成土・近世以降の土層、III層：黒灰色（a）～黒褐色（b）～灰色（c）土（中世～古代）、黒灰色（d：aと酷似）～黒褐色（e：bと酷似）土（古墳～縄文）、IV層：アカホヤ火山灰（a：2次堆積土、b：本体）、V層：黒灰色土、VI層：茶褐色粘質土、VII層：黄褐色粘質土、VIII層：淡黄白色粘質土もしくは砂礫層、IX層：入戸火碎流（シラス）に分別した。V層は部分的に流失したり、土石流になったり様々な様相を呈する。VII・VIII層の礫の主体は、加久藤溶結凝灰岩・安山岩の亜角礫や河原石に珪化凝灰岩や堆積岩も混じる。

厳密には、座棺墓を主とする近世～現代の墓や水田に関係する溝などが掘り込まれたII層上面のほか、中世のIIIa層上面、古代のIIIc層上面、古墳～弥生時代のIId・Ile層上面、縄文時代前期のIVa層上面、といった5面の遺構面があるが、近現代の開墾や造成によって著しく削失を受けている割合が高い。このため、殆どの地区の弥生時代以降の遺構は1面で検出している。

I・II区の表土剥ぎの際、II区の東の低地へ運ぶ為に斜面を削った際、VII～VIII層にかけて親指大から人頭大の珪化凝灰岩の原石や石核状・剥片状のものが大量に含まれていたが、非常に硬い石材であること、石器の製品も発見されていないことなどから、擬石器であると考え、調査対象にしていない。

IIIb層とIIIe層の区別は困難で、旧谷や凹部の比較的厚く堆積している所でしか判断できない。段丘砂礫層内には加久藤溶結凝灰岩～安山岩も含み、竪穴住居から出土する台石は近隣から運搬してきたものと推定される。



第2図 調査地区割図 (1 : 5,000、右が北)

第3節 II～V区の調査

1. 遺構面の状況と検出遺構

II区は、4～8m間隔でⅧ層の起伏があり、段丘の北縁斜面のみ遺物包含層（S Z-04・05）が遺存していた。IVb層は、プライマリーであれば30～40cmの厚さがあるが、5～10cm程度までに削失している。また、調査区の半分程度においてⅦ～Ⅸ層が露出し、相当数の遺構が削失していると推定される。北西部は近現代の柱穴が多く、中央北側と南側は中世の柱穴が集中し、縄文時代の土坑や陥し穴、古墳時代の竪穴住居が散在する。東端斜面には古代～中世の小路が走り、北東部と南東部には2～4基の近世～近現代の座棺墓が縦列する。中世には、居住のための造成（削平）が行われたことが推測される。

III～V区は幅30m前後の緩やかな凹凸面で形成されているが、III区西端部と北側、V区北側が著しく削平されている。中央部（現代珪畔と水路の未掘部分を含む）には中世以降の水路と道路跡が重複し、IV区北中央部～V区西南部にかけては中世の柱穴と柱穴状小pitが集中する。弥生時代後期～古墳時代後期の竪穴住居は、一部重複するものの分布密度は低い。10号住居の南東側には凹地の黒色帶（S X-01）に相当量の遺物が包蔵していた。V区の北東部には、座棺墓80基あまりが密集している。

2. 縄文時代の遺構と遺物

円形土坑1基と陥し穴4基を検出した。

S K-01（第4図）

1号住居の2m南東に位置する、長径1.1m・短径0.97mの楕円形を呈する土坑で、6～10cmの基底部が遺存する。覆土から、縄文時代晩期の深鉢片（第32図-234）のほか、石匙のミニチュア状石器（第42図-237）などが出土したほか、上面では土師器片（第42図-238）が混入している。土層的には、50～60cm程度の上部削失を受けていると思われる。

S K-37（第61図）

II区東半中央寄りで検出した、長径1.18m・短径0.84mの楕円形を呈し、検出面からの深さは60cmを測る。土層的には、20cm程度を削失し、覆土は黒灰～黒褐色の堅く締まった土で、中央には、直径18cm・深さ34cmの先細りのsmall pitが穿たれている。出土遺物は無い。

S K-58（第61図）

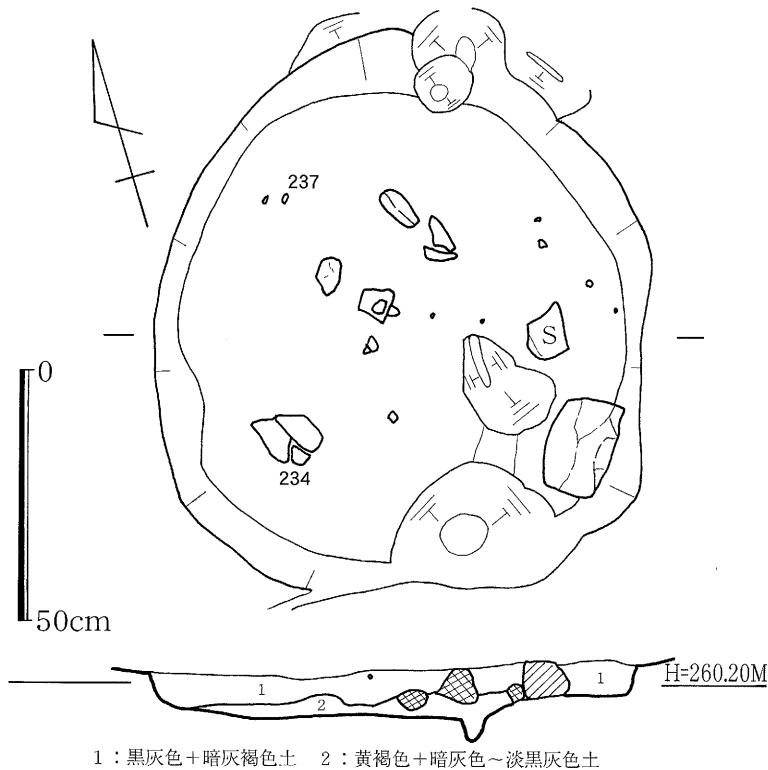
S K-37の北東6mで検出した、長径1.07m・短径0.88mの楕円形を呈し、検出面からの深さは56cmを測る。土層的には、20cm程度を削失していると思われる。覆土は堅く締まった黒灰色土で、中央には尖頭杭を入れたと思われる直径20cm・深さ46cmのpitが穿たれている。出土遺物は無い。

S K-94（第61図）

II区東端の傾斜変換部に並行する主軸方位で検出した、長径1.19m・短径0.72mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは80cmを測る。土層的には、30cm程度の削失が推定され、覆土は黒灰～黒褐色の堅く締まった土で、底面には直径6cm前後・深さ7～17cmのsmall pit（木杭刺し込み痕）が9個確



第3図 II～V区 地区割りと主要遺構分布図



第4図 SK-01 遺構実測図 アミ目はIV層塊

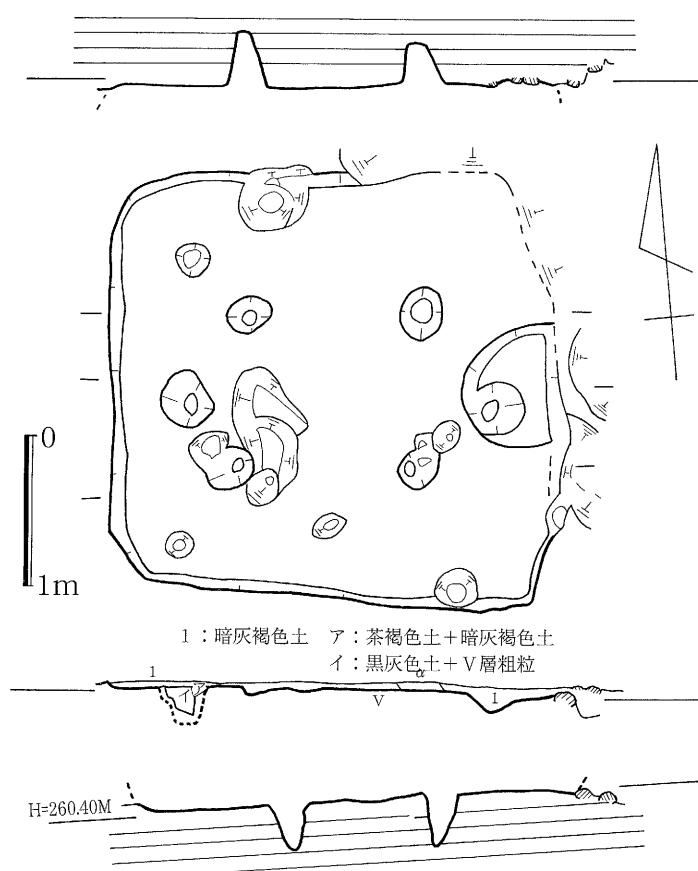
認された。出土遺物は無い。

S K -95 (第61図)

S K -37の13m南西で検出した長径1.13m・短径0.72mの楕円形を呈し、検出面からの深さは53cmを測る。土層的には20cm程度を削失し、覆土は黒褐色～暗灰褐色の堅く締まった土で、中央には長径17cm・短径13cm・深さ24cmのpitが穿たれ、東側には長径7cm・深さ5cmの小pit1のほか、直径6cm前後・深さ2cmの小pit状凹みが2個検出された。出土遺物は無い。

遺構以外の出土遺物

後晩期を中心に、少量の土器片と打製石鏃が出土している。



第5図 SA-01 遺構実測図

3. 弥生～古墳時代

円形基調の間仕切り住居1軒や間仕切りの名残がある円形住居、方形基調の間仕切りの名残がある住居、方形～長方形の住居13軒などの他、小型の地下式横穴墓1基、円形土坑数基を検出した。

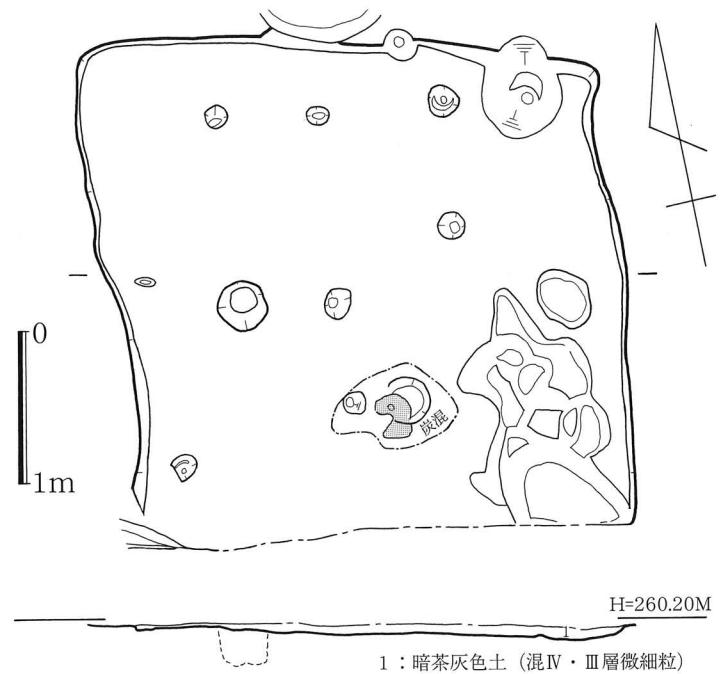
S A -01 (第5図)

II区の東寄り中央部に位置した東西3.0m・南北2.8mの隅円方形を呈する住居で、基底部4cmが遺存していた。土層的には、50cm程度の削失が想定される。主柱穴は4本で、直径21～35cm・深さ26～38cmのものが1～1.1m間隔で配置されている。貼り床は無く、東辺中央には深さ2～3cmの半円形土坑がある。出土遺物は少なく、土師器片15点と石器2点が出土したが、図化できたのは僅かである。

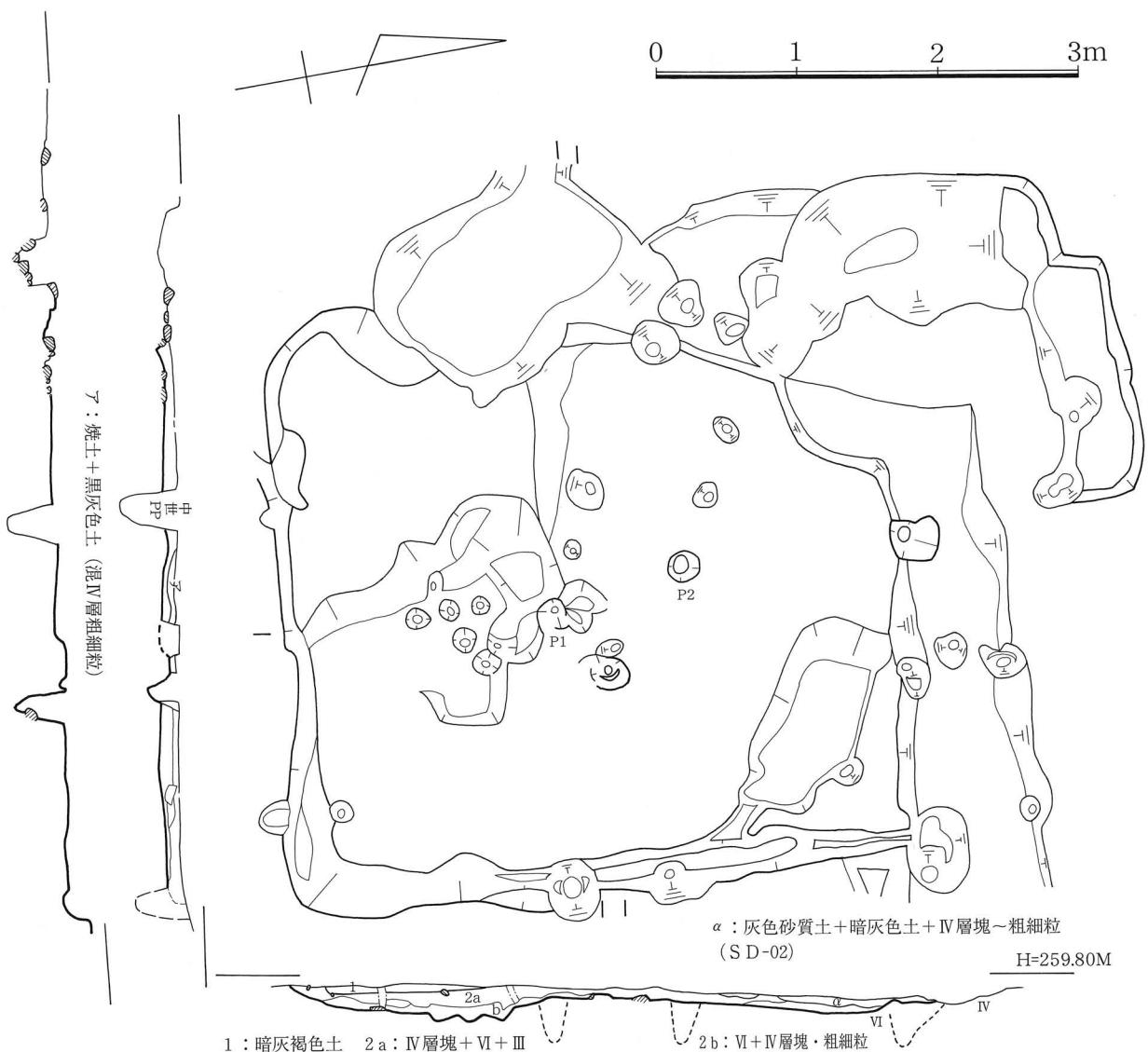
5世紀代と思われる。

S A-02 (第6図)

II区南辺中央部で検出した、東西3.24~3.4m・南北3.4m以上の住居で、基底部4cmほどが遺存し、土層的には40~50cmの削失が想定される。北から2.3mの位置には掘り込み炉(直径30~32cm・深さ2~3cm)と焼土・炭が検出されたことから、長方形プランの可能性が高い。主柱穴は、不明瞭である。出土遺物は少なく、土師器片15点が出土し3点図化できた。6世紀前半頃か。



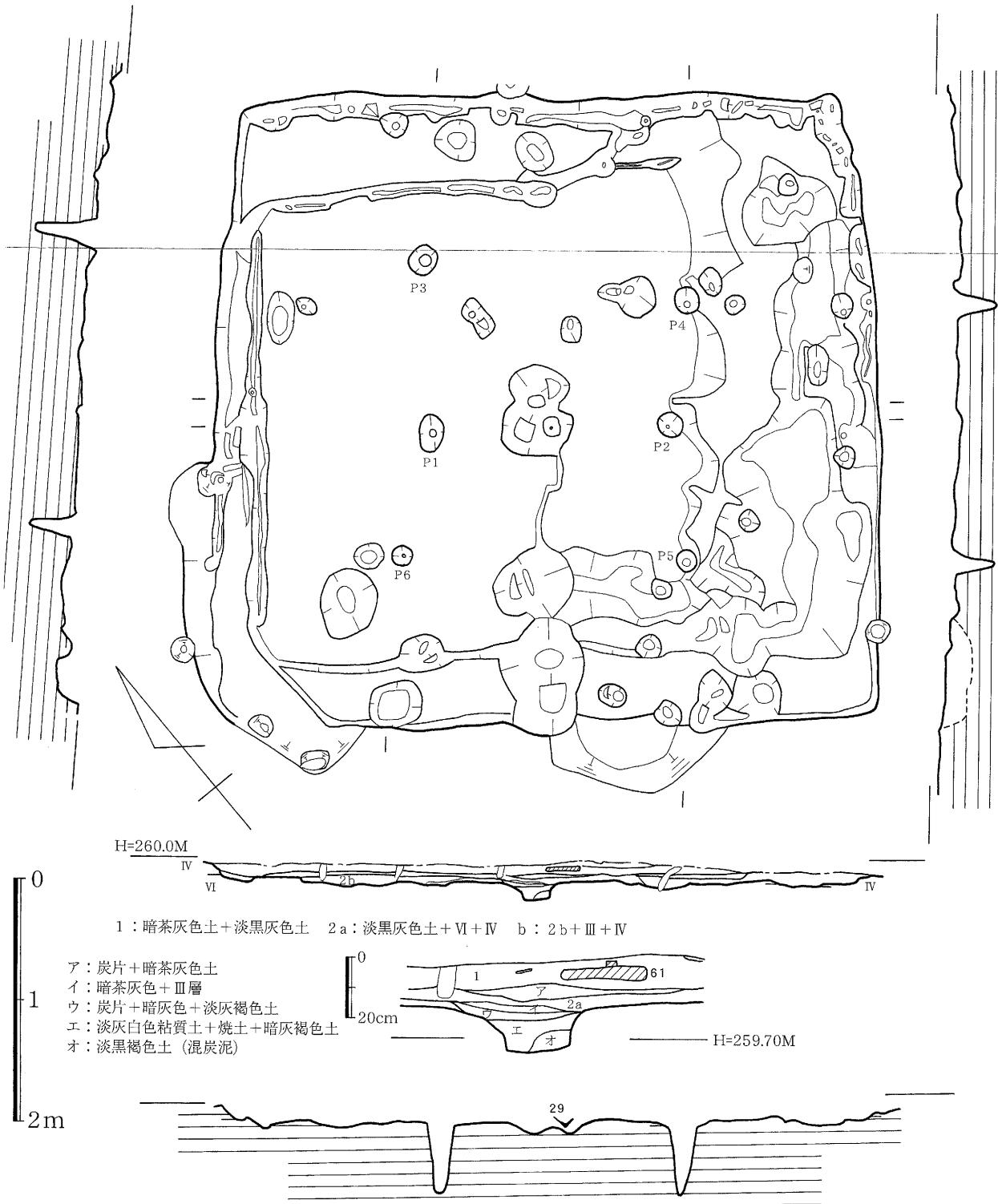
第6図 S A-02 遺構実測図 アミ目は焼土



第7図 S A-03 遺構実測図

S A-03 (第7図)

II区中央付近で検出した、東西4.3m前後・南北5m前後の隅円方形を呈する住居で、北東部は幅1mで張り出す可能性がある。南中央部に厚さ6cm程の覆土が遺存し、土層的には40~50cm程の削失が想定される。貼り床は10~24cmあり、主柱穴は1.3m間隔の2本(P1・P2)で、直径30~32cm・深さ35cmを測る。東辺には深さ10cm内外の壁溝が残る。覆土(1層)から土師器の小片が71点、貼り床土(2層)から24点出土し、7点が図化できた。5世紀前半頃か。



第8図 S A-04 遺構実測図

S A-04 (第8図)

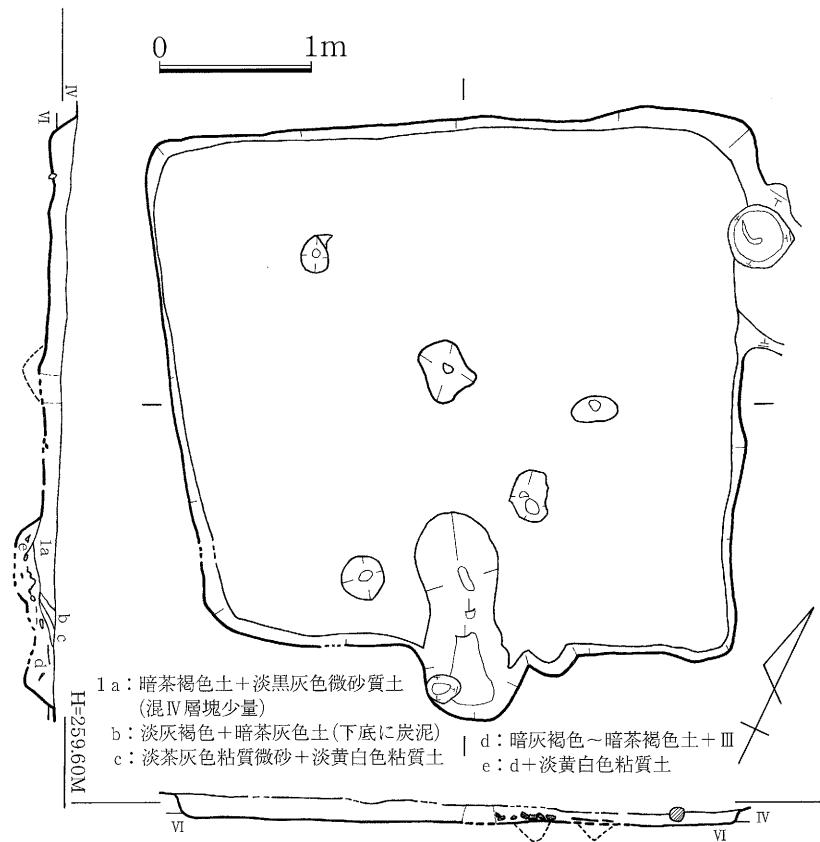
Ⅲ区中央付近で検出した、2本柱から4本柱へと拡張建替が認められる主軸を北西に向けた方形住居である。土層的には、40cm程が削失していると思われる。最初期は東西4.7m・南北4m程で直径20~30cm・深さ56cmと62cmの1.92m間隔の2本柱（P1・P2）であり、貼り床（2b層）後に中央部に直径40cm・深さ16cmの掘り込み炉を設けている。炉は2時期使用され、第2期の貼り床（2a層）後に長軸80cm・深さ4~5cm程の浅く凹んだ炉になり、柱は直径15~25cm・深さ32~50cmで2.1~2.4m間隔の4本柱（P3~6）になる。掘形は、東西5.5m・南北5.2mの方形に大型化し、壁溝は初期の段階から南側には無いと思われ、南側に入口が設けられていた可能性が高い。住居使用的最終段階として上半部を打ち欠いた甕（29）が中央付近に埋設されて炉となる。

覆土は5cm内外しか遺存していないが、土師器片が305点、須恵器片19点などが出で、貼り床内から土師器片47点、須恵器片2点などが出土した。土師器は、甕（18~28・34）や壺（31・36）・高坏（32）・鉢（33）、丹塗り土師器は壺や鉢・高坏（37~45）、須恵器は蓋（46・47・50・57）や甕、ほか土器片加工円盤（58）、刀子（59）などがある。台石（61）は中央付近から出土した。その平坦面には擦痕があり、砥石的機能の使用痕と思われる。6世紀後半である。

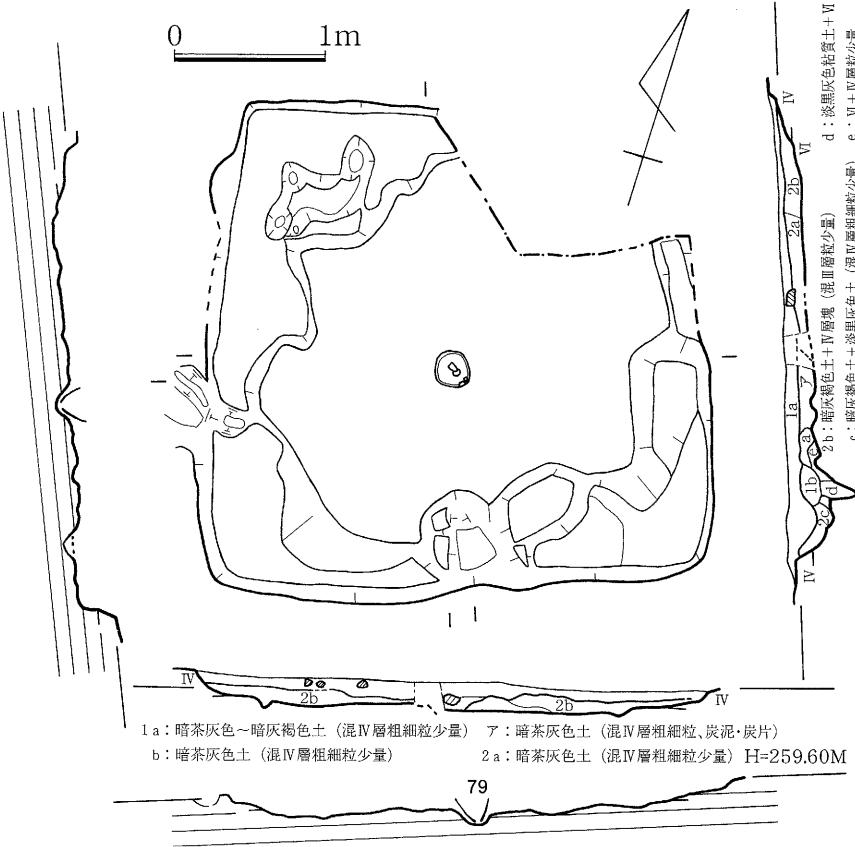
S A-05 (第9図)

04号住居の6m南に位置し、主軸を北北西にとる東西3.5~4.04m・南北3.2~3.62mの、西側が幅広い隅円台形を呈する。検出面からの深さは14cm内外で、土層的には40cm前後の削失が想定される。貼り床は無く、中央には長径36cm・短径29cmの不整形な掘り込み炉があり、その近辺には炭化材が少量出土した。また南辺中央にも幅40~60cm・深さ20cm程の掘り込み炉があり、底面中央付近は炭片が混じり、粘土貼り（1c層）後に再度、炉として使用されている。主柱穴は、不明瞭である。

覆土から、土師器片202点・須恵器片3点などが出でたが、潰れた状態で出土した甕（63）と南縁の炉1d層から出土した丹塗りの小型壺（68）と長頸壺（70）以外は全て小破片の流れ込みで



第9図 S A-05 遺構実測図



第10図 SA-06 遺構実測図

口縁部を打ち欠いた土器埋設炉(79)が検出された。

覆土1層から土師器片82点・須恵器片4点が、貼り床(厚さ10cm前後、2層)から土師器片4点

が出土した。

図化できたのは少ないが、6世紀後半である。

土器埋設炉と南縁中央土坑との間には、炭片の混じる最初期の掘り込み炉(ア層)がある。

SA-07(第11図)

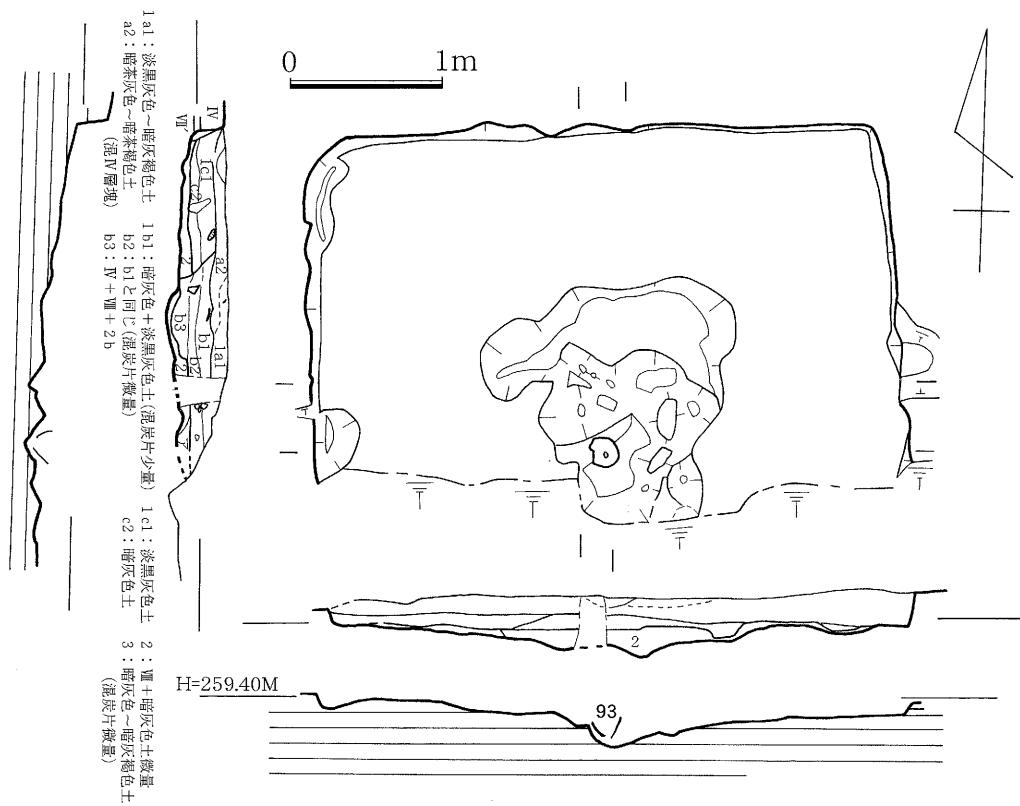
東西3.9m・

ある。南縁突出部付近には、長さ10cm前後の河原石が10点程散在していたが、被熱や付着粘土等は無い。竈の構築材としての可能性があると思われるが、証左に欠く。5世紀後半～6世紀前半か。

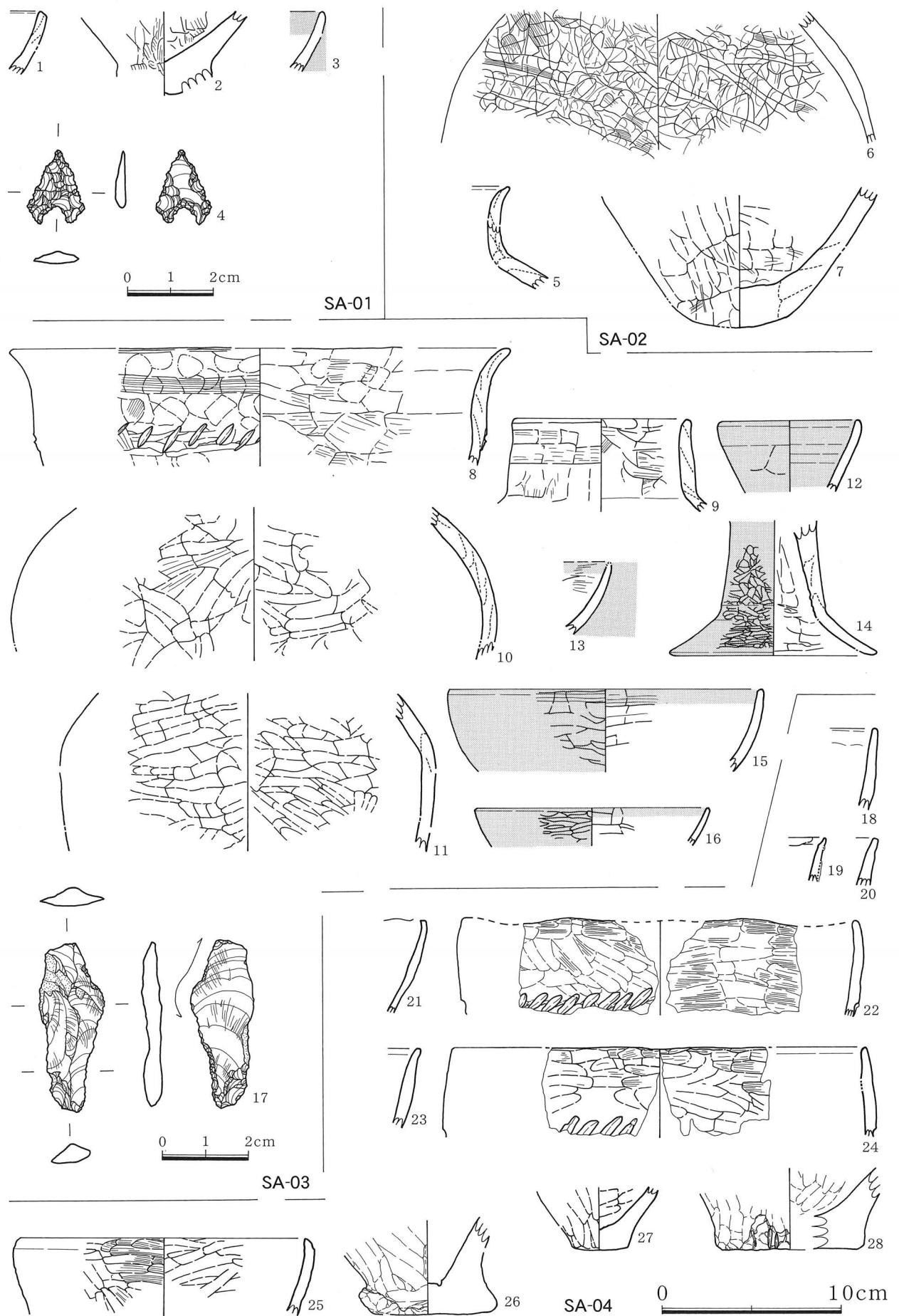
SA-06 (第10図)

05号住居に北東部を切られる、東西3.42m・南北3.28mの方形を呈し、土層的には30cm位の削失が推定される。

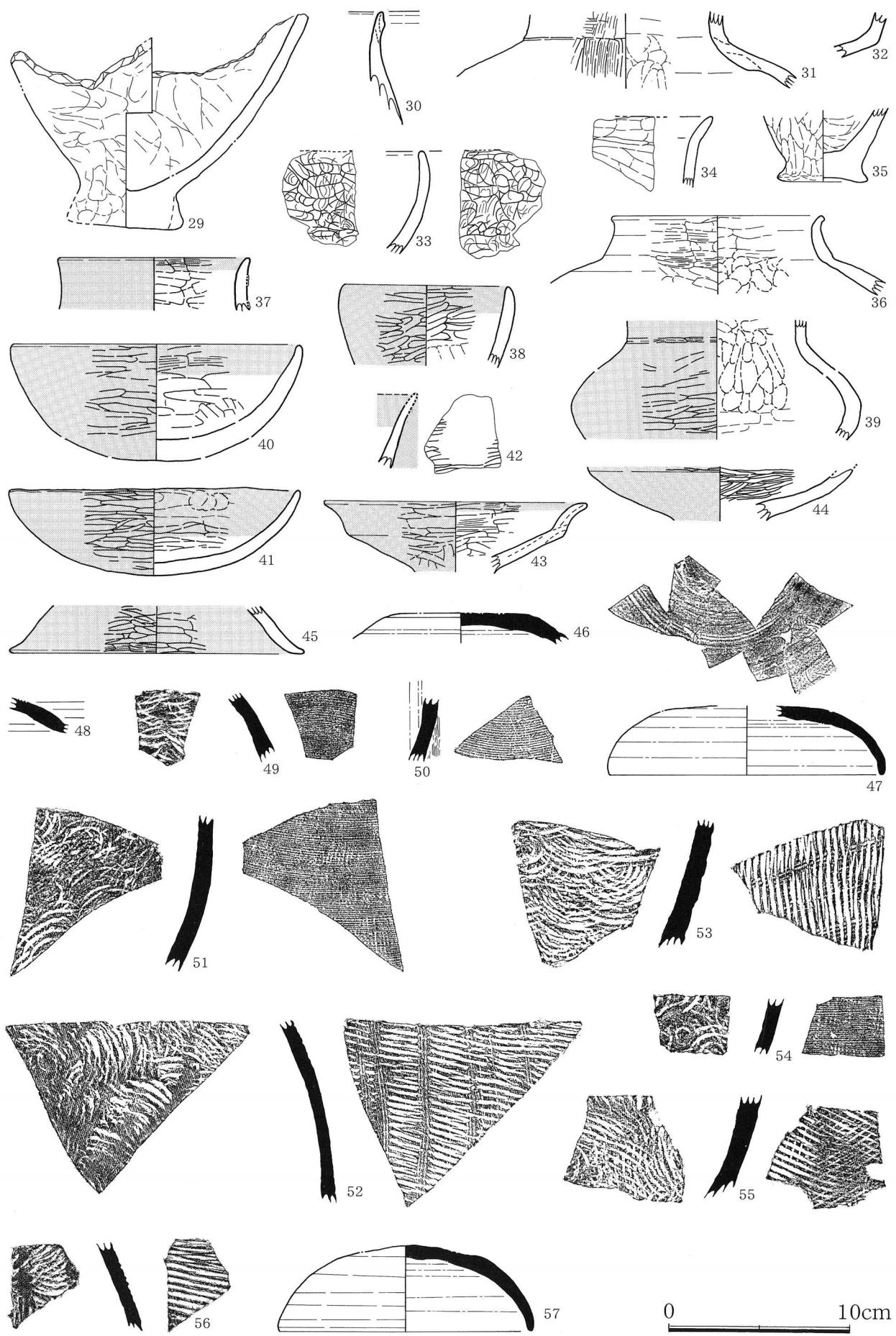
主柱穴や壁溝は未検出であるが、中央には甌の



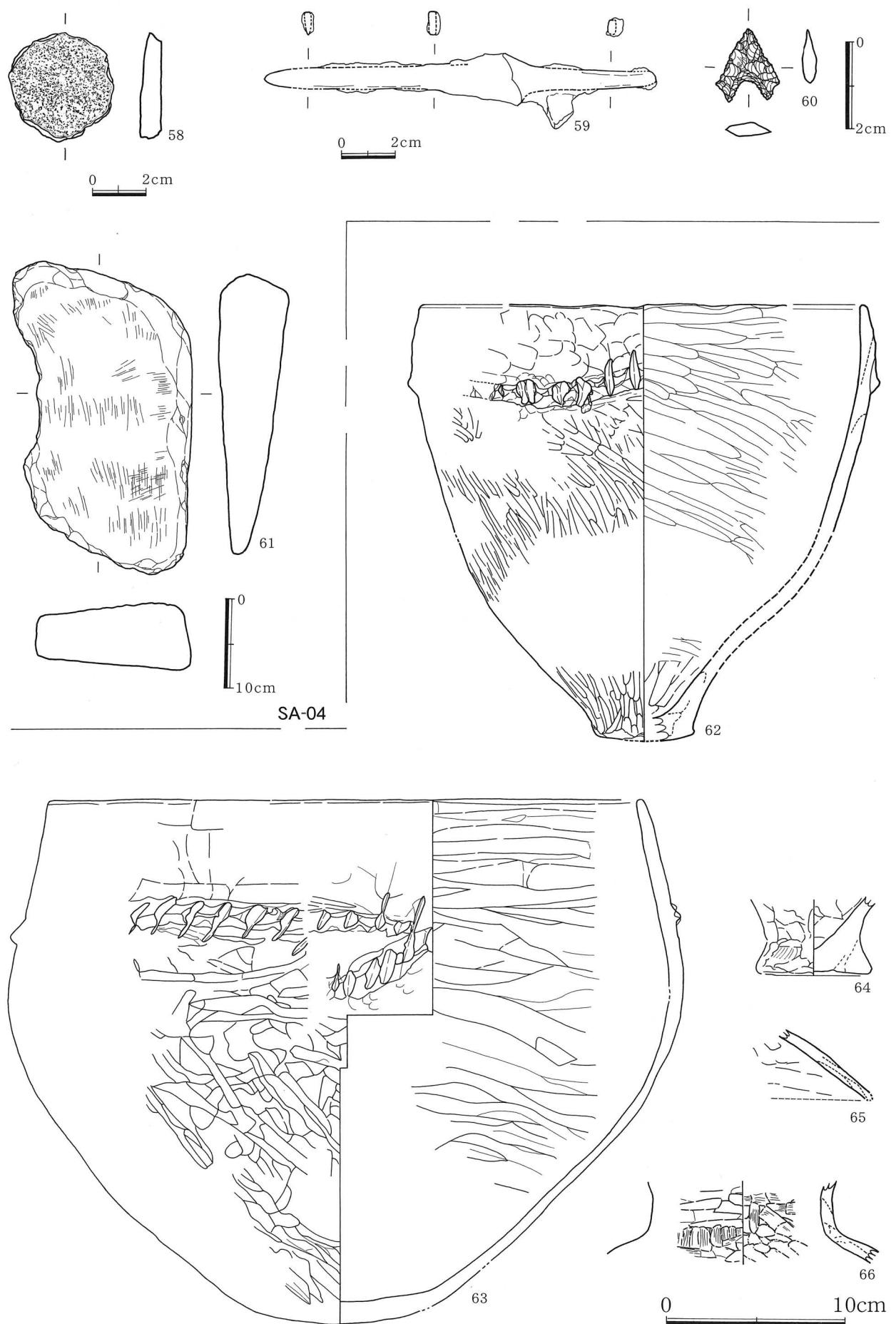
第11図 SA-07 遺構実測図



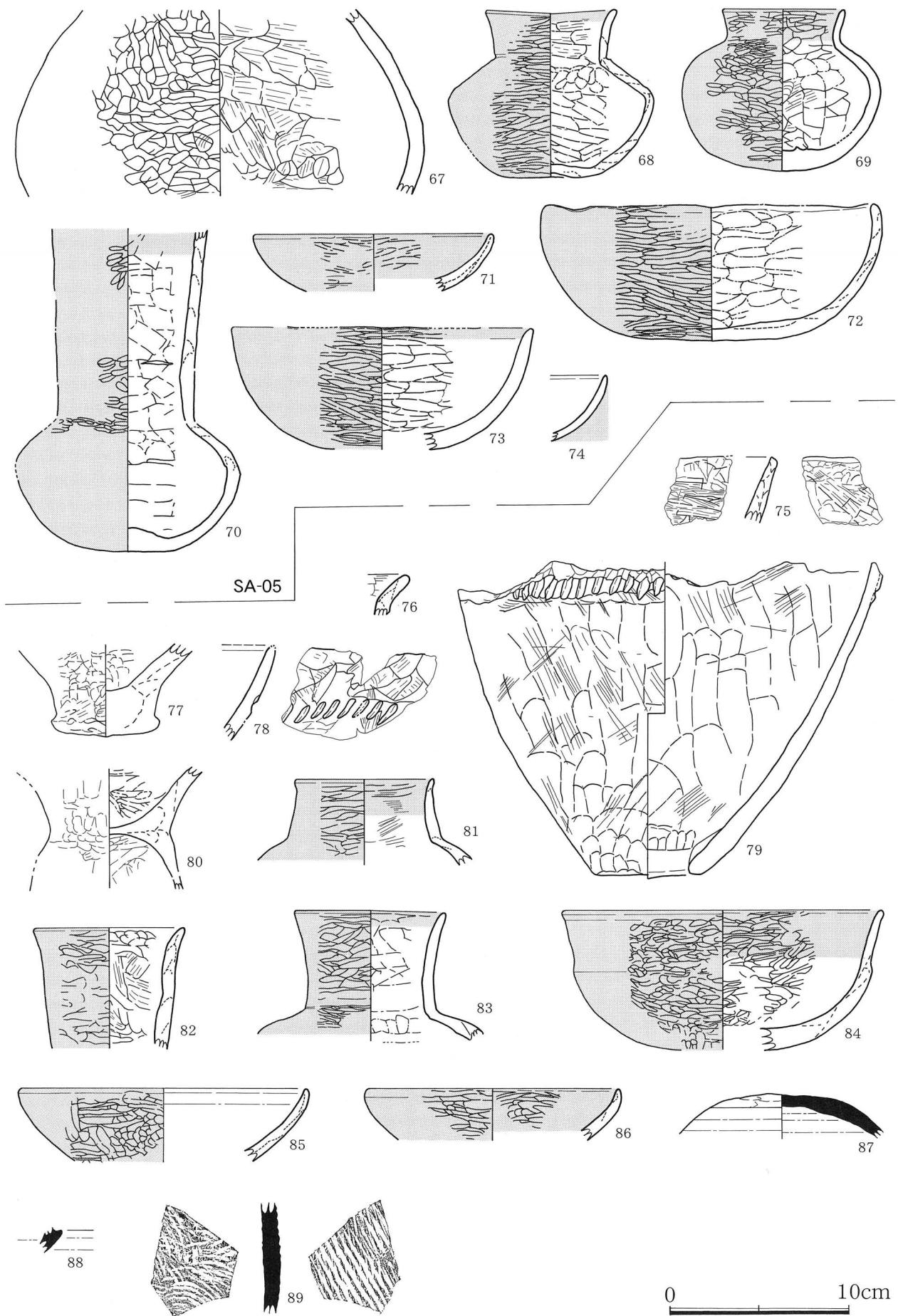
第12図 SA-01~04 出土遺物実測図(1)



第13図 SA-04 出土遺物実測図(2) 55~57は2層出土



第14図 SA-04出土遺物実測図(3), SA-05出土遺物実測図(1)



第15図 SA-05出土遺物実測図(2), SA-06出土遺物実測図

南北2.4m以上の方形もしくは長方形プランで、土層的には30cm程の削失が推定される。貼り床は3~18cmの厚さで特に中央部は大きく掘り返され、土器埋設炉が設置されている。主柱穴は無く壁溝は西北縁に僅かに痕跡がある。

覆土から土師器片267点、須恵器片8点のほか刀子(126・127)などが出土している。土器埋設炉(93)は、甌の口縁部を打ち欠いた転用品である。125の甌は、南方の遺物包含層(S X-01)出土遺物と接合している。6世紀後半である。

S A-08 (第16図)

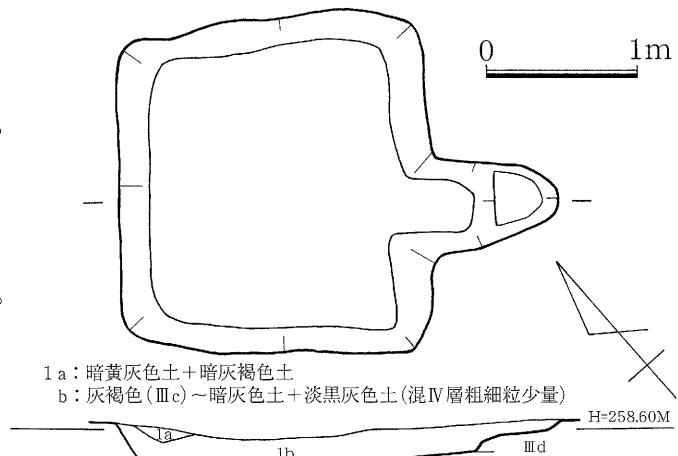
傾斜部で水分の多い面に構築された住居状遺構で、主軸を北東にとり、東西2.04~2.08m・南北2~2.26mの隅円方形プランの東辺中央に、長さ84cmのスロープが付く。後世の削失は無く、深さは30cmを測る。主柱穴や貼り床・炉・壁溝は検出されない。

覆土から、土師器片18点が出土したが、全て流れ込みであり、5点ほど図化できた(130~134)。5世紀後半~6世紀前半か。

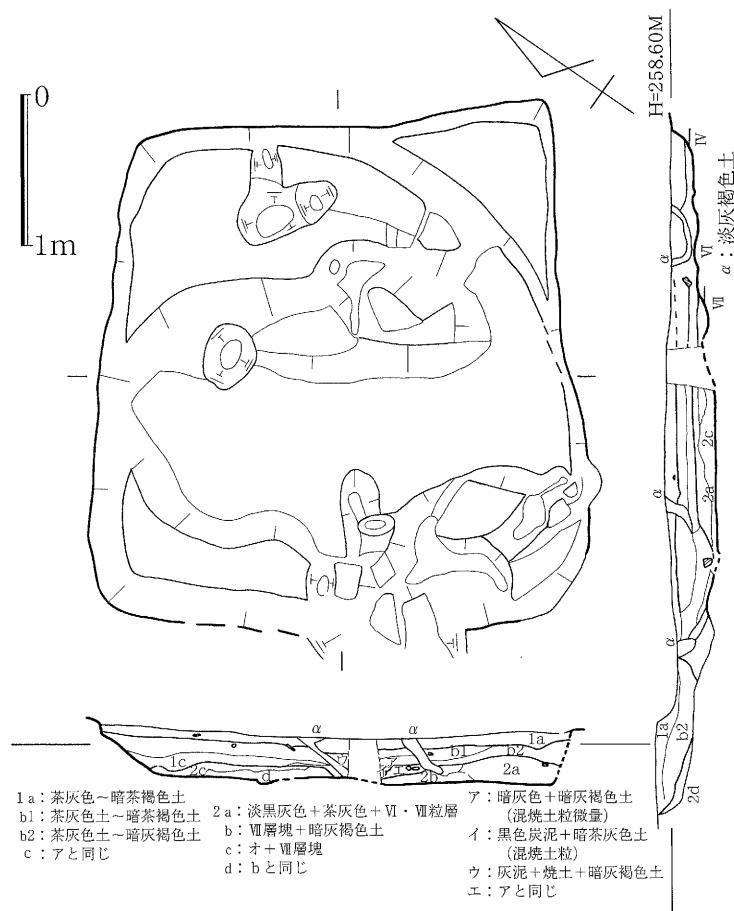
S A-09 (第17図)

08号住居の南西2m、主軸を北東にとる、東西2.9~3.3m・南北3.2~3.4mの隅円台形を呈する。削失は無いが、南半分に搅乱と風倒木痕があるため、不明瞭な所がある。

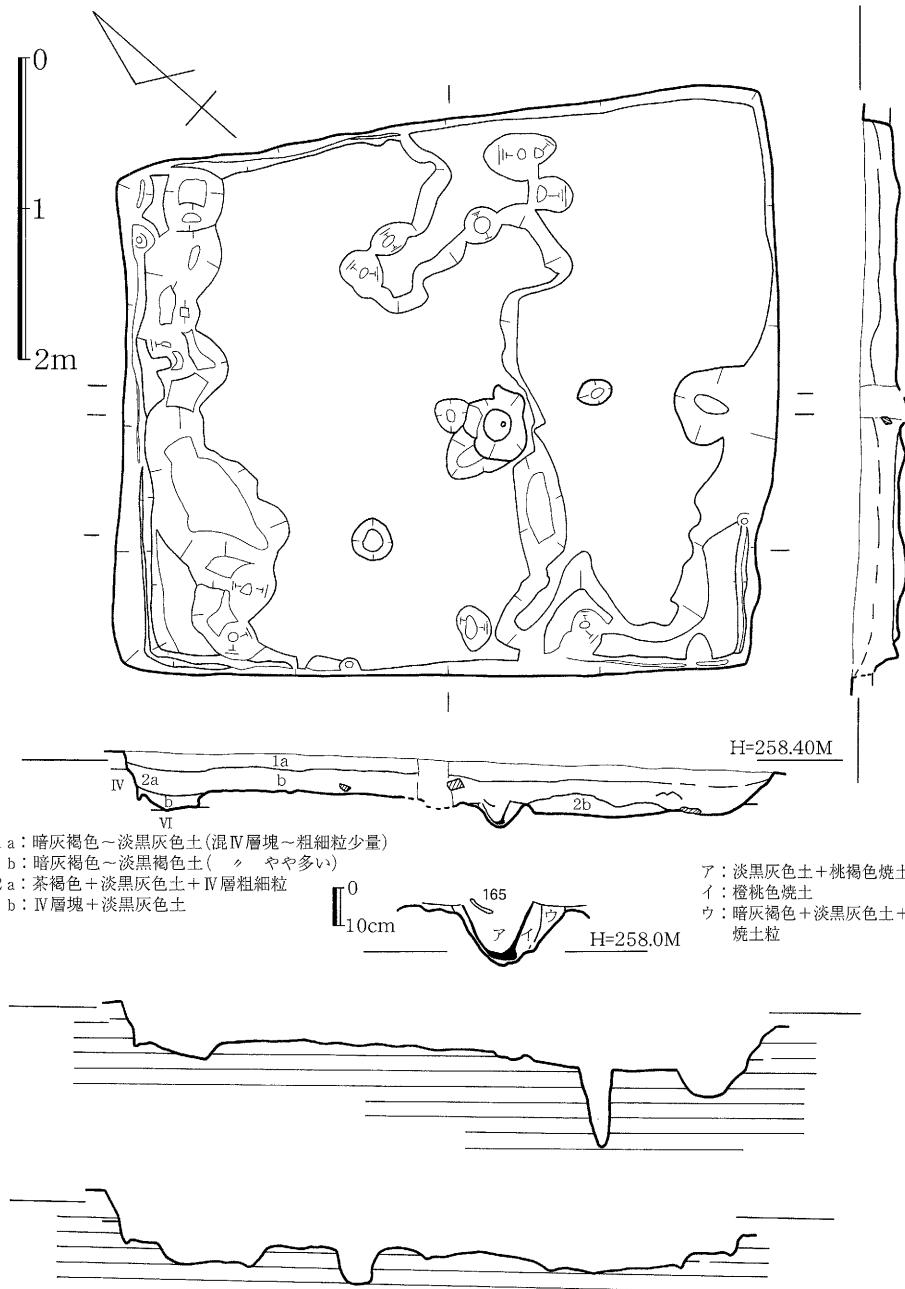
覆土は厚さ18~28cm、貼り床は5~20cmあり、東側が厚い。主柱穴は明瞭でないが、中央北寄りの深さ8cmの掘り込みが2本柱のうちの1基と推定される。中央には、直径70cm・深さ10cm程の掘り込み炉(ウ~エ層)および埋没後の掘り込み(ア・イ層)炉が認められる。覆土から土師器片169点と須恵器片3点などが出でたが、原位置のものは無い。145の底部は、10号住居出土片と接合している。6世紀前半か。



第16図 S A-08 遺構実測図



第17図 S A-09 遺構実測図



第18図 SA-10 遺構実測図

315点や須恵器片6点等が出土。甕片161は11号住居出土片と、須恵器片179はS X-01出土片と接合している。6世紀後半である。

SA-11 (第19図)

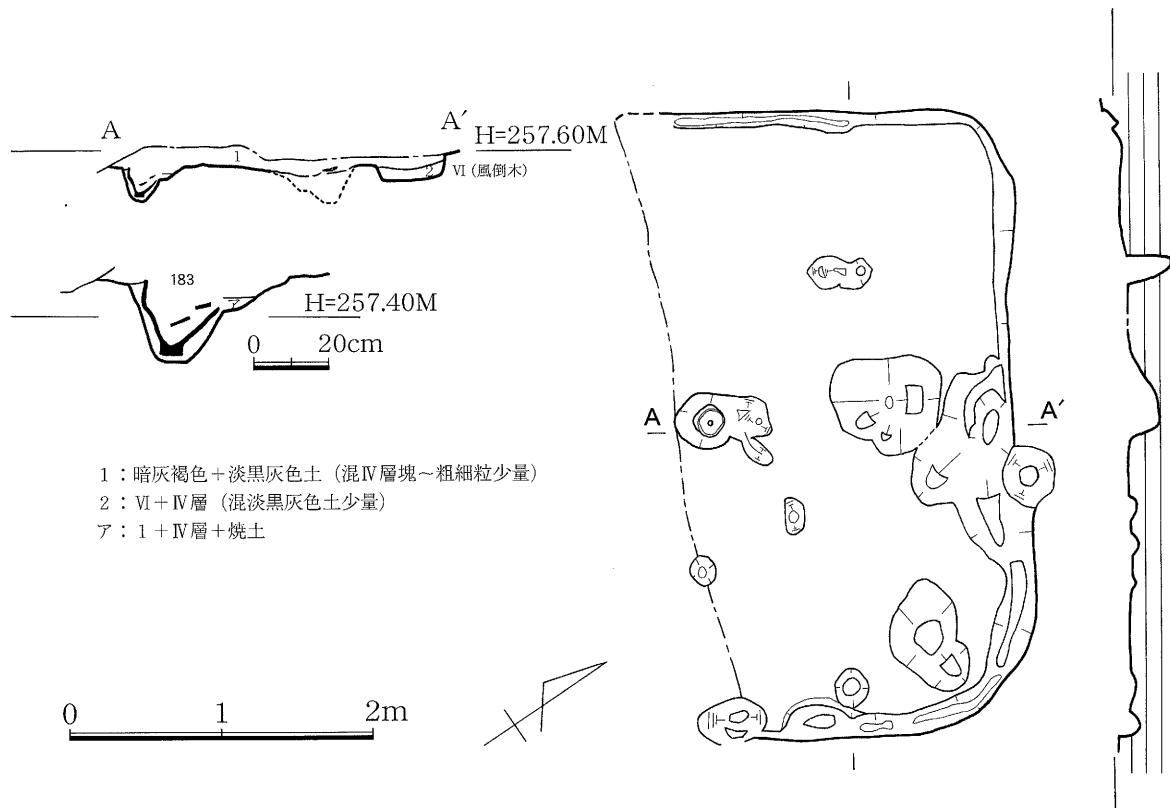
IV区の東側で検出した、東西4.14m・南北2.2m以上の隅円方形と推定されるプランを呈し、30cm程の削失が想定される。主柱穴は不明瞭で、中心には口縁部を打ち欠いた甕(183)を使用した埋設炉がある。貼り床は北東部に限られ、大部分はIV層内に床面がある。

覆土からは140点ほどの土師器片と須恵器片6点が出土し、北東隅の土坑から完形の壺(186)が、北辺中央付近の土坑から丹塗りの鉢(189)などや、須恵器外底の窯印まで模倣したと思われる丹塗り土師器(194)等も出土している。6世紀後半である。

SA-10 (第18図)

東西4.22~4.32m・南北3.2~3.83mの、西辺が短い長方形を呈する。削失は無く、上面~南側には厚さ10cm程の遺物包含層があり、若干の遺物が出土した。貼り床は、北西壁沿いの幅0.4~1mと北東壁沿いの幅1.4m前後に施される。壁溝は、東南辺中央付近以外で認められた。中央やや南東側には、口縁部を打ち欠いた甕(165)を転用した土器埋設炉があり、厚さ2~4cmの焼土が取り巻いていた。主柱穴は2本と思われるが、東側(長径23cm・短径17cm・深さ50cm)のみ検出された。

覆土から、土師器片

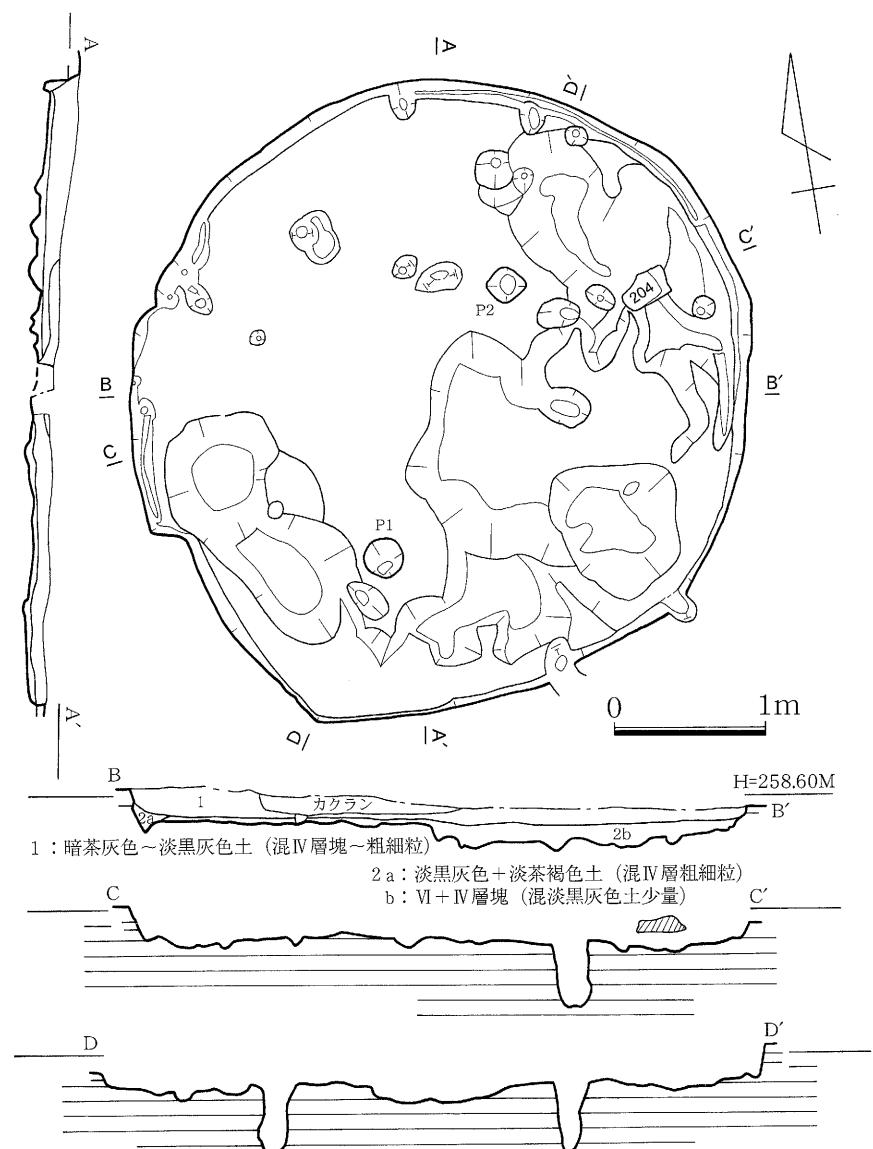


第19図 SA-11 遺構実測図

SA-12 (第20図)

長径4.36m・短径4.0mの円形に近いプランを呈するが、西側の幅1.7m・奥行き0.2mの張り出しとP2北側の掘り残しは間仕切りの名残と思われる。土層的には、30cm程の削失が推定される。主柱穴は不明瞭ながら、P1・P2の2本柱(直径22~26cm・深さ46cm)と思われる。底面の東半分に掘り返しが集中し、2層も厚くなる。

覆土から土師器片9点が出土したが、図化に耐えない。また、北寄りに出土した台石は、破碎遺棄されたものと推定される。5世紀

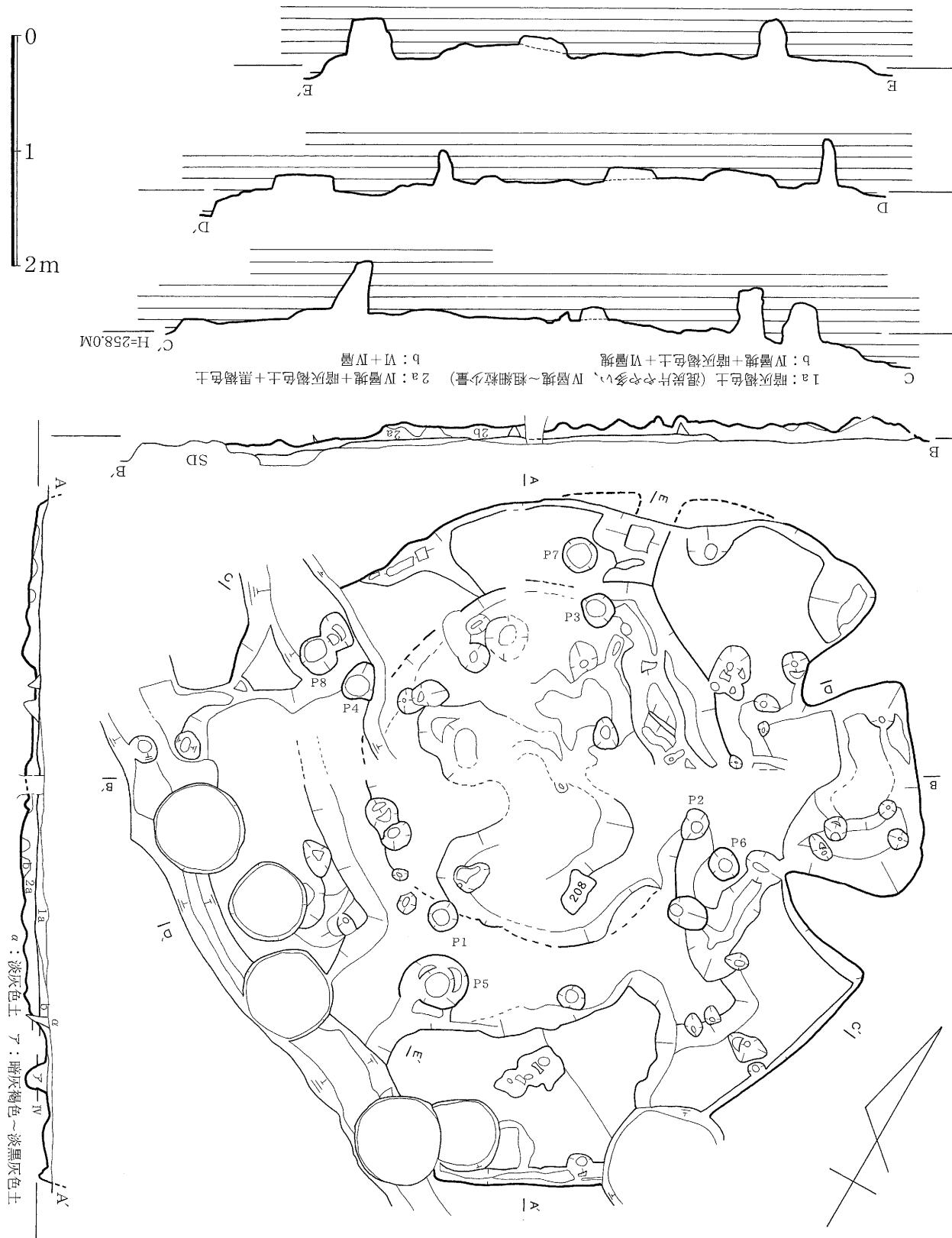


第20図 SA-12 遺構実測図

後半か。

S A-13 (第21図)

長径 6 m・短径 5.5 m の円形基調の間仕切り住居で 40 cm 程の削平と中世の溝状遺構・近世以降の



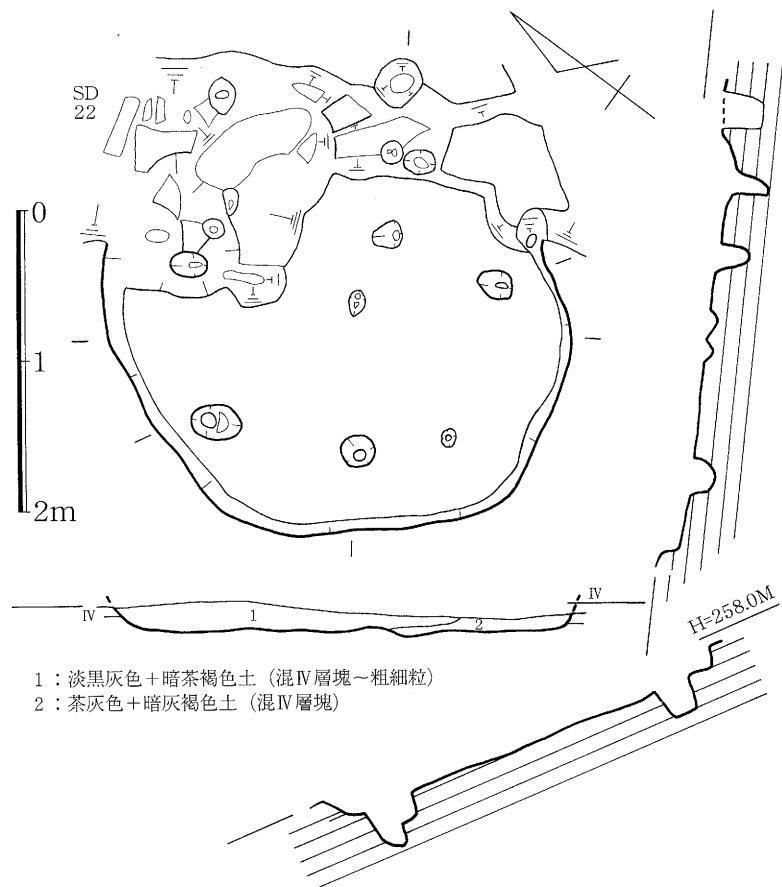
第21図 S A-13 遺構実測図

座棺墓に切られており、部分的に消滅している。一段低い内区は、直径2.8mから3.8mへ拡大されたようだ、4基の主柱穴もP1～P4からP5～P8へと建て替えが推定される。内区の壁沿いで主柱穴間や対角線上には直径20cm前後のpitがあり、4～5基の補助pitの存在が推定される。

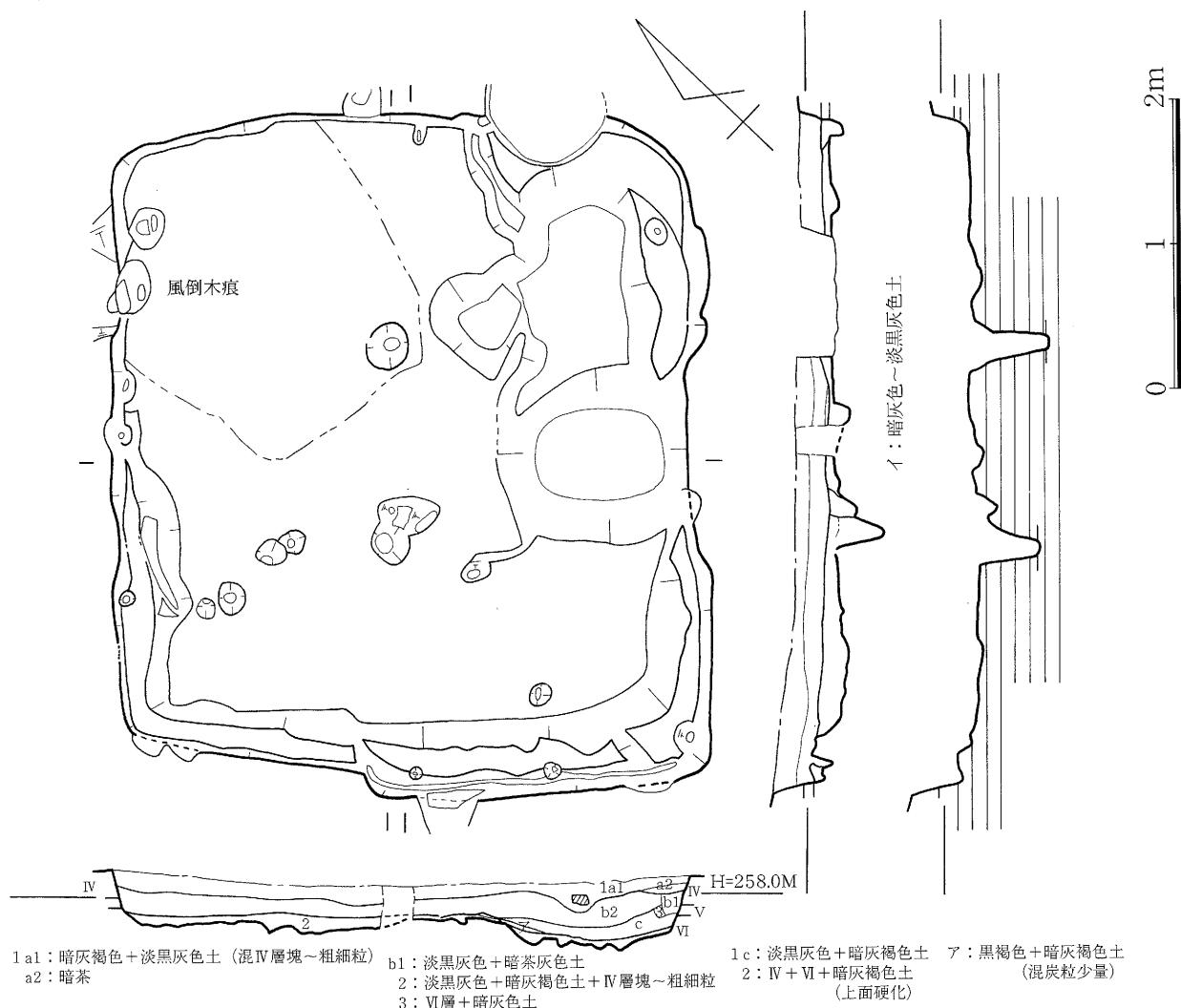
覆土から、弥生時代終末頃の土器片28点と台石（208）が、2層から土器片9点が出土したが、図化できたのは僅かである。

S A-14（第22図）

V区北東端に位置し、北東部を22号溝に切られた、長径3.18m・



第22図 S A-14 遺構実測図



第23図 S A-15 遺構実測図

短辺2.76mの橢円形プランを呈する。土層的には、30cm程の削失が想定される。貼り床は東南側のみにあり、主柱穴は直径18~34cm・深さ20~25cmのpit 5基と思われる。

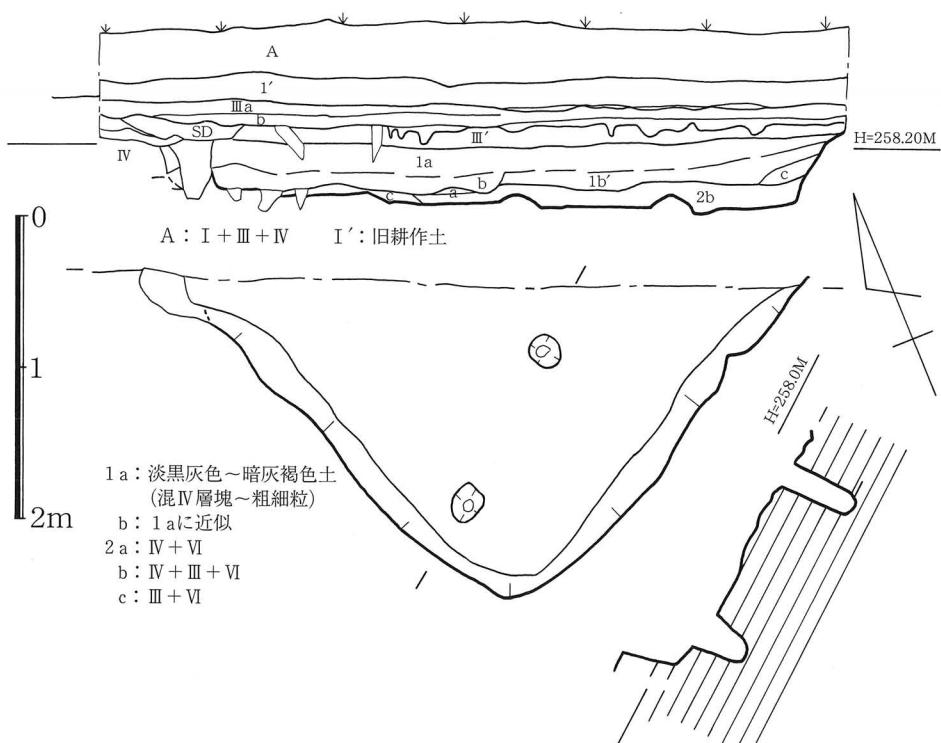
炉は確認されず、出土遺物は黒曜石の剥片1点のみである。

S A-15 (第23図)

主軸を北東にとる、短辺4m・長辺4.5mの隅円長方形を基調とし、南壁には幅10~16cmの張り出しがあり、東壁にも若干認められ、間仕切りの名残と思われる。



第24図 S A-16 遺構実測図 アミ目は焼土



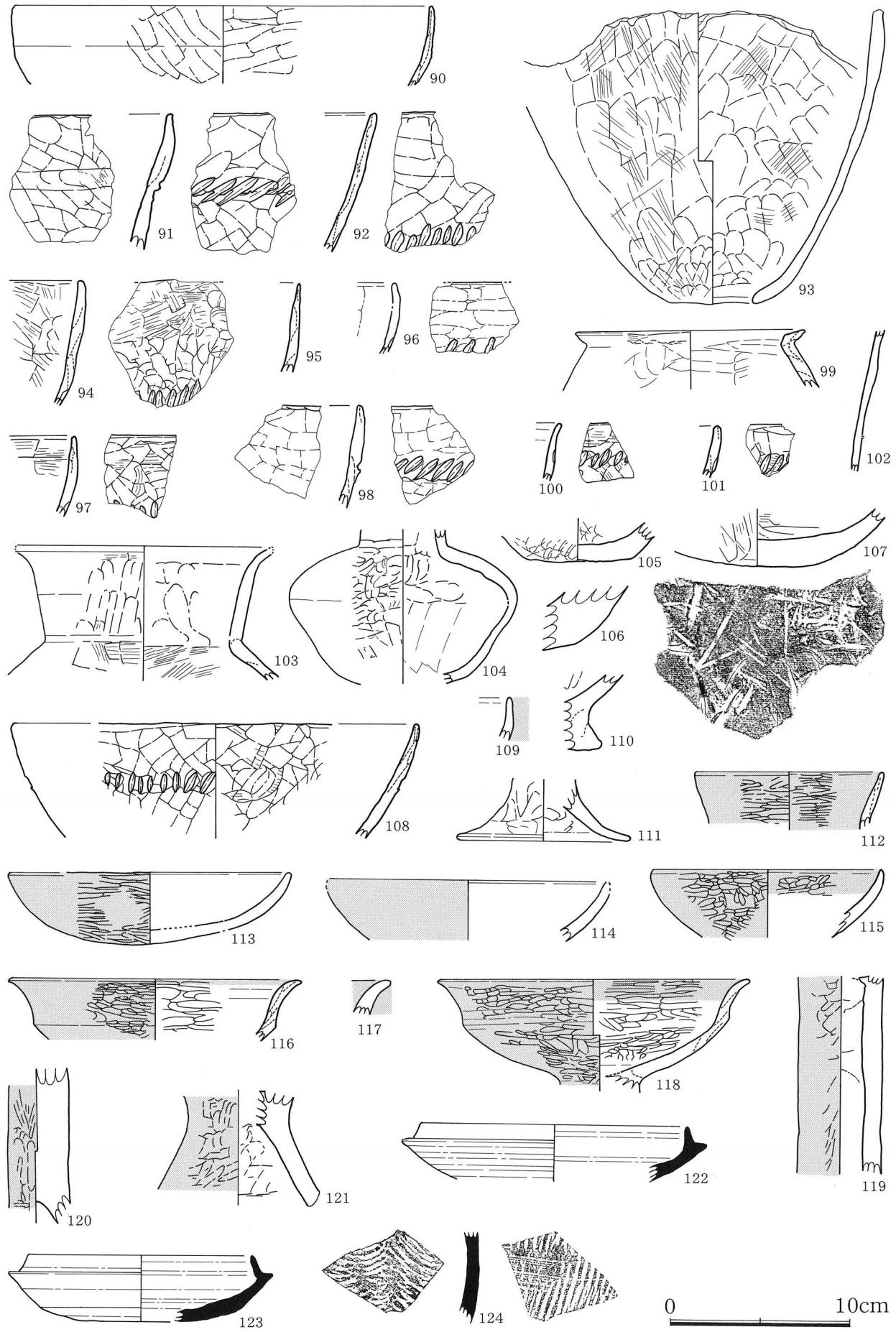
第25図 S A-17 遺構実測図

主柱穴は、直径28~33cm・深さ40~56cmのもの2基であり、東南辺中央部には長さ1.32m・幅1.2mの土坑を有する。土坑の西肩部には炭化物が集中している。貼り床は、全面に3~16cm施される。

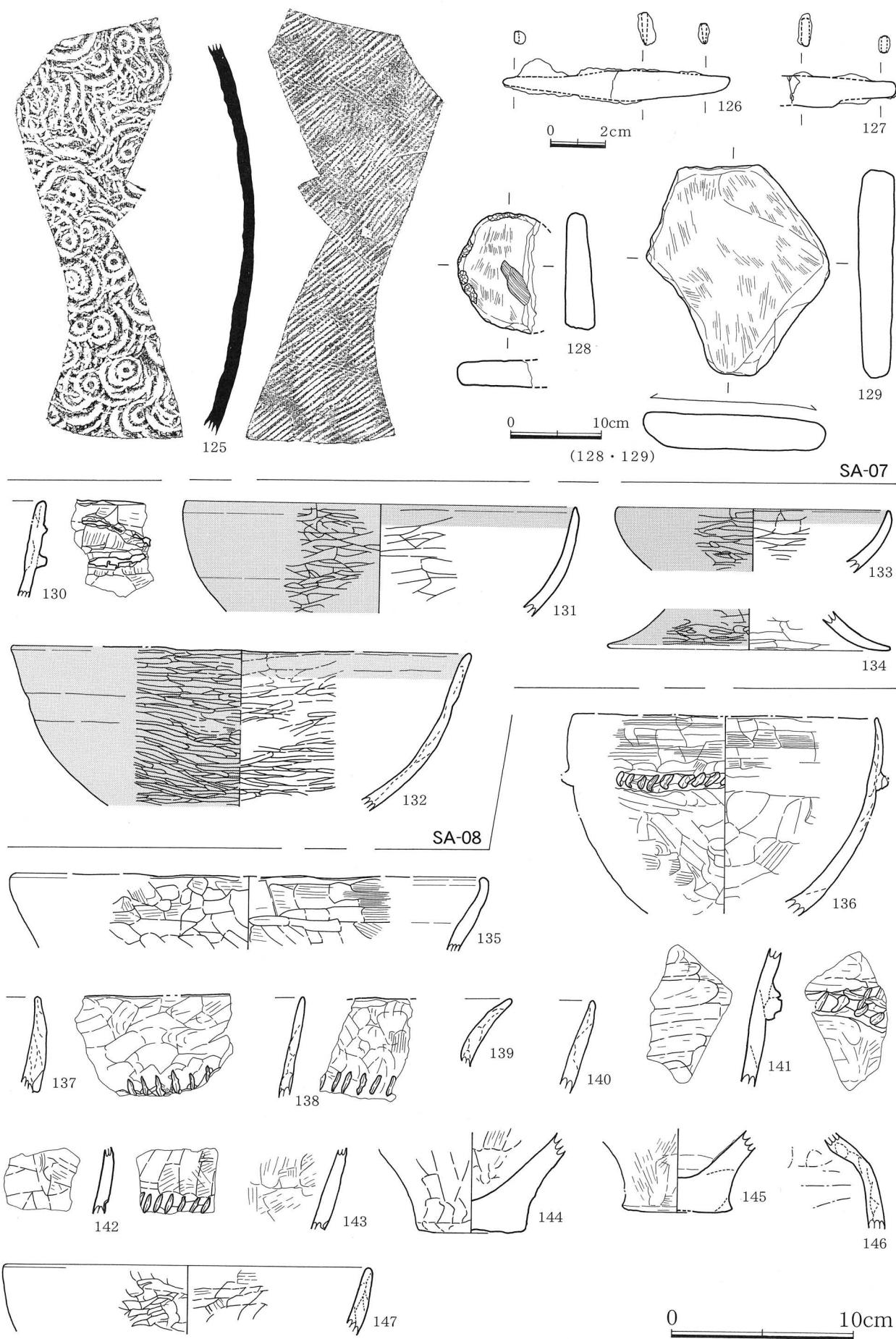
覆土から、土師器片150点、2層から15点などが出土しているが、図化できたのは少ない。5世紀前半か。

S A-16 (第24図)

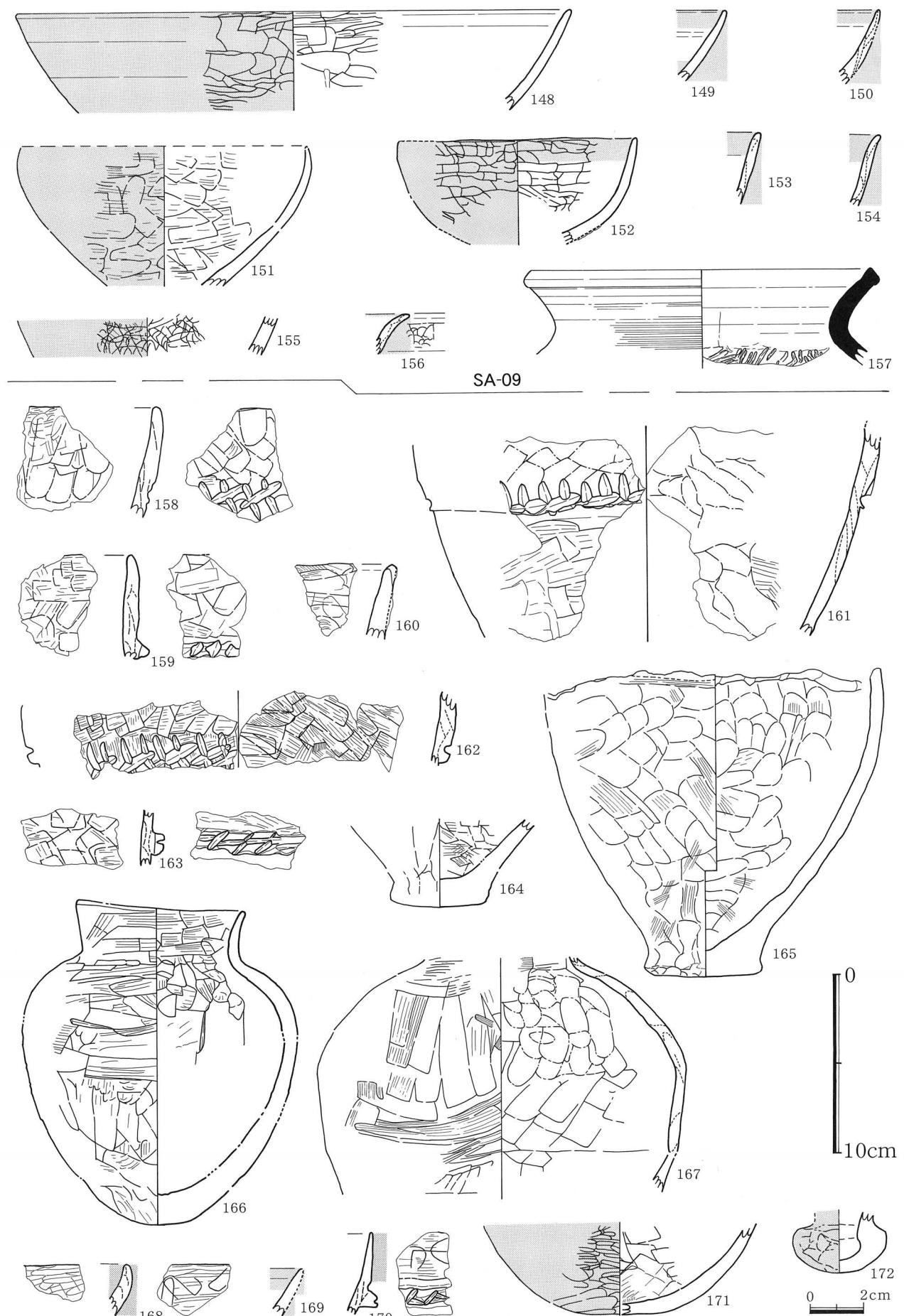
東西3.14~3.68m・南北2.5~2.74mの隅円台形プランで、北辺に幅2.3m・奥行き0.34mの張り出しがあり、東辺中央には間仕切りの名残がある。土層的には30cm程の削失を受け、東壁は痕跡程度である。貼り床は僅かで、中央に掘り込み炉と土



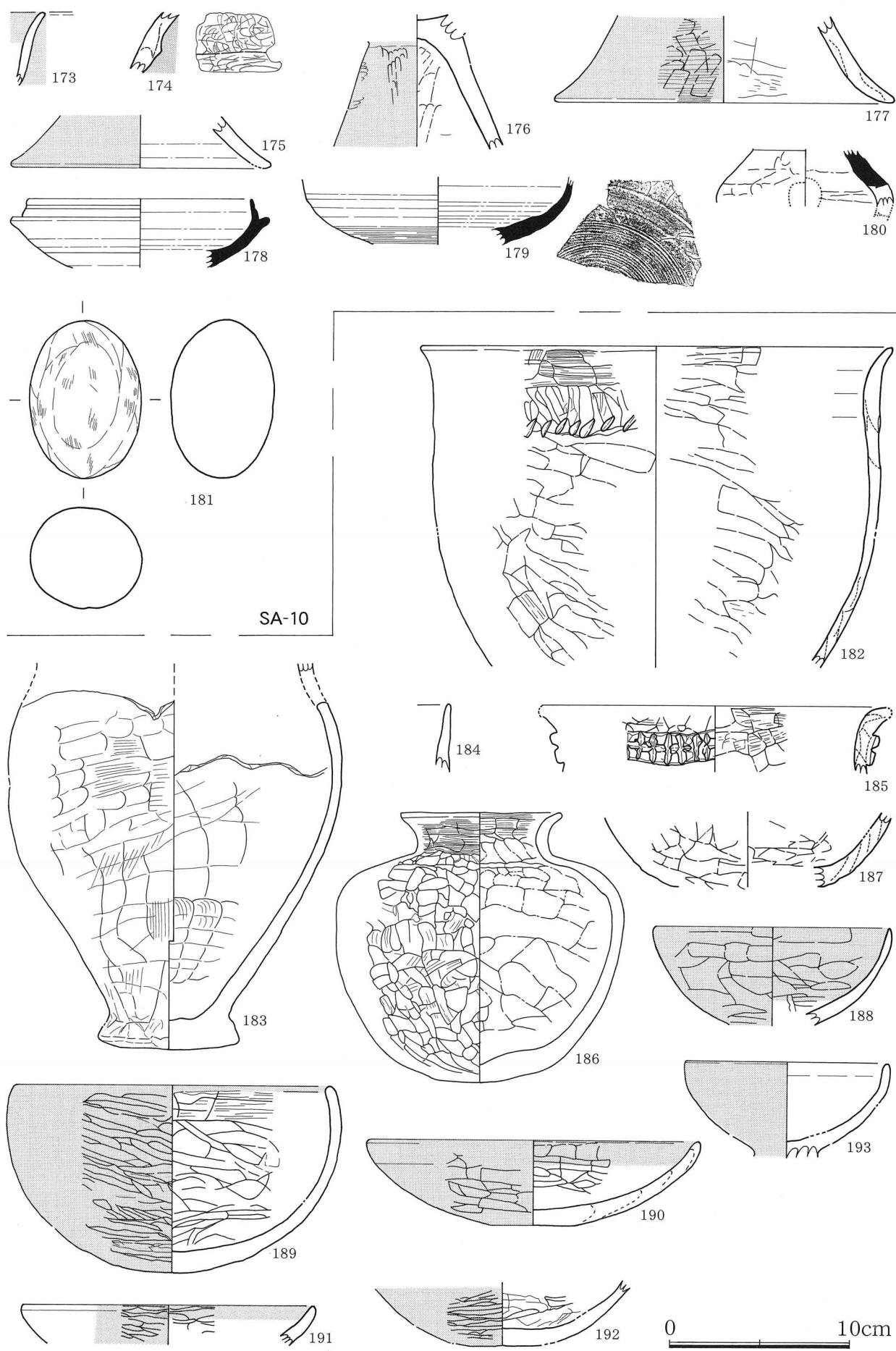
第26図 SA-07出土遺物実測図(1)



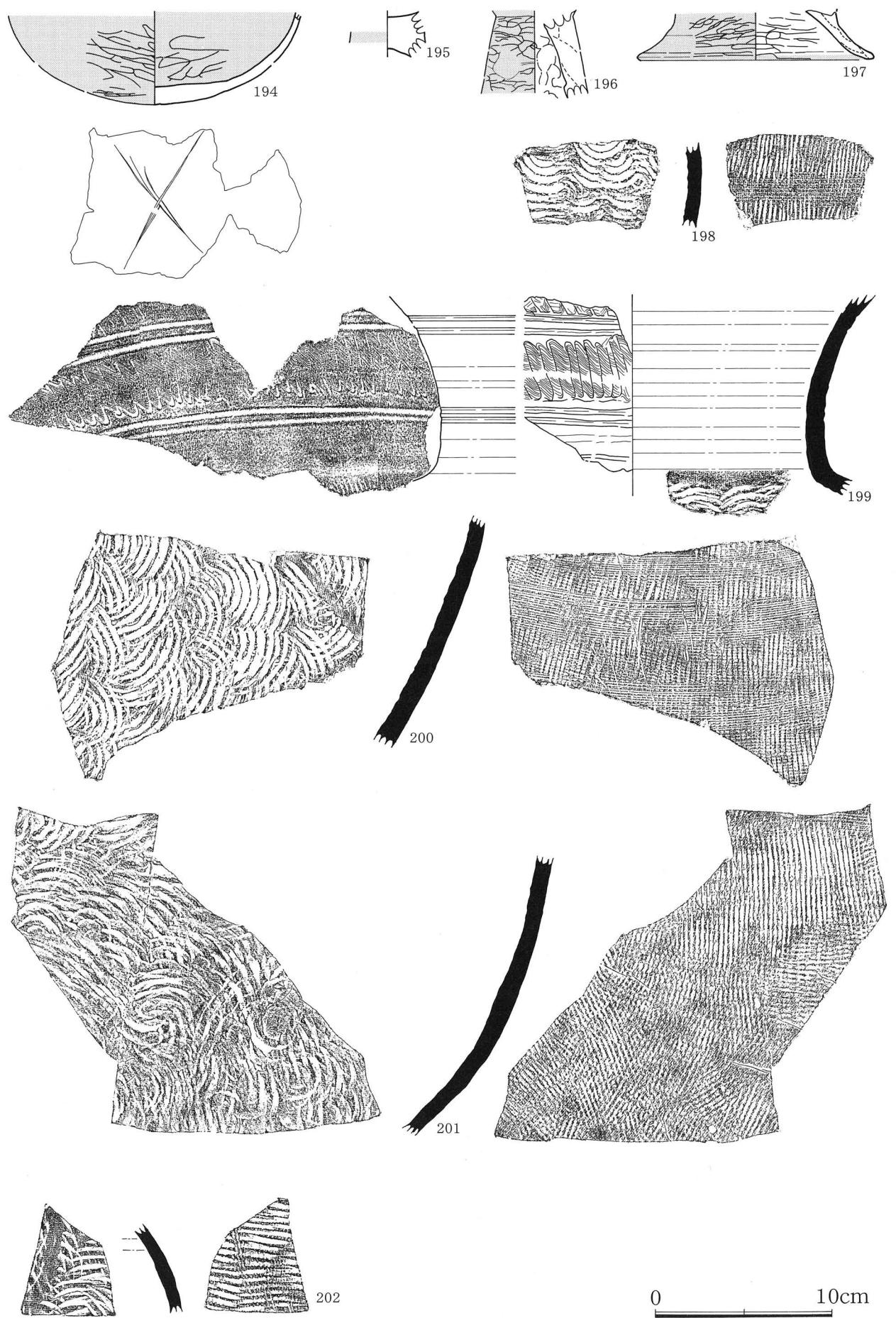
第27図 SA-07出土遺物実測図(2), SA-08・09出土遺物実測図(1)



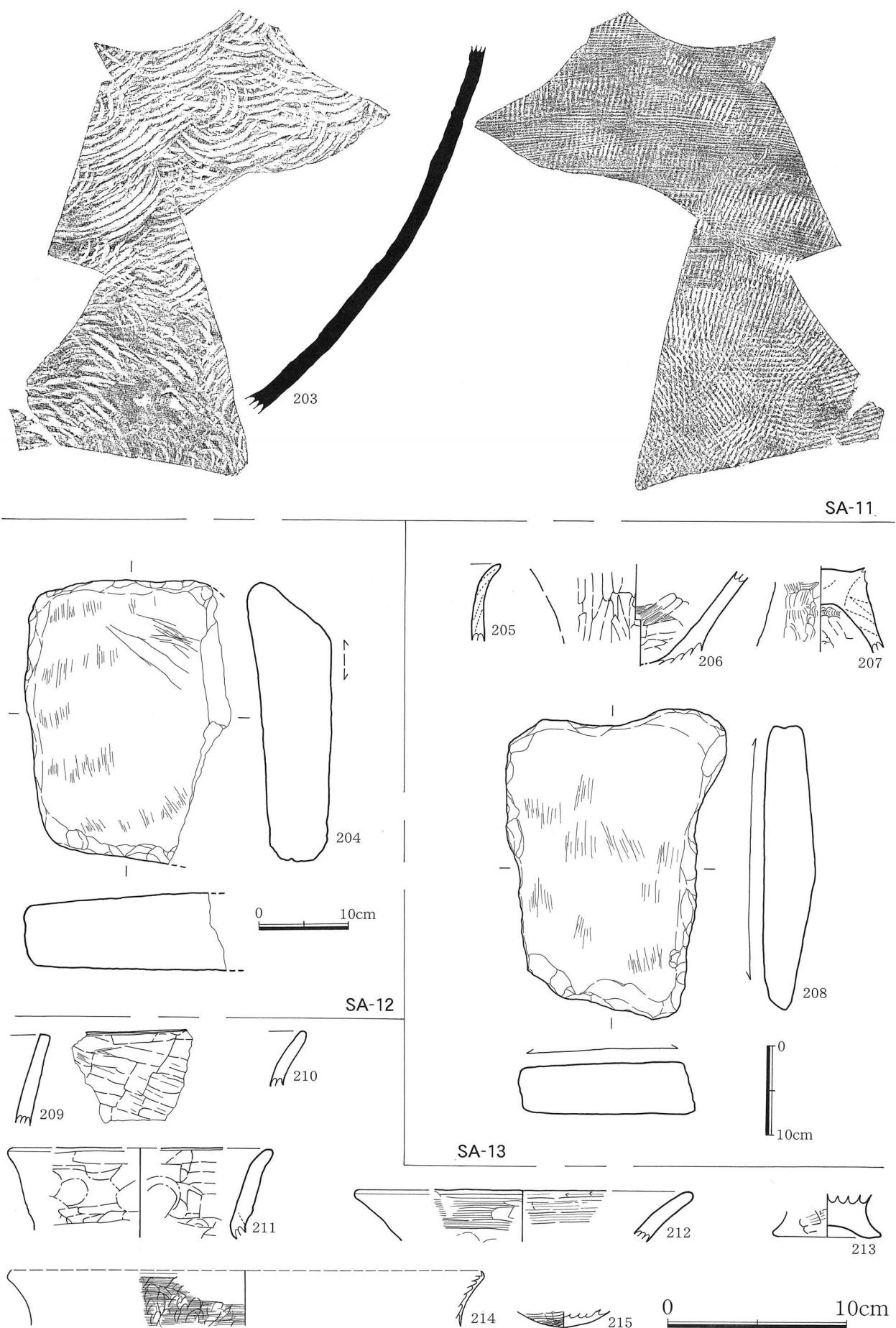
第28図 SA-09出土遺物実測図(2), SA-10出土遺物実測図(1)



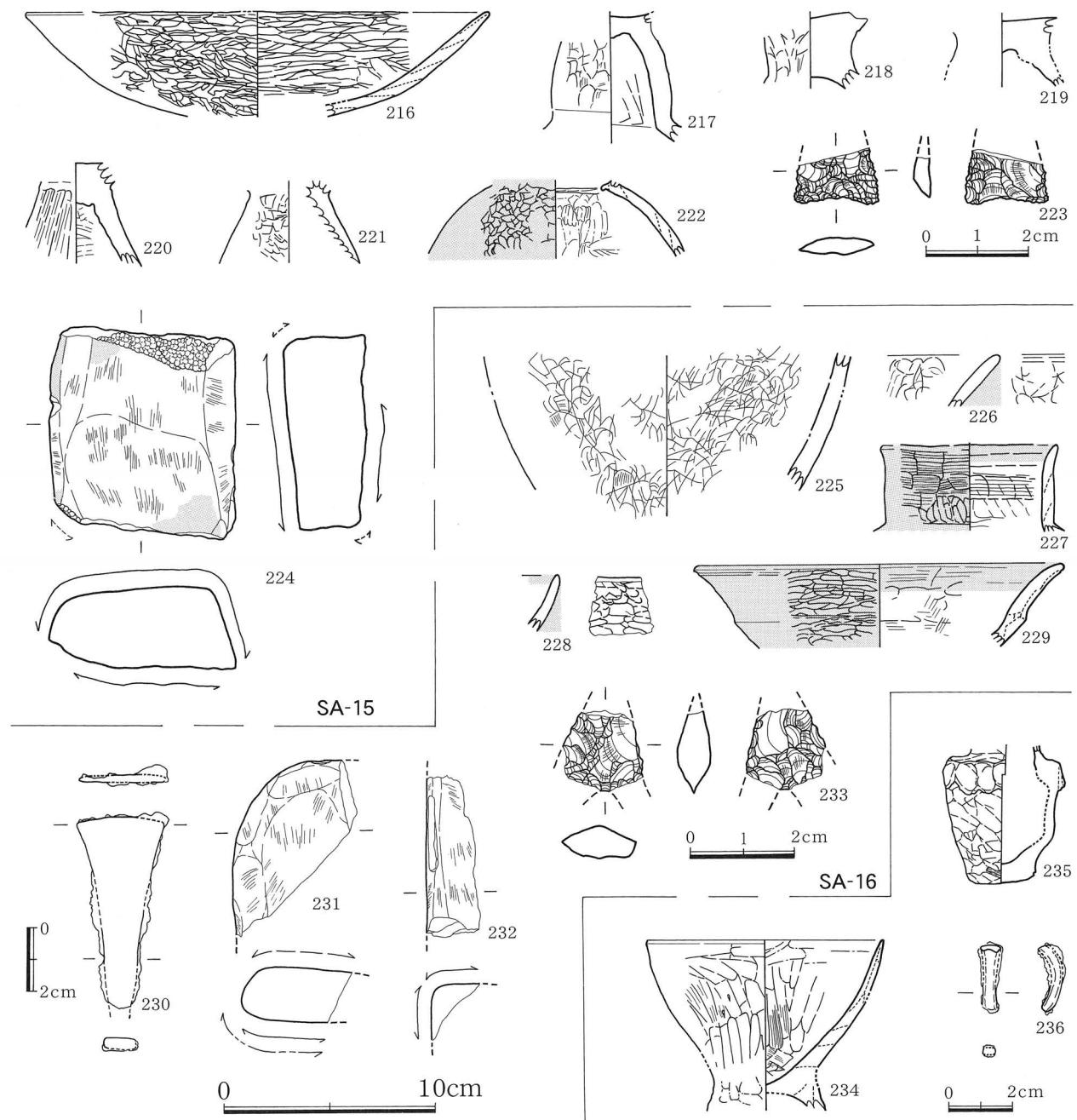
第29図 SA-10出土遺物実測図(2), SA-11出土遺物実測図(1)



第30図 SA-11出土遺物実測図(2)



第31図 SA-11出土遺物実測図(3), SA-12・13・15出土遺物実測図(1)



第32図 SA-15出土遺物実測図(2), SA-16・17出土遺物実測図

器片埋設炉がある。後者は、甕の胴部片（225）を炉壁に置いたものである。

覆土から、土師器片97点、須恵器片1点、鉄鏃1点（230）、砥石片2点等が出土したが、小片が多い。5世紀前半と推定され、須恵器片は混入であろう。

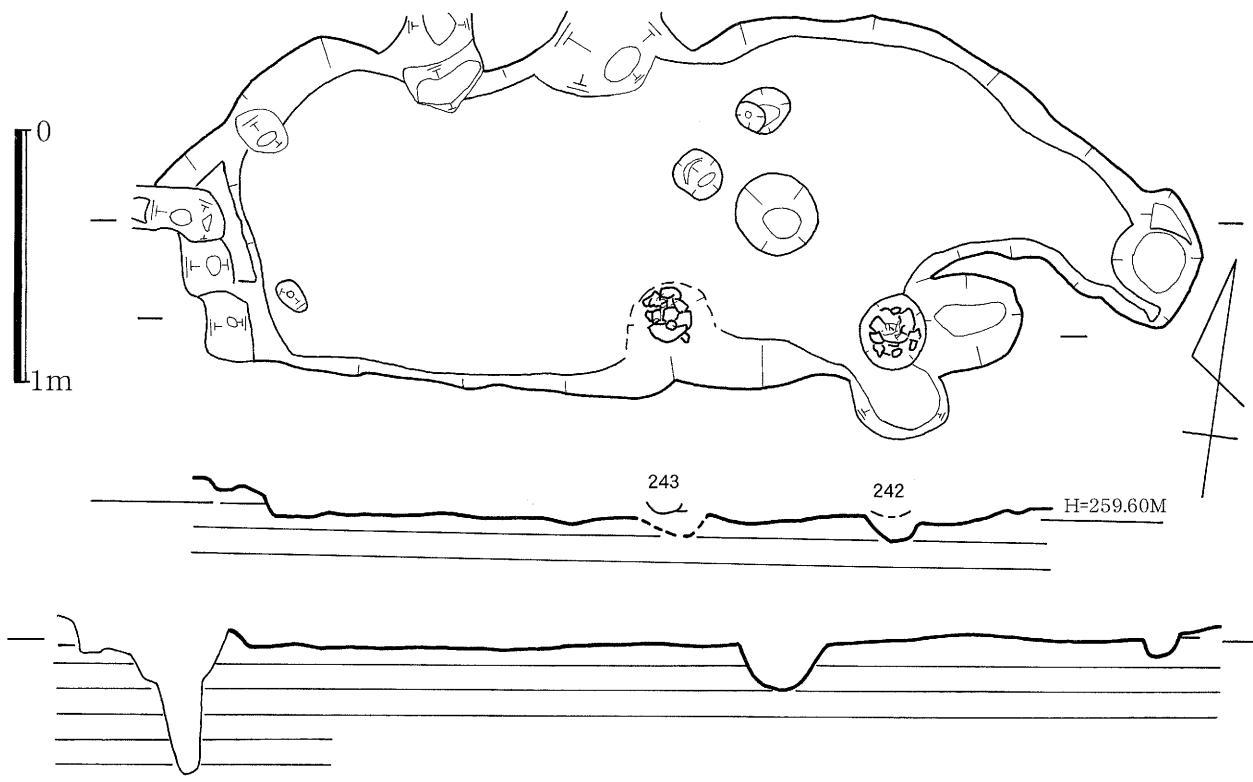
SA-17 (第25図)

南半分を水路掘削で削失した、東西2m以上、南北2mの長方形プランと推定される。覆土は30cmほど、貼り床は6~20cmの厚さがある。炉は検出していない。主柱穴は4本か。

覆土から、土師器片57点とミニチュア甕（235）、鉄器片（236）が出土している。5世紀後半か。

ST-01 (第424図)

V区の16号住居の西3mに位置する。



第33図 SK-60 遺構実測図

豎坑は、長径1.02m・短径0.9mの楕円形を呈し、深さ50cmが遺存する。埋土は、黒灰色土とアカホヤ塊混じりの単一層である。閉塞材は遺存せず（板か）、玄室は黒灰色土が充填していた。羨門は、幅51~59cm・高さ14~21cmの逆台形を呈し、玄室に向かってやや下降する。玄室は平入り両裾で、幅67cm・奥行き16cm内外・高さ10cm程の狭長な楕円形である。天井は下降し、奥壁は明瞭でない。人骨や副葬品は遺存していない。主軸方位は、N 3° Eである。

SK-60（第33図）

II区の中央やや東寄りに位置し、北側は04号溝に搅乱される。長さ3.5m・幅1.3~1.5m・深さ10cm内外の土坑である。南縁中央には、甕の下半部（243）が、その70cm東には甕の底部（242）が埋設されている。炭化物や焼土は確認できなかったが、豎穴住居が存在した可能性もある。

SK-43（第43図）

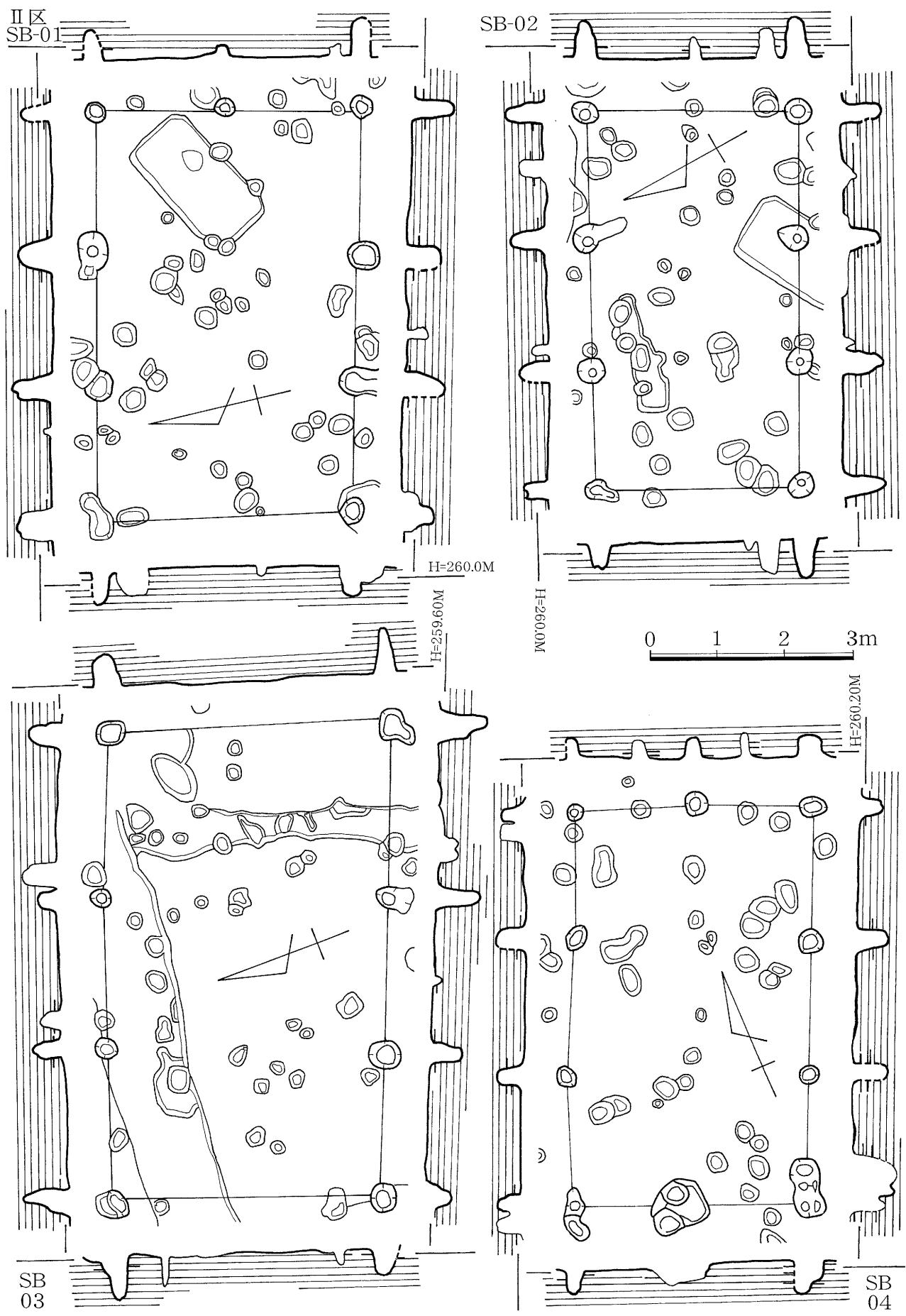
II区の南縁中央東寄りに位置した、直径1.1m前後の円形を呈する、深さ46cmの土坑であり、壁は垂直に近い。覆土から、土師器片22点等が出土し、貯蔵穴の可能性がある。

4. 古代～中世

掘立柱建物跡12棟のほか、道路状遺構・溝状遺構・土坑・土壙墓・自然流路（遺物包含層）を検出した。

II区 SB-01（第34図）

古代～中世の柱穴が密集する南中央付近に位置した、梁行2間（3.75~3.90m）・桁行3間（6.0



第34図 II区 SB-01~04 遺構実測図

～6.15m) の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径30～45cm・深さ45～65cmを測る。主軸方位は、N74°Wである。

S B-02 (第34図)

01号建物の北東に位置し、16号土坑を切る、梁行1間(3.0～3.1m)・桁行3間(5.6～5.7m)の建物である。柱穴の規模は、直径30～40cm・深さ53～64cmを測る。主軸方位は、N62°Wである。

S B-03 (第34図)

II区中央やや北寄りに位置した、梁行1間(3.9～4.15m)・桁行3間(7.0m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径30～48cm・深さ37～70cmを測る。主軸方位は、N67°Wである。

S B-04 (第34図)

01・02号建物と重複する、梁行2間(3.54～3.9m)・桁行3間(5.85～5.95m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径22～37cmを測る。主軸方位は、N25°Eである。

S B-06 (第35図)

II区中央やや西寄りに位置した、梁行2間(4.80～4.90m)・桁行3間(6.25m)の南北方向の建物と推定される(机上復元)。柱穴の規模は、直径17～50cm・深さ20～40cm程である。主軸方位は、N8°Eである。

S B-07 (第35図)

06号建物と重複する、梁行2間(4.65m)・桁行3間(5.7m)の建物である。柱穴の規模は、直径17～35cm・深さ20～60cm程と推定される(机上復元)。主軸方位は、N8°Eである。

S B-08 (第35図)

大型土坑(S Z-03)下面で確認された、梁行2間(4.1～4.4m)・桁行3間(5.3～5.4m)の建物である。柱穴の規模は、直径27～40cm・深さ30～50cm程である。主軸方位は、N18°Eである。

S B-09 (第35図)

08号建物の東に位置する、梁行1間(4.1～4.45m)・桁行3間(6.6～6.7m)の建物である。柱穴の規模は、直径32～55cm・深さ40～60cm程である。主軸方位は、N66°Wである。

III区 S B-01 (第35図)

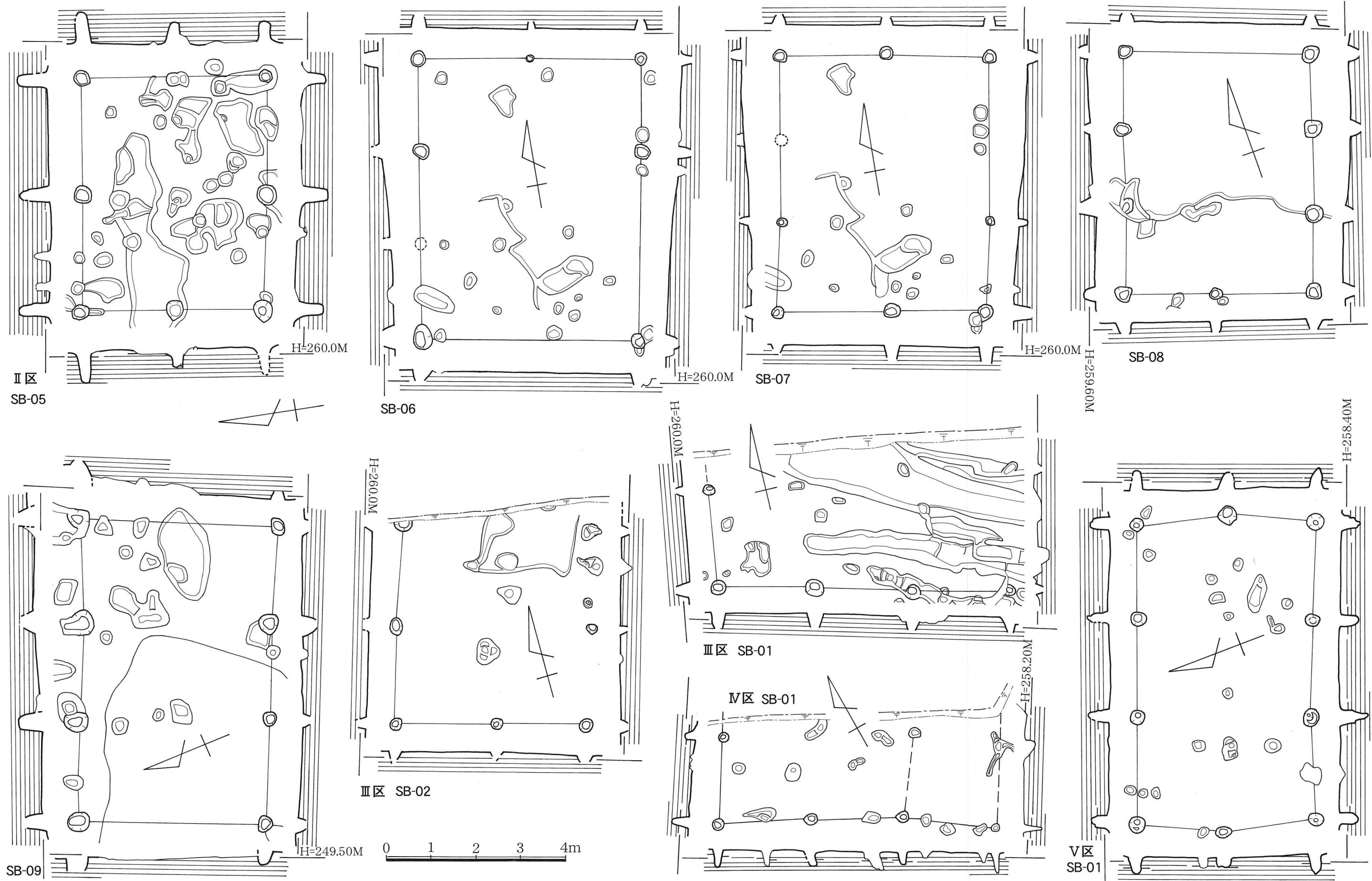
03号道路に切られた、梁行1間(2.2m)以上・桁行3間(6.45m)と推定される建物である。柱穴の規模は、直径27～42cm・深さ40～50cmを測る。主軸方位は、N87°Wである。

S B-02 (第35図)

01号建物の西に位置した、梁行2間(4.24m)・桁行2間(4.4～4.5m)以上の建物である。柱穴の規模は、直径24～40cm・深さ30cm程である。主軸方位は、N18°Eである。

IV区 S B-01 (第35図)

梁行2間(4.1m)・桁行1間(1.95m)以上(3間か)の南北方向の建物と推定されるが、東西方向の可能性もある。柱穴の規模は、直径20～28cm・深さ28～40cmを測る。



第35図 II区 SB-05~09, III区 SB-01~02, IV区 SB-01, V区 SB-01 遺構実測図

V区 S B-01 (第35図)

梁行2間(3.95m)・桁行3間(6.6m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径25~37cm・深さ22~65cmを測る。主軸方位は、N69°Wである。

S B-02 (第451図)

01号建物と重複した、梁行1間(3.95m)・桁行3間(7.5~7.72m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22~32cm・深さ30cm程である。主軸方位は、N85°Wである。

S K-16 (第37図)

II区中央南寄り、02号建物に先行する長さ1.98m・幅1.02~1.10mの隅円長方形を呈し、検出面からの深さは8~12cmであり、30cm程度の削失が推定される。遺構の性格を示す構造や副葬品は無いが、中世の土壙墓であろうと推定している。

S K-33 (第37図)

II区中央北縁で検出した、直径1.02~1.10m・深さ0.34mの土壙墓である。底面西縁に、糸切り底の坏(243)が45度傾いた状態で出土した。

S K-78 (第37図)

II区東南部で検出した、長径1.21m・短径1.07mの楕円形を呈する土坑で、深さは18~24cmを測るが、土層的には10cm程の削失が推定される。機能を示す証左は無いが、土師器の小片5点が出土している。

S K-96 (第37図)

III区西端部で検出した、長軸1.42m・短軸1.23mの隅円長方形を呈する土坑で、深さ12cm程が遺存する。土層的には、50cm以上の削失が推定される。機能を示す証左は無いが、土師器の小片27点と須恵器片1点が出土している。

S K-97 (第37図)

96号土坑の2m程東に位置した、直径1.53~1.80mの不整円形を呈する土坑で、深さ8cm程が遺存する。土層的には30cm程の削失が推定される。覆土から土師器の小片10点が出土しているが、図化に耐えない。当土坑の東側にも同様の小型土坑が6基密集しており、96号土坑も含めた土坑墓群(古代か)が造営されていた可能性が高い。

S K-113 (第37図)

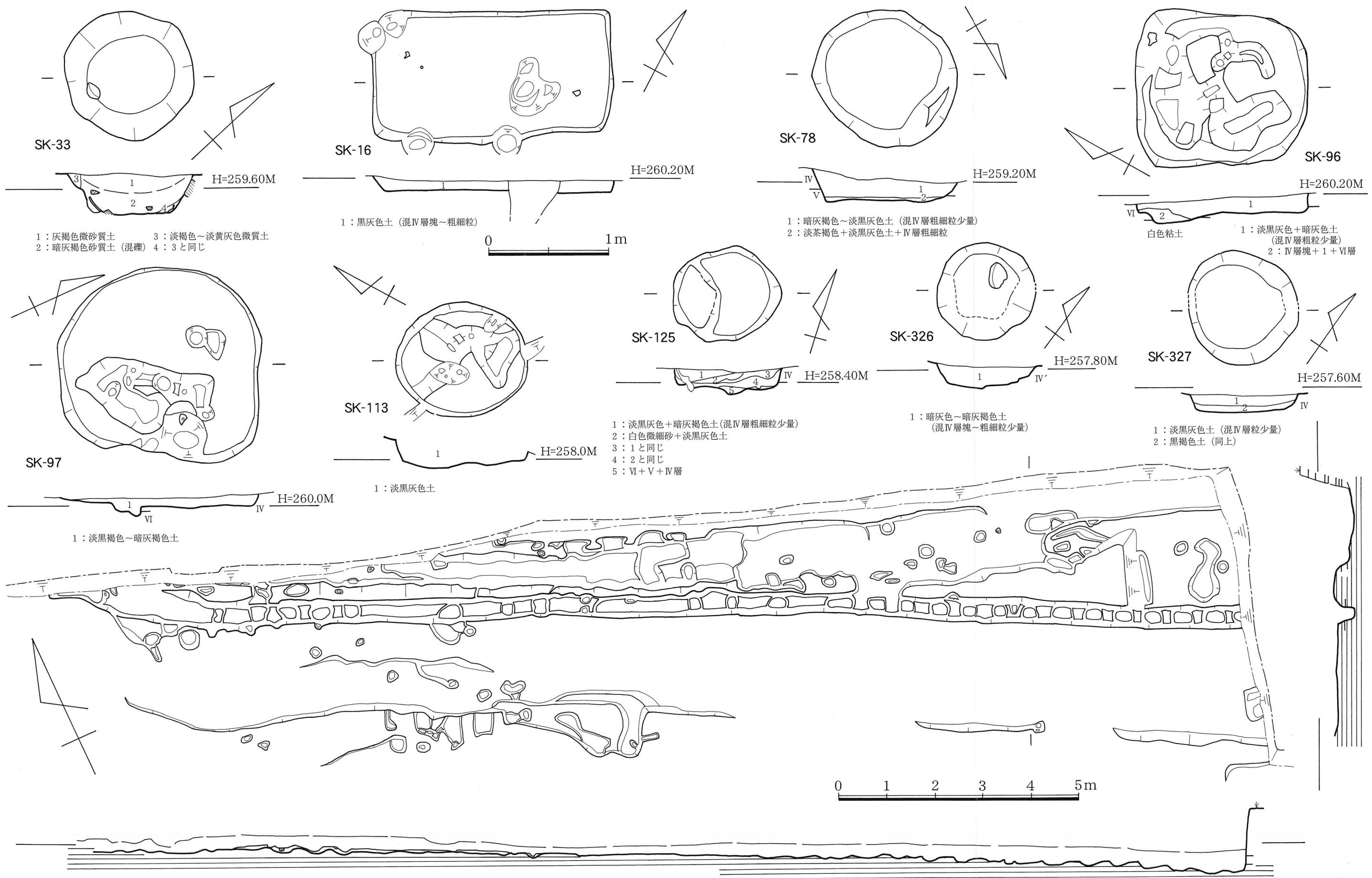
10号住居の東12mに位置し、20号溝に切られた、長径1.08m・短径0.94mの円形を呈する土坑である。出土遺物は無いが、中世以前の土坑である。

S K-125 (第37図)

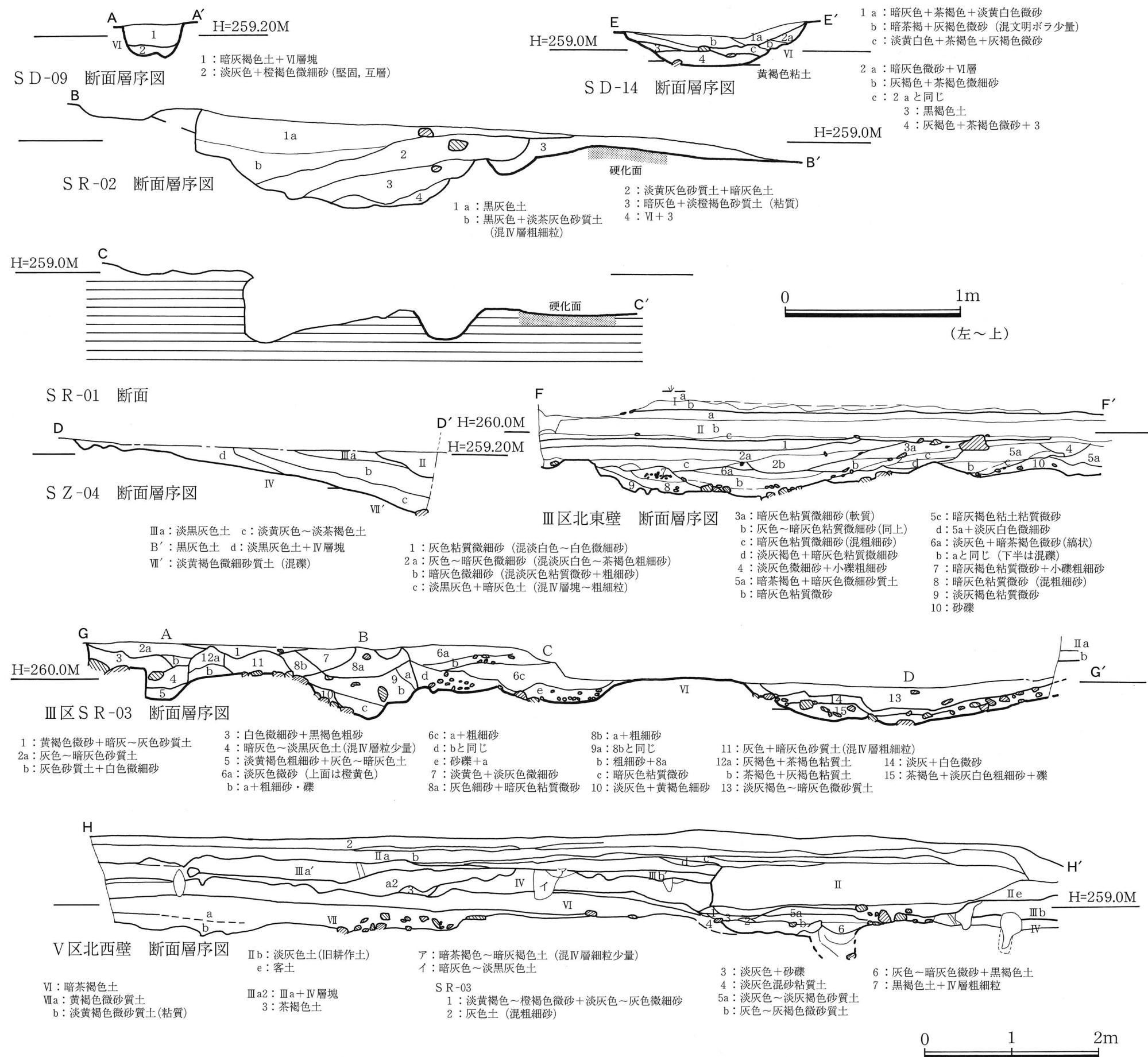
12号住居の南4mに位置し、長径0.90m・短径0.74mの楕円形を呈する土坑である。土層的には30cm程の削失が推定される。出土遺物は無いが、覆土は淡黒灰色土と白色粘質微細砂が縞状に堆積した特殊な土坑である。中世以前の土坑であるが、機能は不明である。



第36図 II区 SR-02・SD-09 遺構実測図



第37図 SK-16・33・78・96・97・113・125・236・237, IV区 SR-03 遺構実測図



第38図 II～V区 遺構・壁面 断面層序図

S K -326

10号住居・113号土坑の南、遺物包含層（S X -01）の掘り下げ時に検出した、直径80cmの円形土坑である。深さは17cmで、覆土からの出土遺物は無い。古代以前の土坑であるが、性格不明。

S K -327

326号土坑の5m北東に位置した、直径0.89~0.97mの不整円形を呈する土坑である。深さ15cmで、出土遺物は無い。中世以前の土坑である。

S R -01 (第36図)

II区の北東縁で検出された、道路跡と側溝である。幅30~40cm・深さ10cm程の南西方向に湾曲する側溝の北縁に沿う形で、幅50cm前後・長さ10m程の硬化面が確認された。白川方向へ下降する小路と思われ、覆土の質から古代に属すると思われる。中程の膨らみは、突発的濁流による搅乱・破壊・埋没の過程を示す。

S D -09 (第36図)

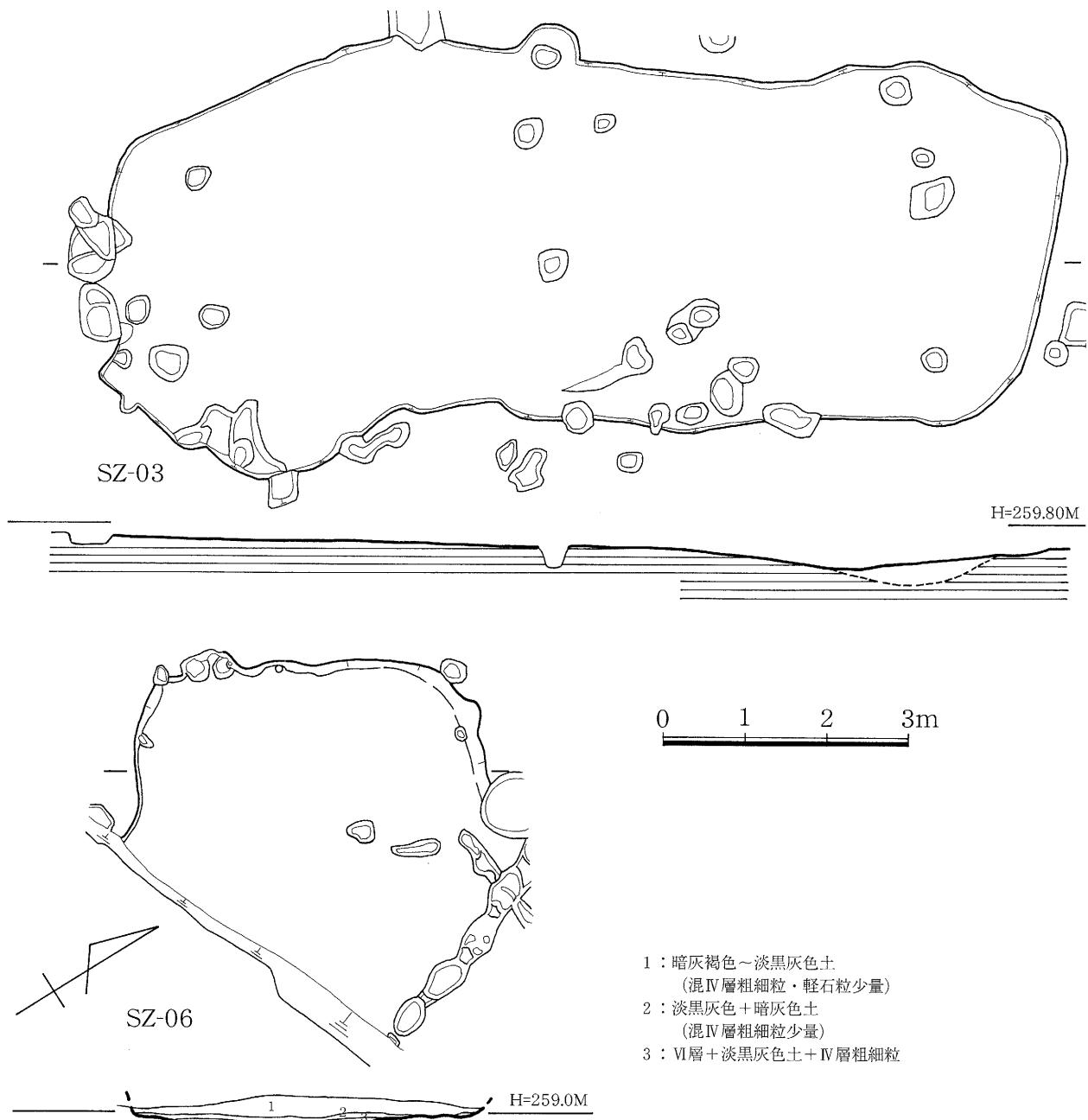
01号道路の南側6m程に並行する、幅30~40cmの溝状遺構であるが、底面は淡灰色微細砂と橙褐色微細砂を交互に搗き固めた埋土の土坑が連続する構造になっている。覆土には砂を殆ど含まないので、用排水路ではないであろうが、幅の狭さからすると小路とも断定し難い。

S D -01 (付図1)

01号土坑から半径4.5mで湾曲し、東南東方向へ延びる、幅15~35cm・深さ10~20cmの溝状遺構であるが、機能は不明である。近世の陶器の可能性がある土器片（629）が出土したが、混入したと思われる。



第39図 III区 S D -15 遺構実測図



第40図 SZ-03・06 遺構実測図

S D-02・03 (付図1)

中世の区画溝と思われる。

S D-15 (第39図)

04号住居と08・09号住居の間に、南方にやや湾曲する溝状遺構である。最大幅は2.2mを測り、覆土は粗細砂を多く含む。底面中央付近には、拳大～人頭大の礫を並べて水流・水量調節が施されている。覆土から青磁碗(467)と白磁の口禿げ皿(520)が出土しており、14世紀頃の遺構と思われる。

S D-18・20 (付図)

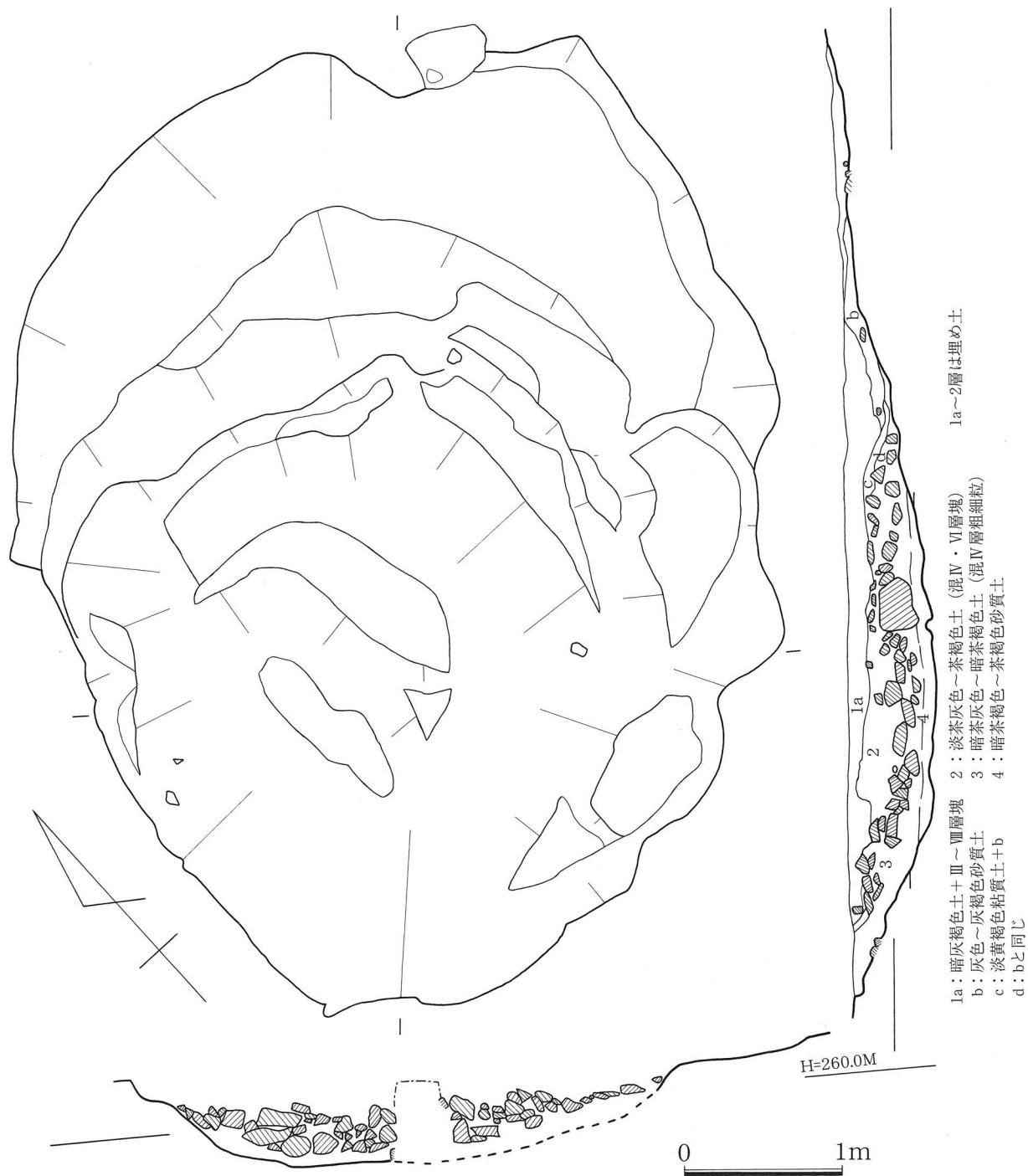
中世の溝状遺構であるが、機能は不明である。

S Z-03 (第40図)

II区の北縁に位置する、長さ11~11.7m程・幅4~4.5mの大型土坑である。中央付近から緩やかに東側へ深くなり東端から1.5m付近が最も深く、45cmを測る。覆土から青磁碗（482）が出土しており、16世紀前半頃の遺構と思われるが、機能は不明である。

S Z-06

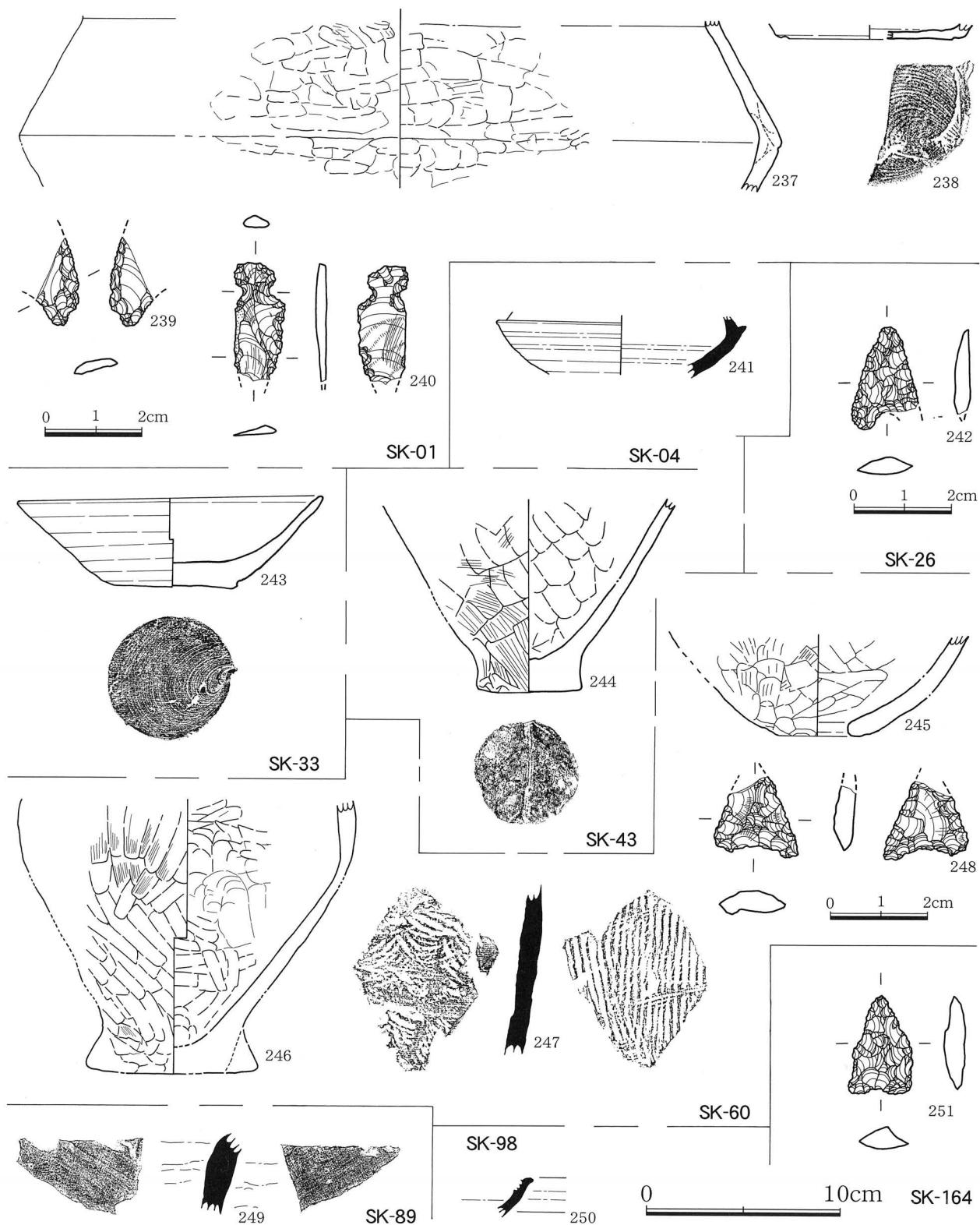
II区東端で検出した、南北4.2m程の大型土坑であるが、東半分が削失しているため、形状は不明瞭である。年代を示す遺物も無いが、15~16世紀と思われる。



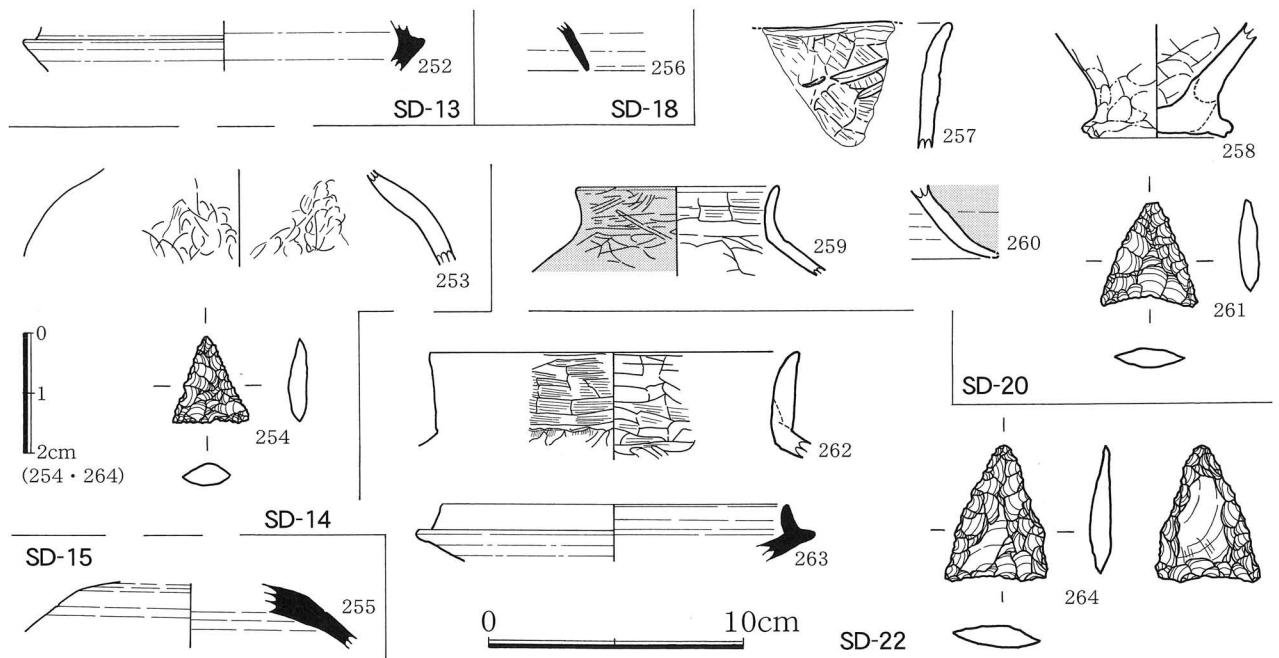
第41図 II区 S Z-01 遺構実測図

5. 近世以降

近世中頃から座棺墓が営まれ、戦後まで続く。特に13号住居周辺に密集するが、棺材痕や副葬品は無く、鉄釘も出土していない。04・05号溝は、近現代の水田に係るものである。01号道路は、戦後まで農道があつたらしく、浅い側溝も付設していた。Ⅲ～Ⅳ区にかけても道路跡（S R-03）が検出され、Ⅵ区まで断続的に検出している。Ⅱ区の西北部20m四方程は近現代の掘立柱建物（S B



第42図 SK-01・04・26・33・43・60・89・98・164 出土遺物実測図



第43図 SK-13~15・18・20・22 出土遺物実測図（陶磁器以外）

-01を含む）が数棟建っていたらしい。

S Z-01（第41図）

II区東南端で検出した、長径6.1m・短径4.5mの楕円形を呈する大型土坑である。北西部が最も深く60cm程である。基底部から10cm程は自然堆積であるが、中層は拳～人頭大の礫が大量に埋められている。宅地もしくは開墾造成に伴う廃棄礫の処理穴と思われる。近世末～近代の所産である。

S R-03

現代の畦畔と重なる部分が多く、年代的にも新しかるために、肩部がIV層以下の自然堆積層になるまで機械掘削している。結果的には、黒灰色土を覆土とする中世まで溯ることが判明（A・B）し、Cは、底面に砂礫混じりの堅固な粘質土が入っている土坑が連続した構造であり、IV区の北縁でも続きが検出された（第37図）。

IV区とV区の境は道路の分岐点であるよう、V区の北東壁（H-H'）においても灰色系の微細砂を主とする近世の流土が確認された。現代畦畔と道路によって全体像が掴めず、各時期の道路幅や側溝との関係は不明である。

6. 遺構以外の調査と出土遺物

III区の08～10号住居の調査中、上面の遺物包含層が調査予定地外の南へ延びていることが判明し、工事計画図と参照しつつ、掘削されてしまう部分について調査することとし、自然流路へ合流する凹地的部分をS X-01とした。近世以降（灰色系）の土はスコップで掘り下げ、中世以前を手掘りでIV層上面まで掘り下げた。

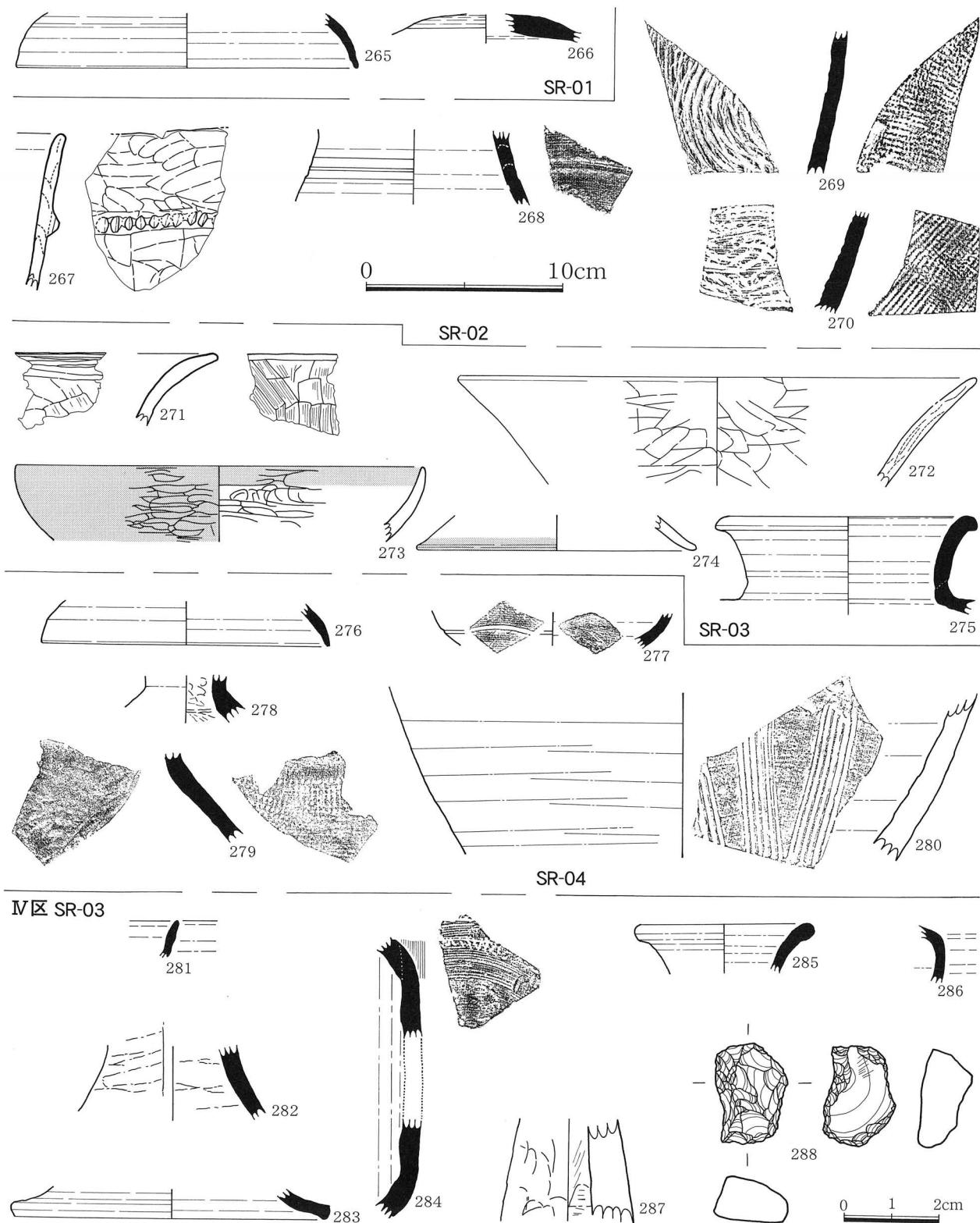
S X-01

土師器のほか、須恵器、土師質土器、輸入陶磁器、磨製石鎌、砥石、台石、石鍋など、多種多量

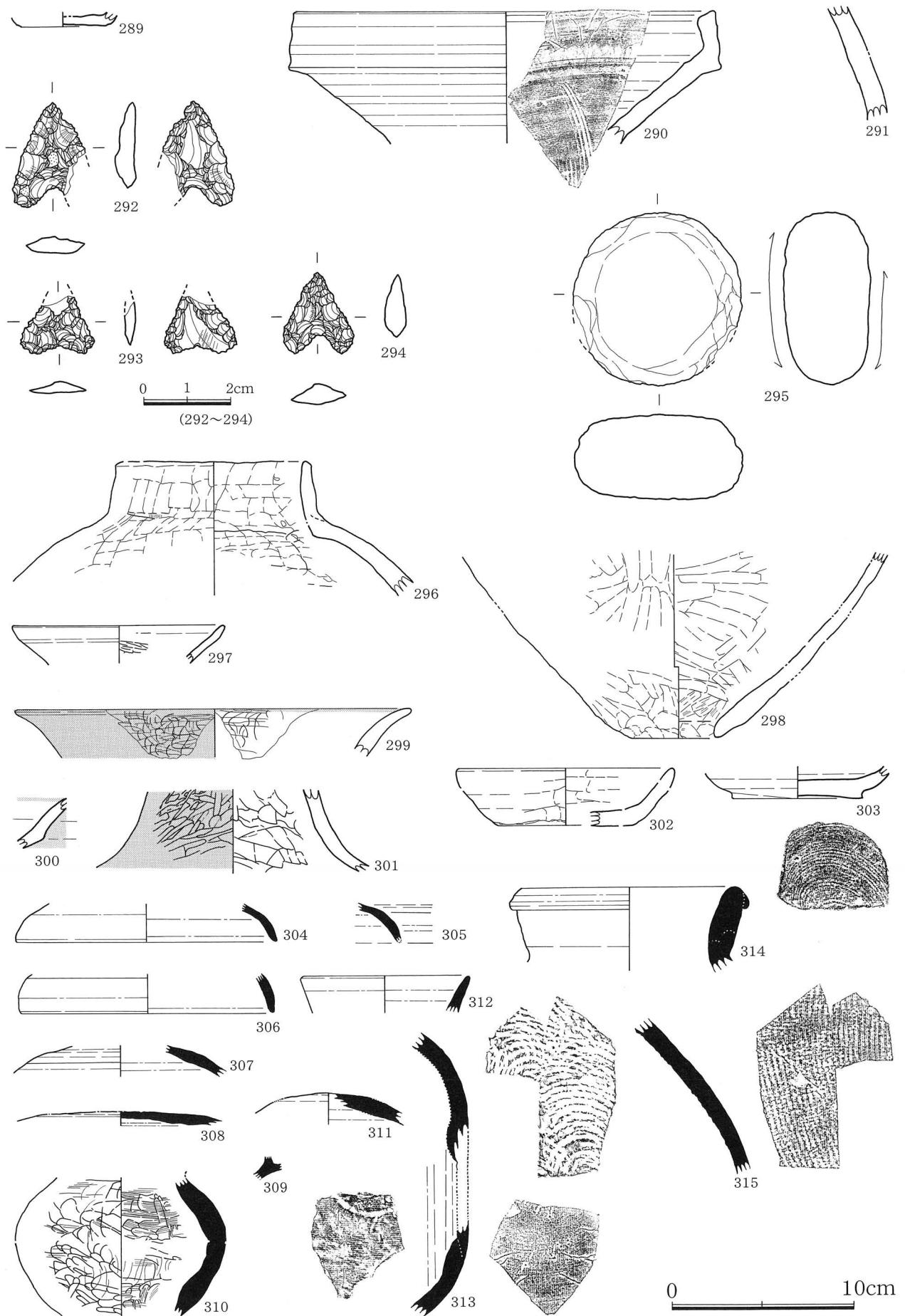
の遺物が出土した。07号住居出土の須恵器甕の胴部片（125）と、10号住居出土の須恵器高坏（179）には当地から出土した破片が接合しており、当地が6世紀後半以降の不要物廃棄場になっていたようである。

S Z-02

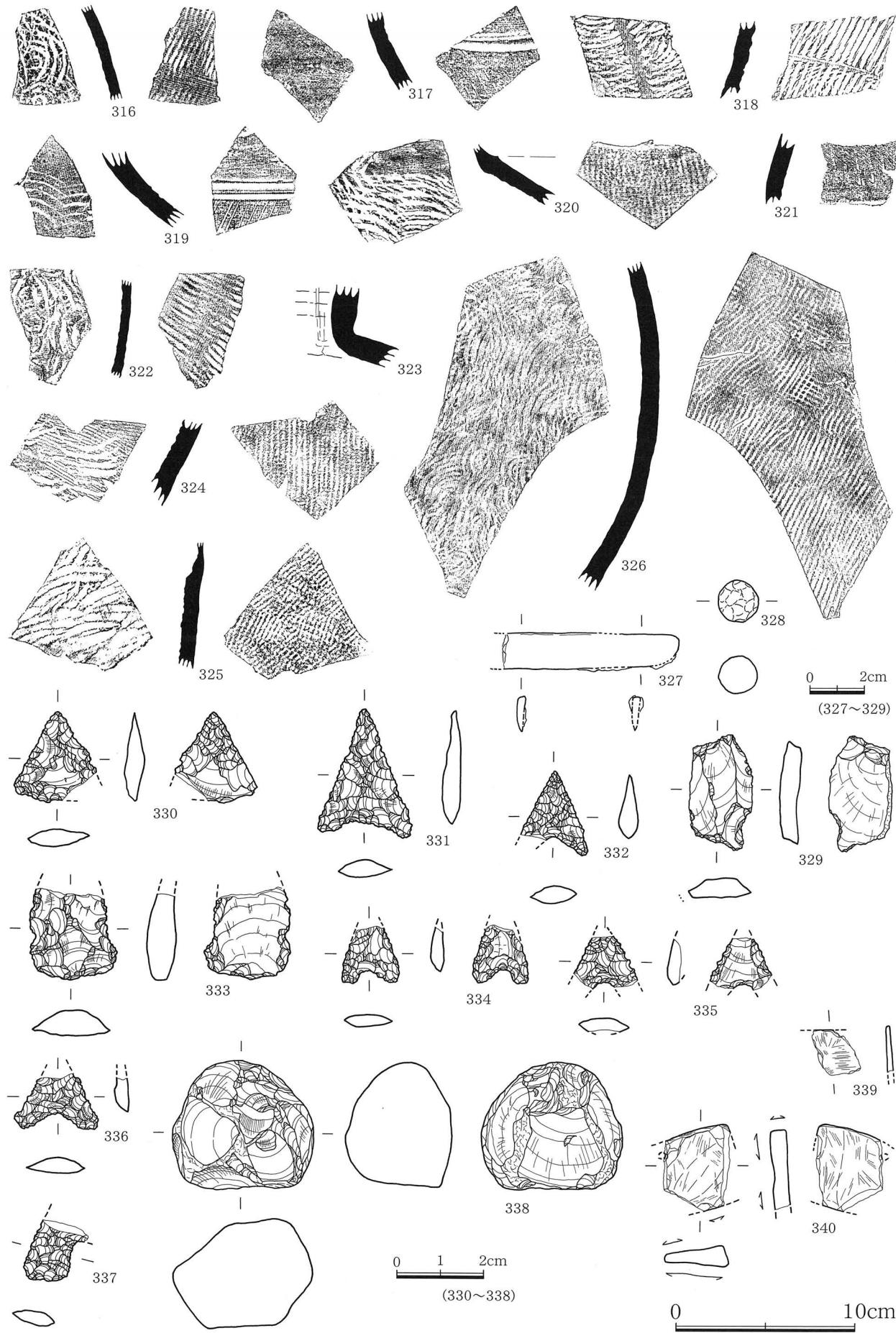
03号住居の4～6m南に、長さ6mのⅢ・Ⅳ層の混じる範囲があった。掘り下げた結果、遺構に



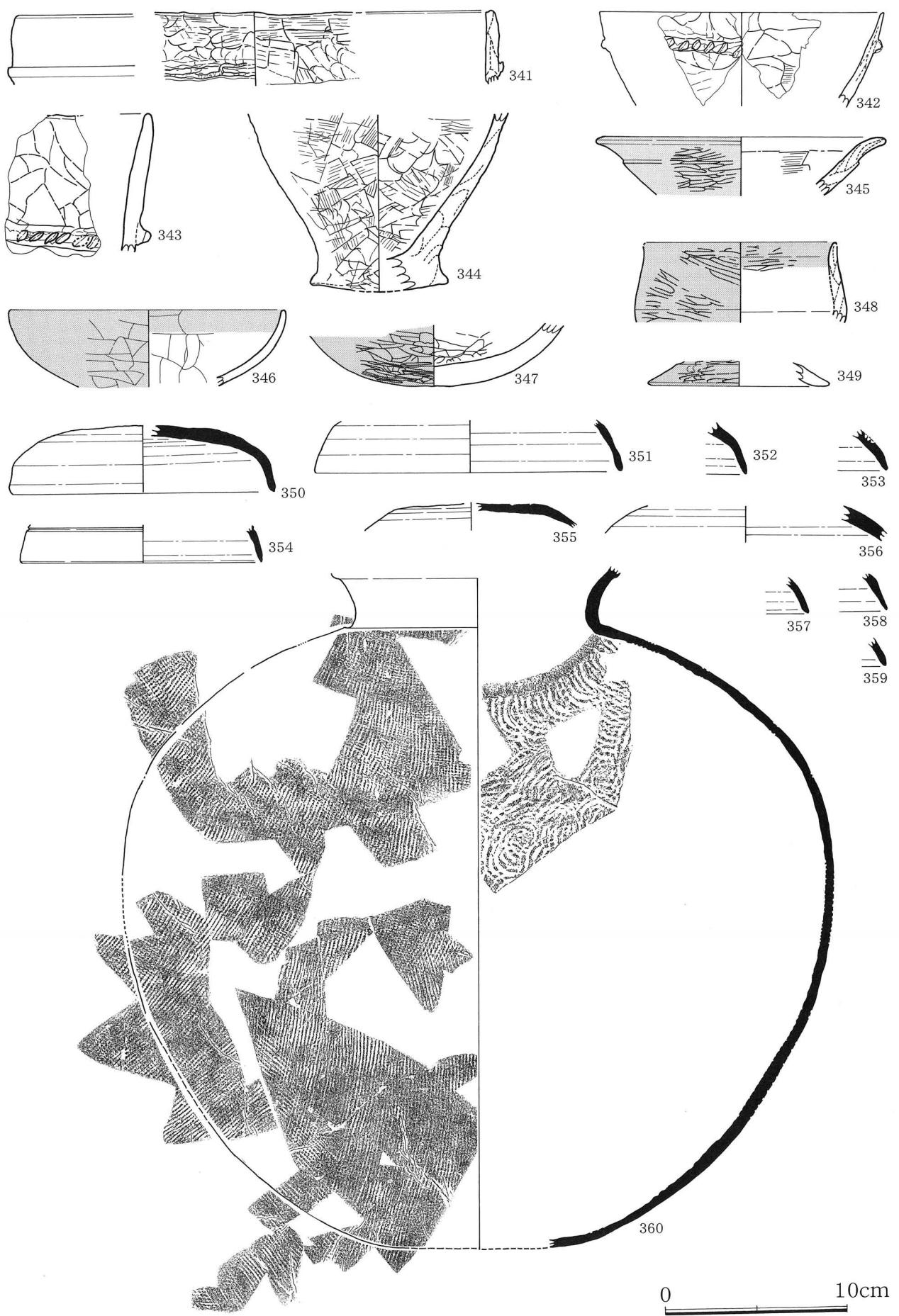
第44図 S R -01～05 出土遺物実測図 (陶磁器以外)



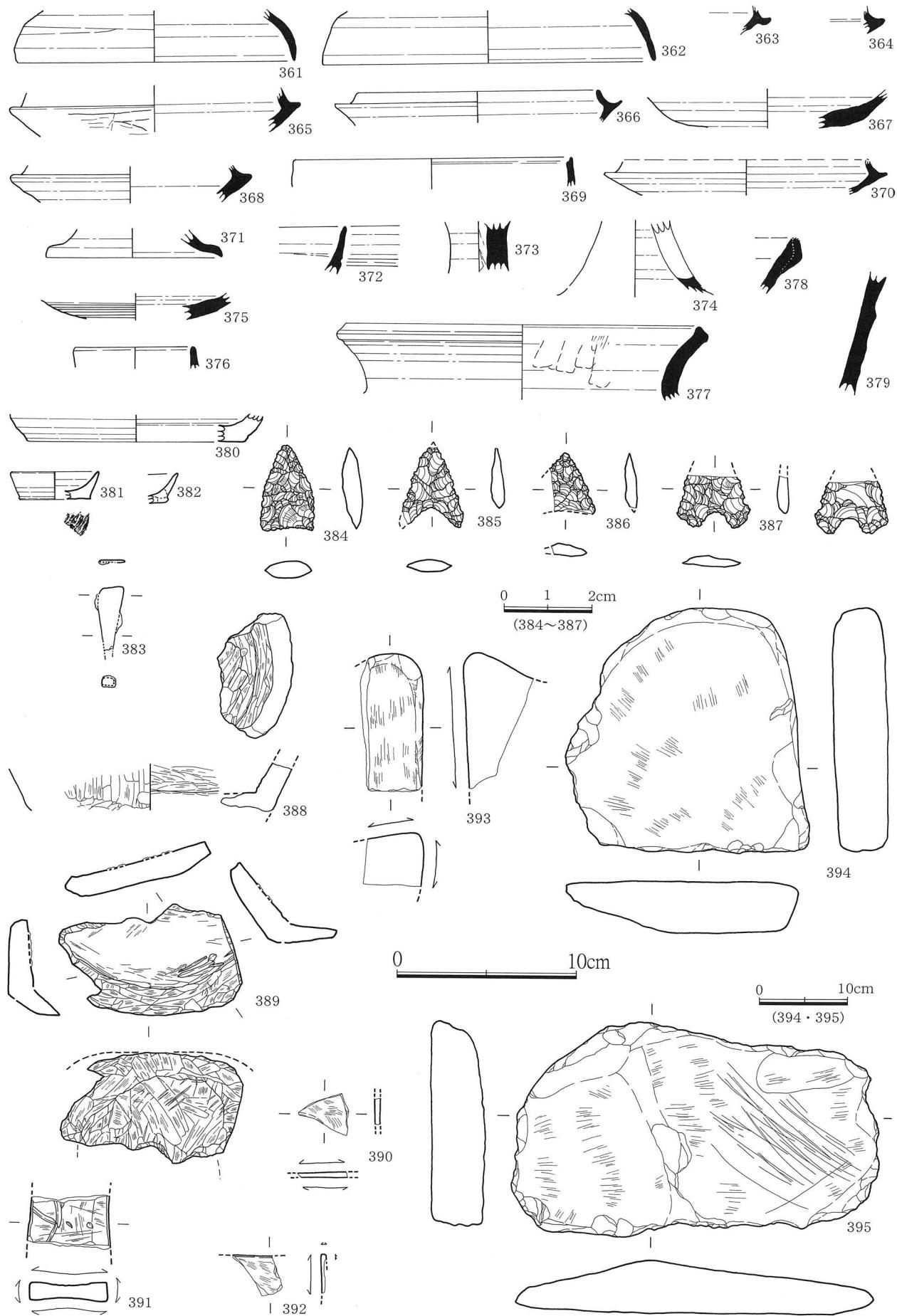
第45図 I・II区 II～III層・pitほか出土遺物実測図(1)



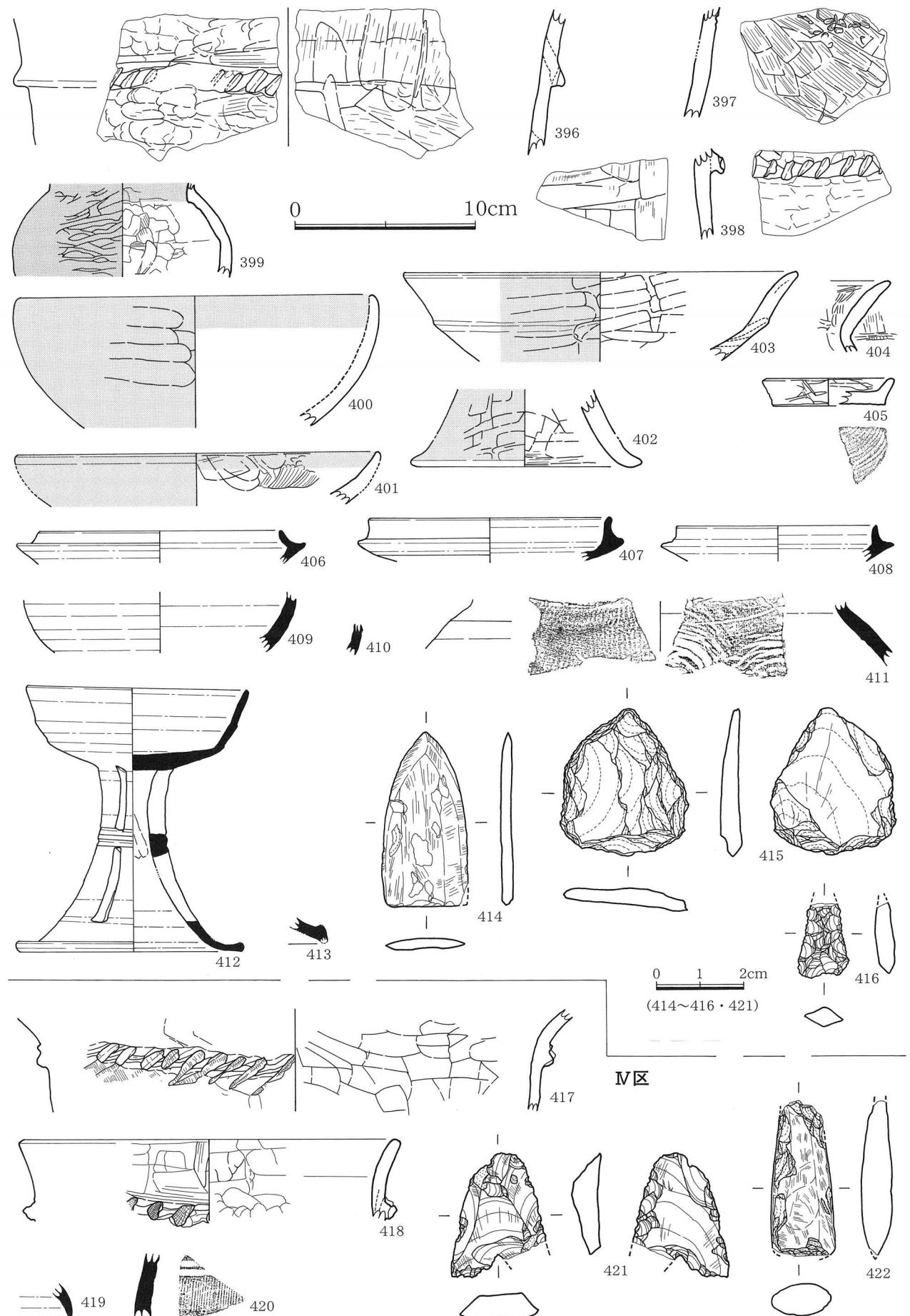
第46図 Ⅱ区 Ⅱ～Ⅲ層・pitほか出土遺物実測図(2)



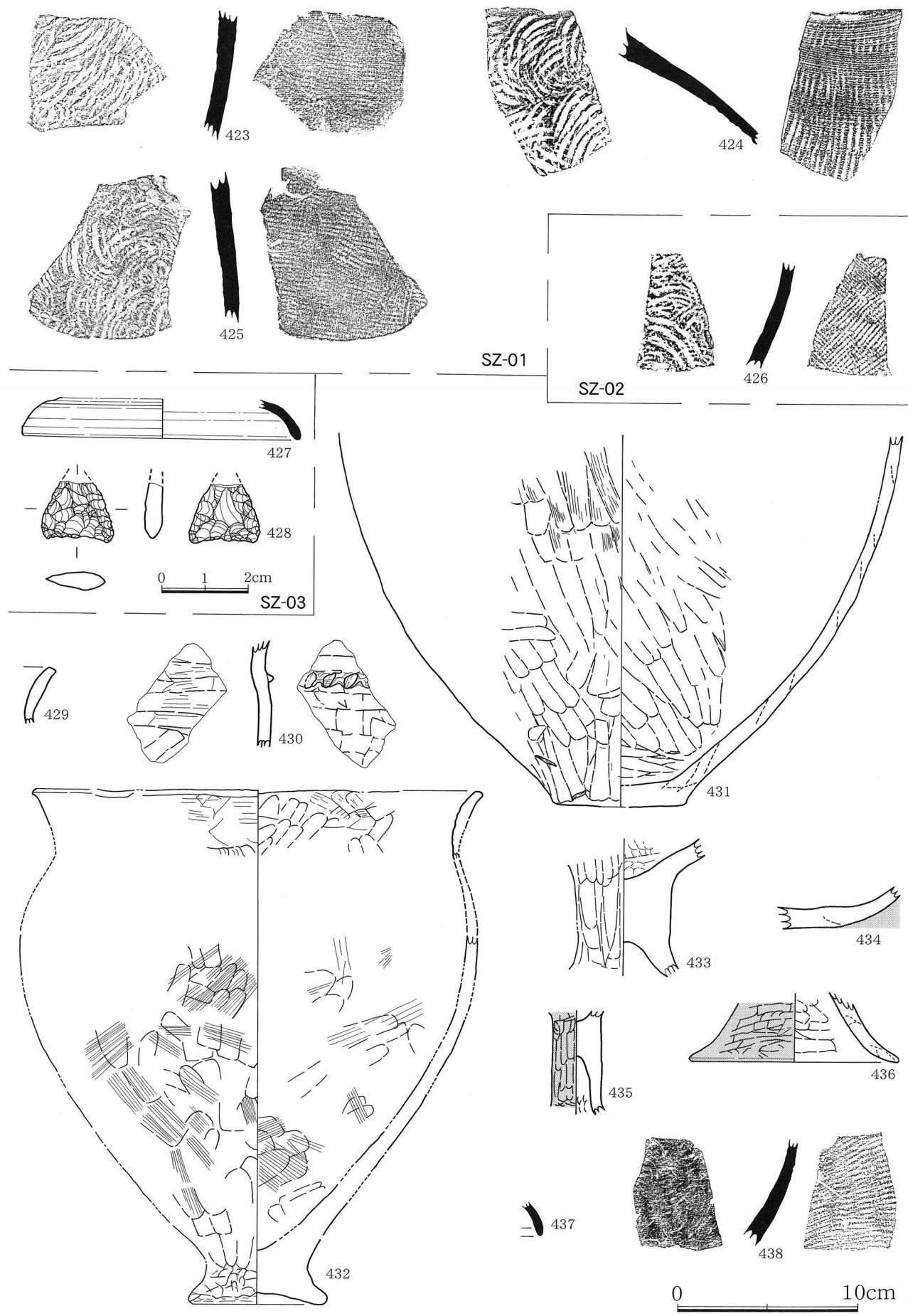
第47図 Ⅲ区 SX-01 出土遺物実測図(1)



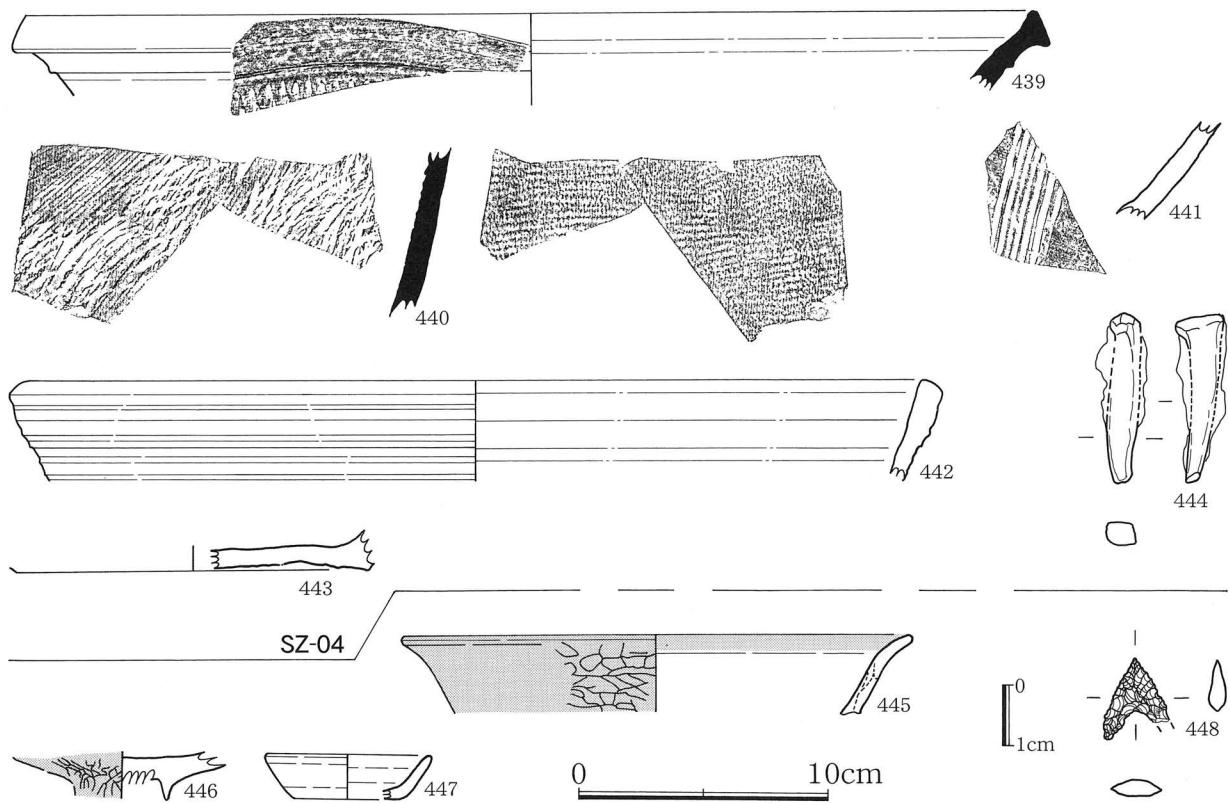
第48図 Ⅲ区 SX-01 出土遺物実測図(2)



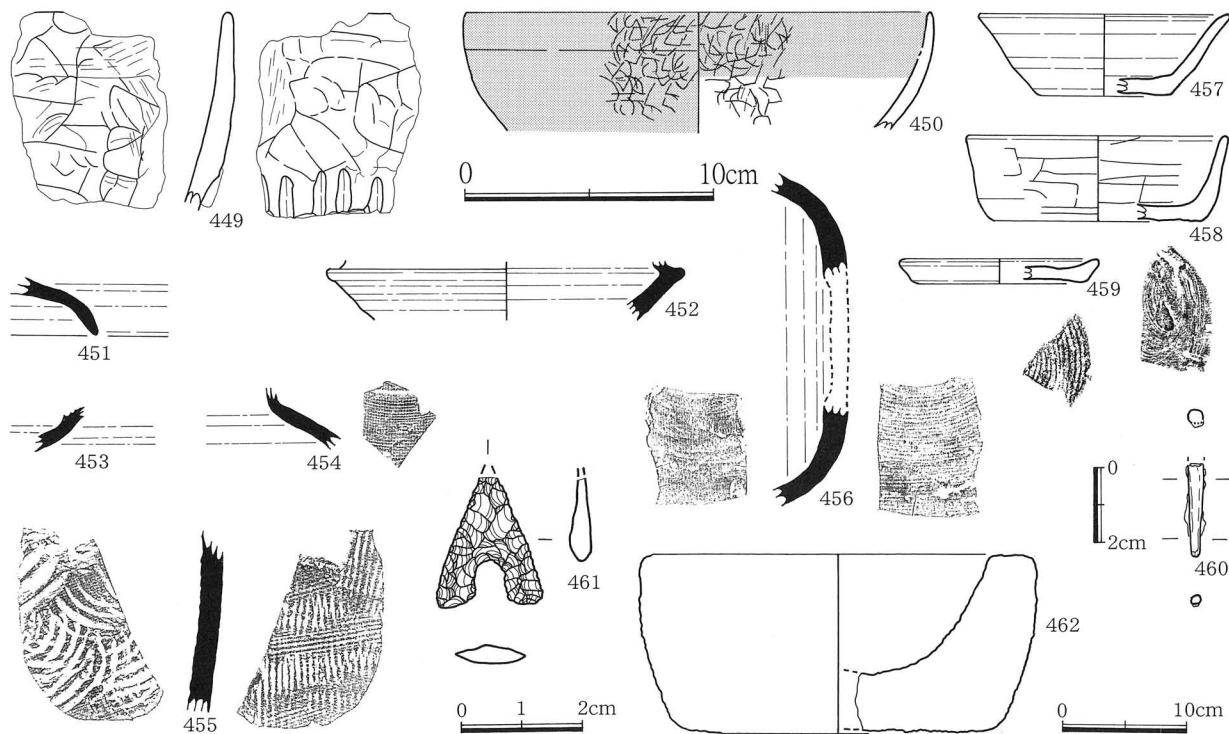
第49図 III~IV区 II~III層・S X-01 出土遺物実測図



第50図 II区 SZ-01~04 出土遺物実測図(1)



第51図 S Z-04 出土遺物実測図(2), S Z-05 出土遺物実測図

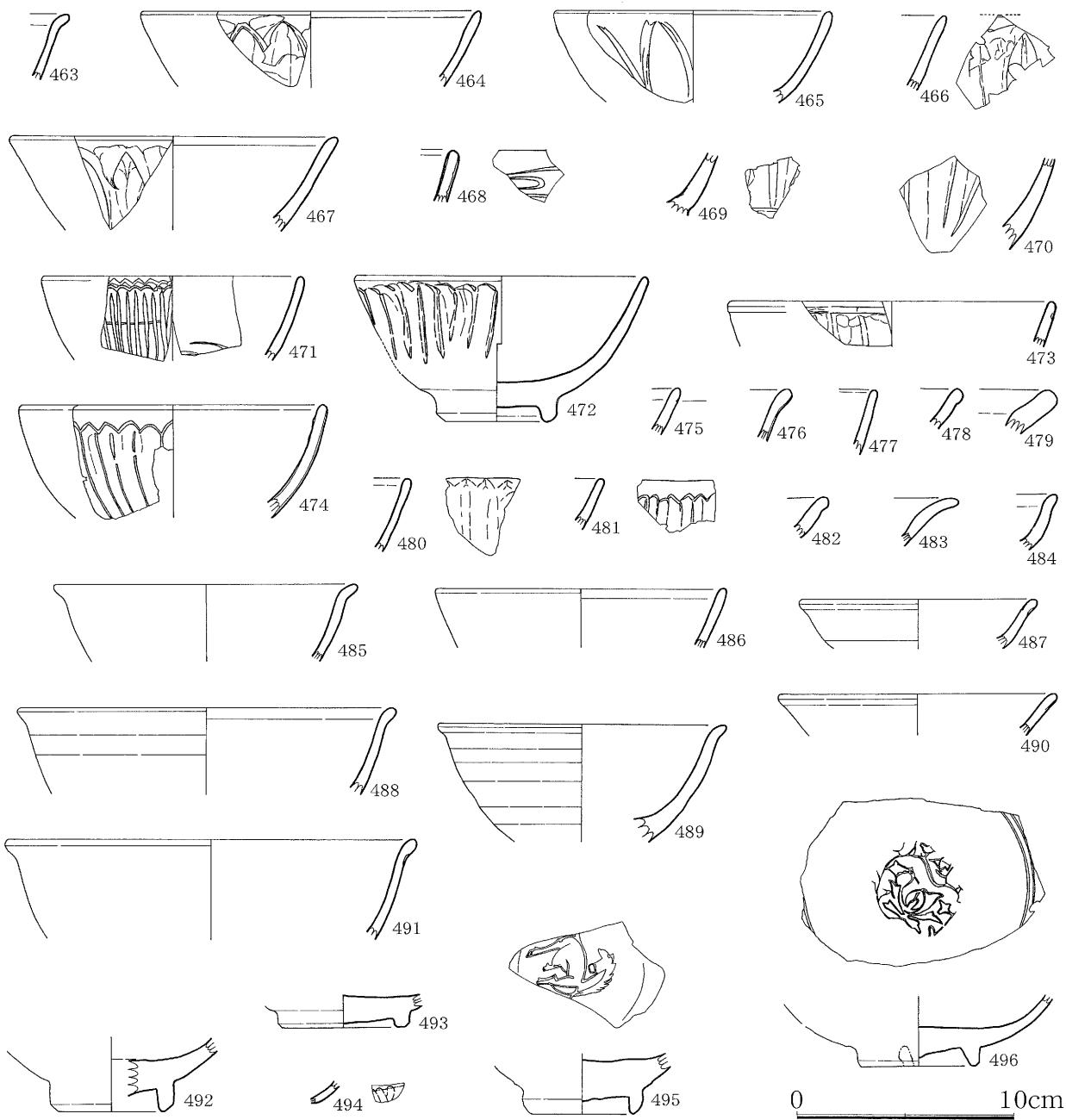


第52図 V区 II ~ III層ほか出土遺物実測図

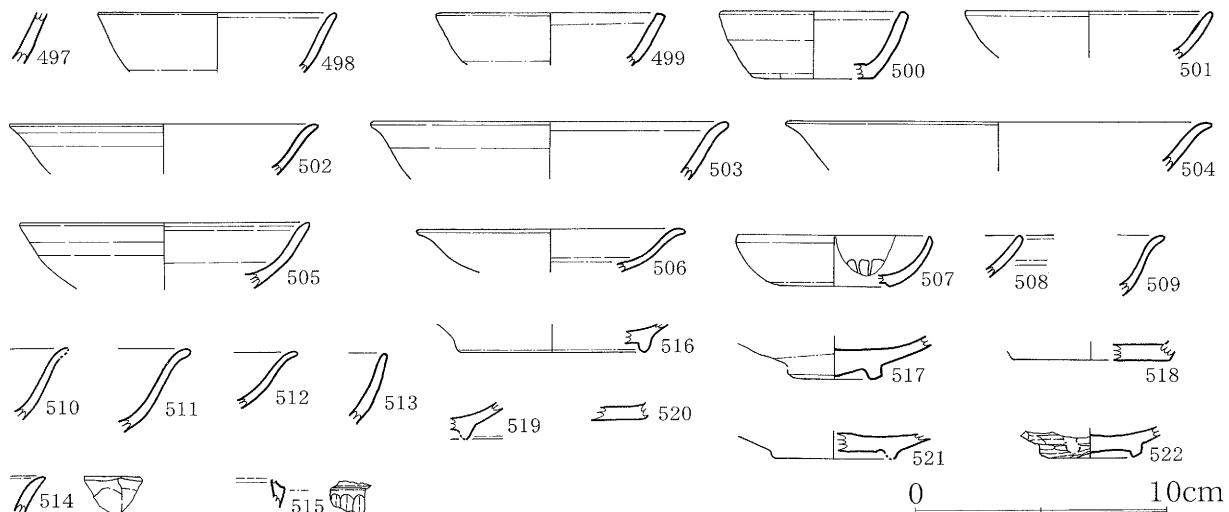
はならず、若干の土師器と須恵器（426）が出土した。

S Z-04

II区の北縁中央部の、段丘斜面上の遺物包含層である。弥生時代後期以降、中世までの土師器、



第53図 I～V区出土 輸入陶磁器 青磁 実測図



第54図 I～V区出土 輸入陶磁器 白磁 実測図

土師質土器、須恵器、中世国産陶器（441～443）などが出土したが、量的には少ない。

S Z -05

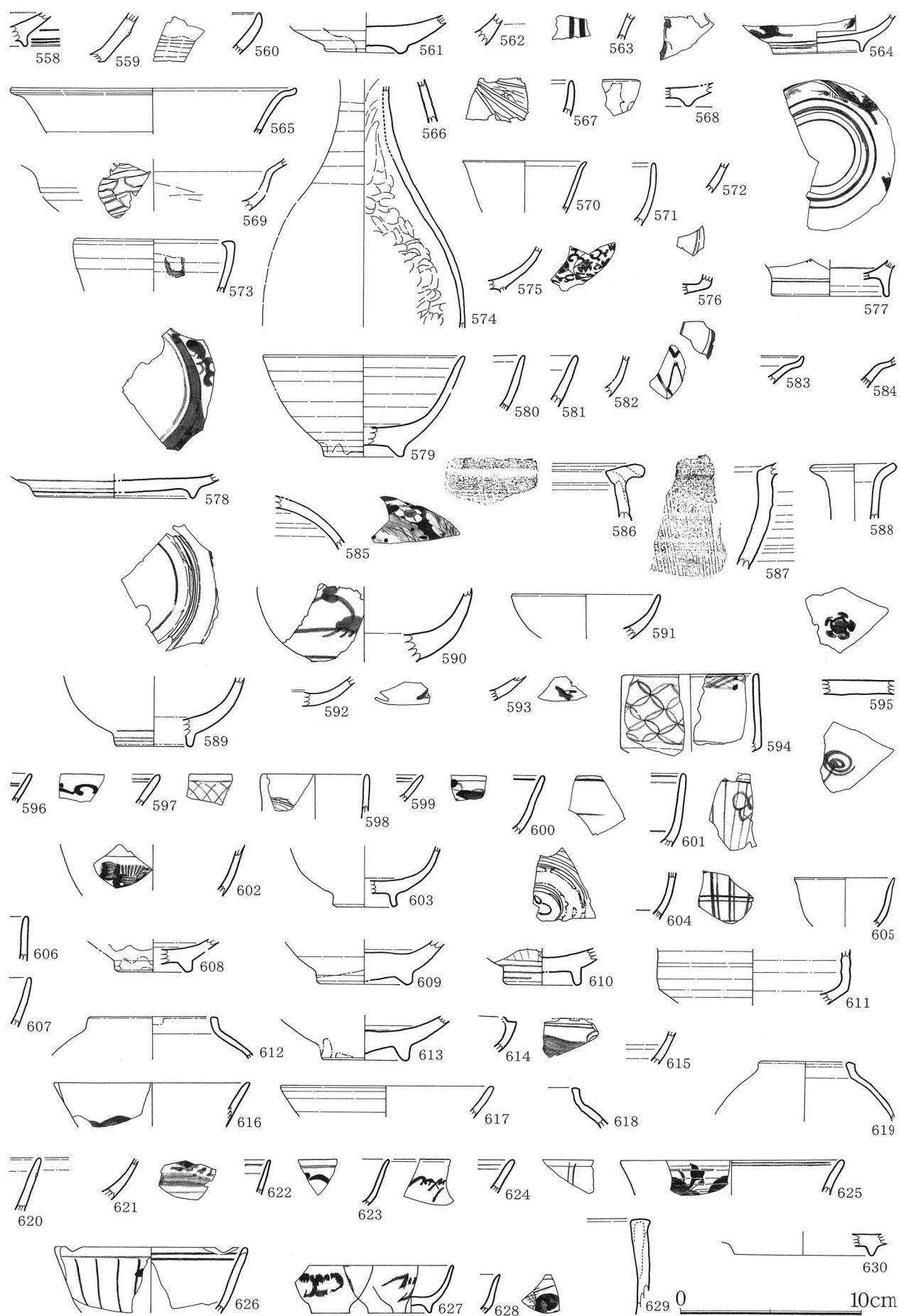
09号掘立柱建物跡の北側の遺物包含層である。古墳時代の丹塗り土師器（445・446）や土師質土器（447）などが出土している。

II区の東の水田

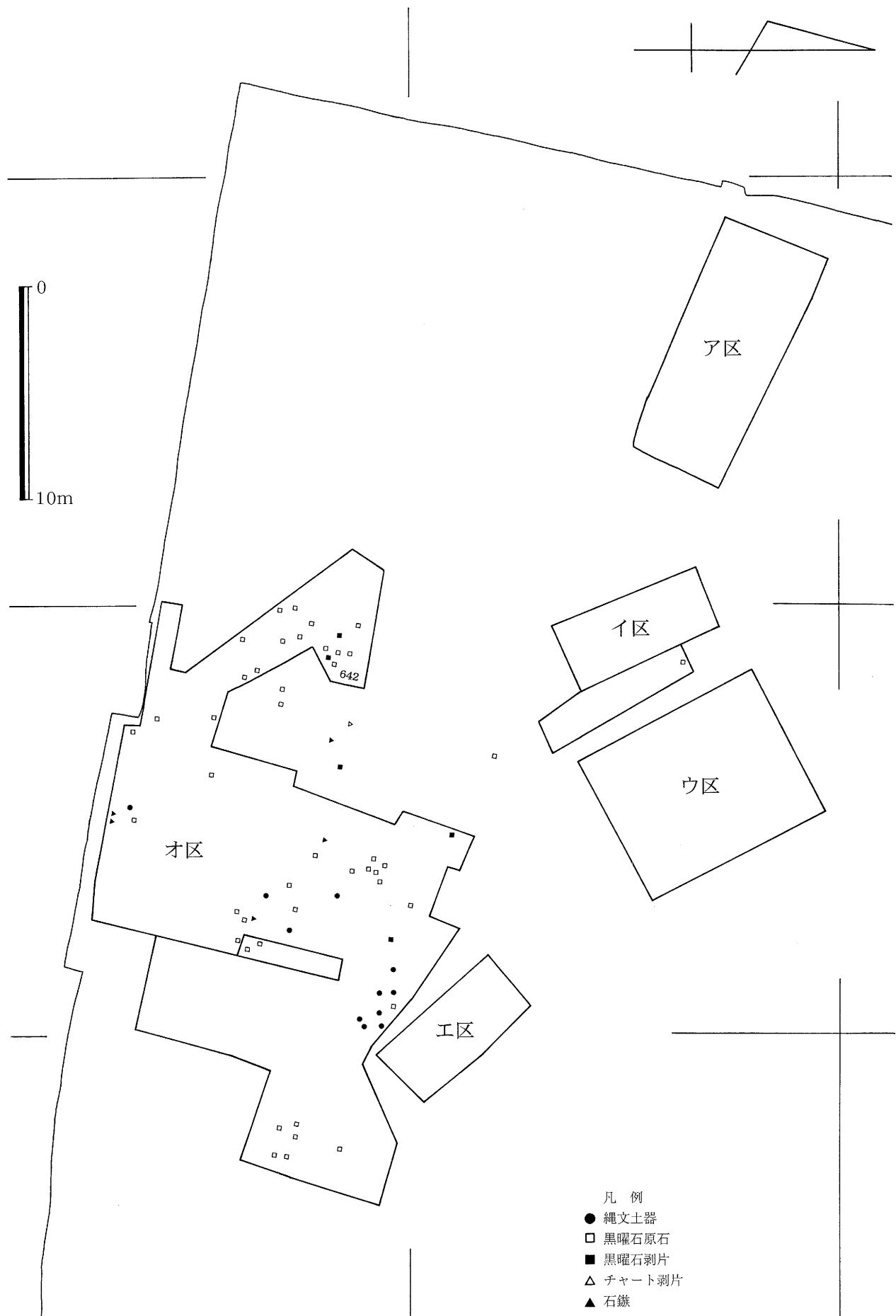
I・II区の機械掘削土を置く場所とし、斜面を造成した時にII層から、ノッチの入った剥片（329）が出土した。当石器は、下部のVII・VIII層に多く含む珪質凝灰岩（非常に堅く、石器原材としては不



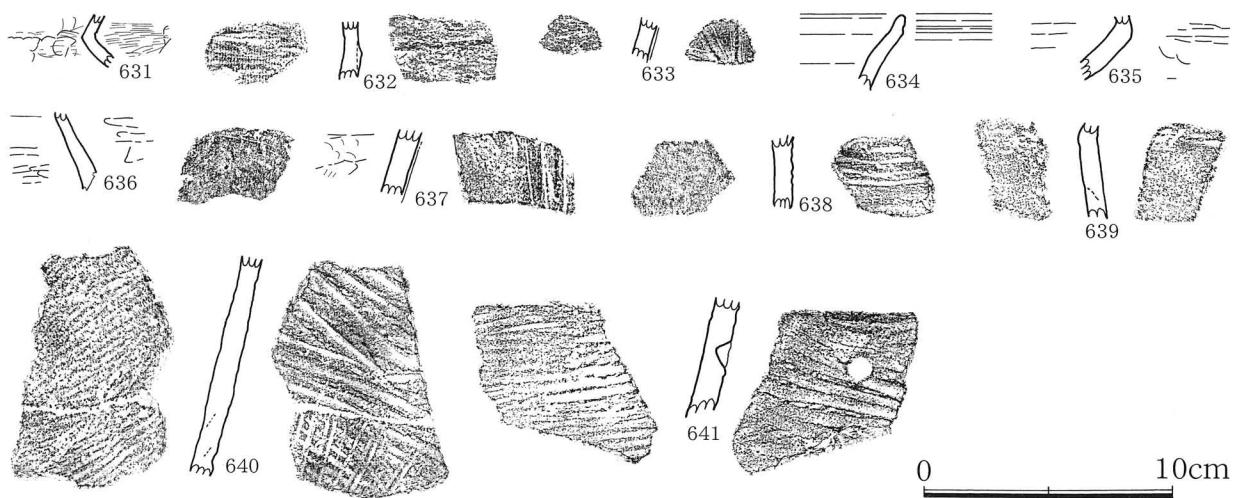
第55図 I～V区出土 輸入陶磁器 青花 実測図



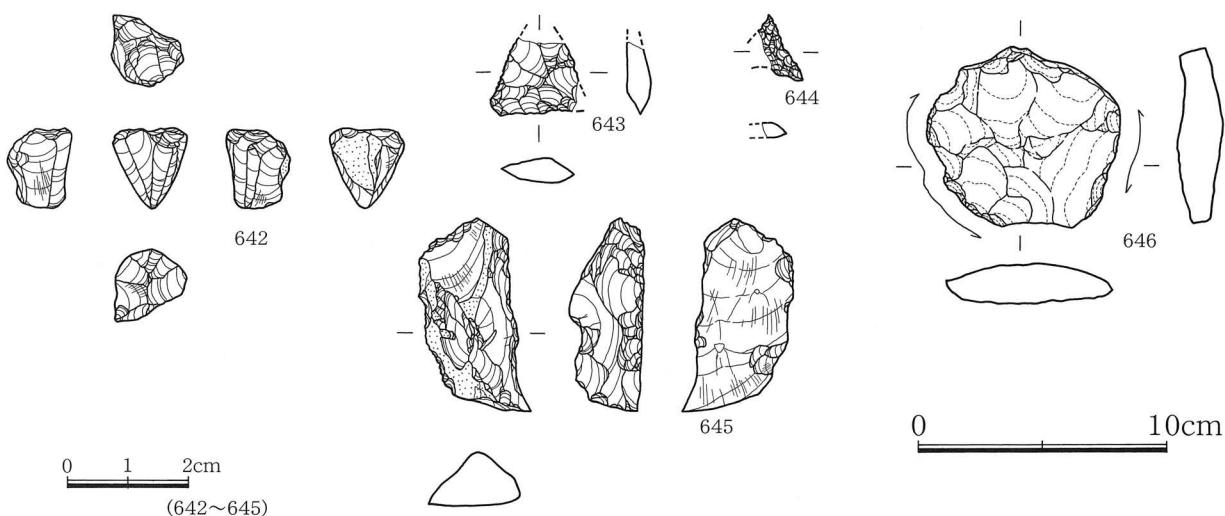
第56図 I～V区出土 近世似降国産陶磁器 実測図



第57図 II-ア～才区 VI～VII層出土遺物分布図



第58図 I・II区出土 縄文土器 実測図



第59図 II-ア・オ区出土 石器 実測図

向き)の剥片であり、この石材を使用した石器は、本市では未確認であることと、出土層位が近世以降の土なので、石器とするには違和感があった。ただ、VII～VIII層内の珪質凝灰岩の割れ面の風化状態とは明らかに異なり、形状と2次加工の状況から、石器と断定して良いのではという意見を宮崎県埋蔵文化財センターの藤木氏に御教示頂き、図化している。

338は同じくII層から出土した黒曜石の石核の様なものであるが、II層からの出土、エッジの殆どが潰れていることから、火打ち石であろうと推定されるものである。同様の遺物は、XII区ほかでも出土している。

7. 追加調査

II区の西～南中央部にかけては遺構検出面がVI～VIII層であり、調査中、小指の先程の黒曜石の原石や剥片が散在していることに気付いていた。そこで、航空写真・航空測量終了後に、トレンチを設けて掘り下げた(第57図)。

ア区はVII～VIII層で、珪質凝灰岩の亜角礫が混じる。割れ面が相当風化した珪質凝灰岩も混在した

が、石器とは判定していない。ただ1点646は刃器の可能性があり、図化している。

イ～エ区は、V層でア区と同様であるが、黒曜石の原石が出土している。

オ区は、V層～VI層において縄文時代早期の土器片や黒曜石の原石・剥片が出土したことから拡張を繰り返した結果、歪つな形になった。特に、北東部からは細石刃核（642）が出土し、発掘調査での出土は市内で初めてである。

また、石器の原石としては小さすぎる5mm程度～親指大の黒曜石の原石は数10点採取している。中には、利用に耐えない霜柱の様な薄細かく碎ける原産地にしか無いものも1点出土している。これら原石は人工的移動では無く、原産地桑ノ木津留の本体と推定される滝下山の支脈の崩落流下堆積によるものと考えたい。

第4節 VI～X区

1. 遺構面の状況と検出遺構

VI区は、南北160mもあり、機械掘削不可であった現用排水路部分によって4区に分断されていることから、北の2区画をA区、残りの南側をB区、南西部をC区と小分けした。調査は、B→C→Aの順に実施した。C区は、当初計画外であったが、重機で試掘した結果、遺構を確認したことにより、工事の影響を受ける部分について調査対象とした。

A区北半部は、農道の基礎工事等によって削失著しいが、6基の竪穴住居を検出した。24号住居の西には、廃屋を解体・焼去したといわれた搅乱坑（未調査）等もあり、遺存状態が悪い。南北畦畔部にはIV区から続く03号道路が走り、その西側は、段丘の凹地・自然流路へと流入する溝状遺構等が検出された。

B区の北部（18・19号住居以北）は削失・搅乱が著しいが、西側で、遺物を若干包含する流路（S X-02）を検出した。南半分は、遺構の上半分を削失するものの、分布状態の全容が掴めた。竪穴住居は2ヶ所で検出し、東縁畦畔下では03号道路が続き、近世後半以降の座棺墓が3～7基東西方向に縦列する。近現代の用排水路は縦横に検出されたが、搅乱扱いであり、航空写真撮影時には断片的に残っている程度である。

C区もB区と似た状況で、竪穴住居は2軒と土坑数基、数条の溝状遺構、縦列する座棺墓のほか、単独で縄文時代の陥し穴を検出した。

VII区は用水路等によって3区に分かれているが、あえて分別していない。全体的にはIV層下部まで削失し、特に北西部は著しく搅乱されていた。また、当地西の水田は牟田で、「一条ヶ迫」と呼ばれていたらしい。低地で、常に水漬けの状態の反面、水田可能な用地であった。昭和47（1972）年7月、7年ぶり2回目の山津波が発生し大災害が起き、復興の際、巨礫をこの地に埋めたために地盤が高くなったという話を聞いた。

検出遺構は少ないが、縄文時代前期の陥し穴が2列8基、古墳時代の竪穴住居が3基、地下式横穴墓が3基、古代～中世の溝状遺構が5条など、北東部においては柱穴状のpitも検出された。北

列の陥し穴は円形～楕円形を呈し、底面中央に木杭用pitを穿つタイプで、凹地南縁の獣道に設置されたことが想定される。南列の陥し穴は長楕円形を呈し、底面に多数のsmall pitを有するタイプでIX区検出の4基と谷を挟むものの連動している可能性が高い。

VIII区は中央やや南西寄りが最も低く、北側1/3は削失著しい。南西部は急斜面であることから、居住には適さない。凹地の最深部からは縄文時代前期の遺物が若干出土した。古墳時代の竪穴住居は3軒検出された他は目立った遺構は無く、縦列する座棺墓と縦横に走る近現代の用排水路、幕末から明治期に鉄鉱石を運んだ道（木馬道）と推定される遺構などを検出した。

IX区は、中央に凹地があることからその周辺は削失をまぬがれているが、北西部は著しく、東端寄りの陥し穴4基を検出したあたりも相当の削失がある。

古墳時代の竪穴住居は7棟を検出、うち37号住居は中心の土器埋設炉のみの検出であったが、周囲のII層内から土師器片10数点を採取したことから、住居の存在を示すものとみなし、住居の番号を付けた。35号住居～近現代の01号建物周辺には中世のpitが多く認められ、1棟（SB-06）のみ推定できた。近世中葉以降の座棺墓は3～4基が縦列し、2ヶ所程は団子状態になっている。北側には40～50年前まで宅地があったと言われていた所で5棟（SB-01～05）以上の建物や墓が検出された。近現代の墓は、座棺墓のほか隅円長方形や楕円形、石組火葬墓など様々である。

X区は2次アカ（IVa層）が厚く堆積する低地が半分を占め、古墳時代の竪穴住居1軒と地下式横穴墓1基のほか、中世～近現代の土壙墓・座棺墓が縦列している。

以下、VI～Xを纏めて年代を追って報告するが、VI区→IX区→VII区→X区→VIII区の順に調査し、個別遺構もその順に番号を付けていることから、遺構番号を優先して述べる。

2. 縄文時代

遺構は陥し穴1種であるが、円形プランと長楕円形プランが縦列している。底面構造は各々類似しており、同一時期（前期）さらには同一人物による構築と推定されるものである。

S K-328（第61図）

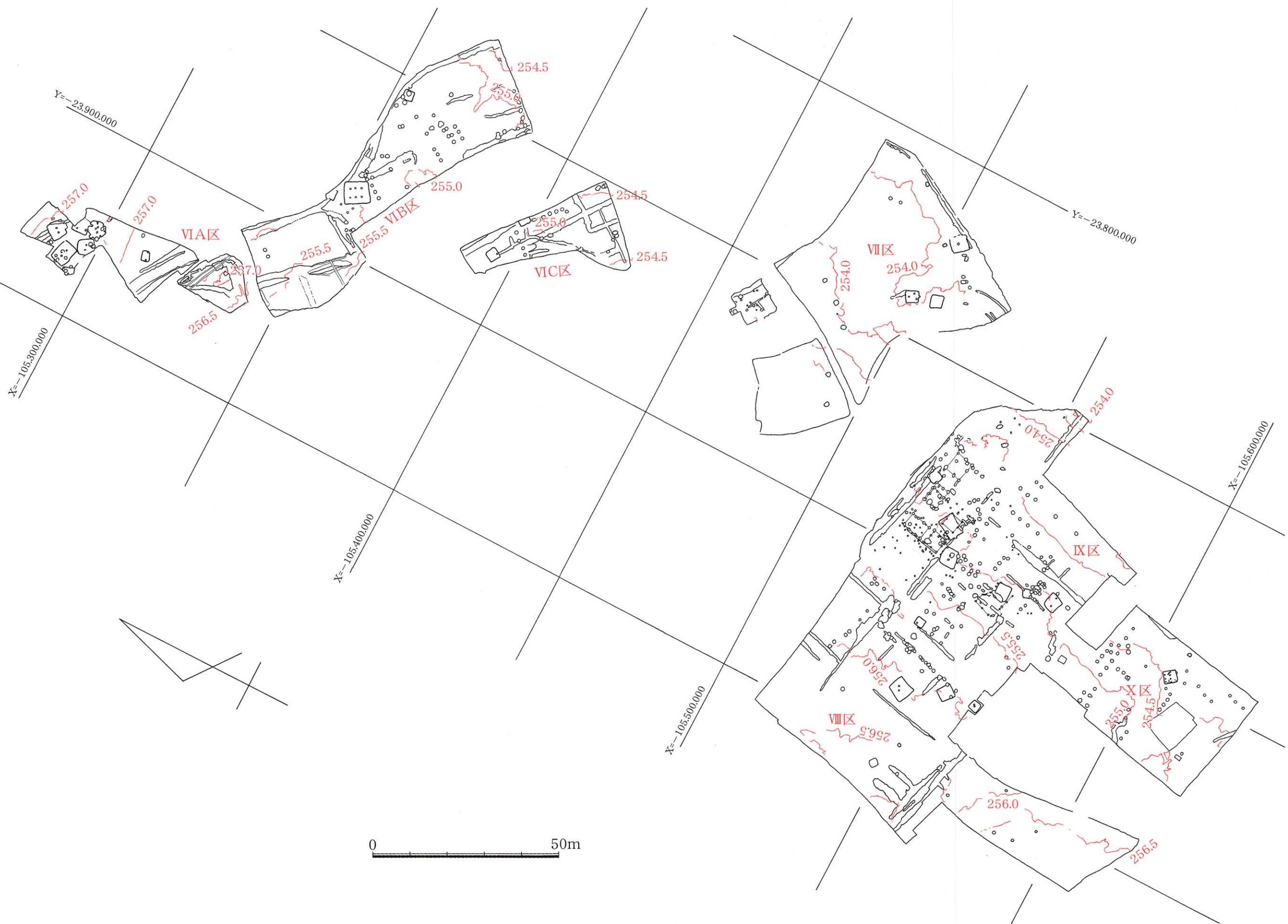
VIC区の南縁で検出した、長径1.36m・短径1.04mの楕円形を呈し、深さ0.65～0.70mを測る。底面中央に長径22cm・短径15cm・深さ34cmのpitが穿たれている。覆土は堅く締まった黒褐色系の土で、出土遺物は無い。

S K-575（第61図）

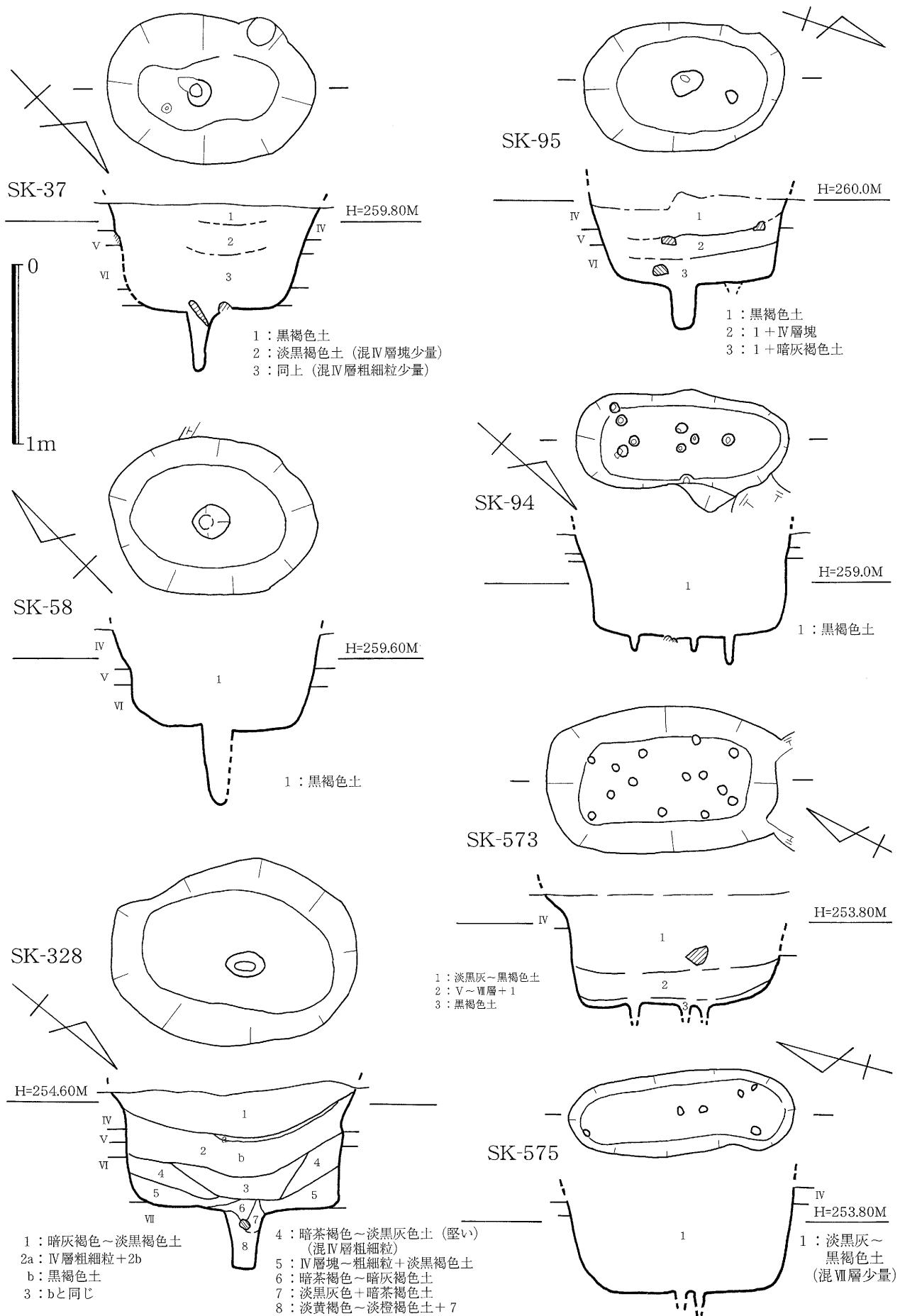
VII区の南西部で検出した、主軸を北北東にとる、長径1.26m・短径0.46mの長楕円形を呈し、深さ0.58mを測る。土層的には、30cm程の削失が推定される。底面には、直径4～6cm・深さ15cm内外のsmall pit 6個がある。出土遺物は無い。

S K-573（第61図）

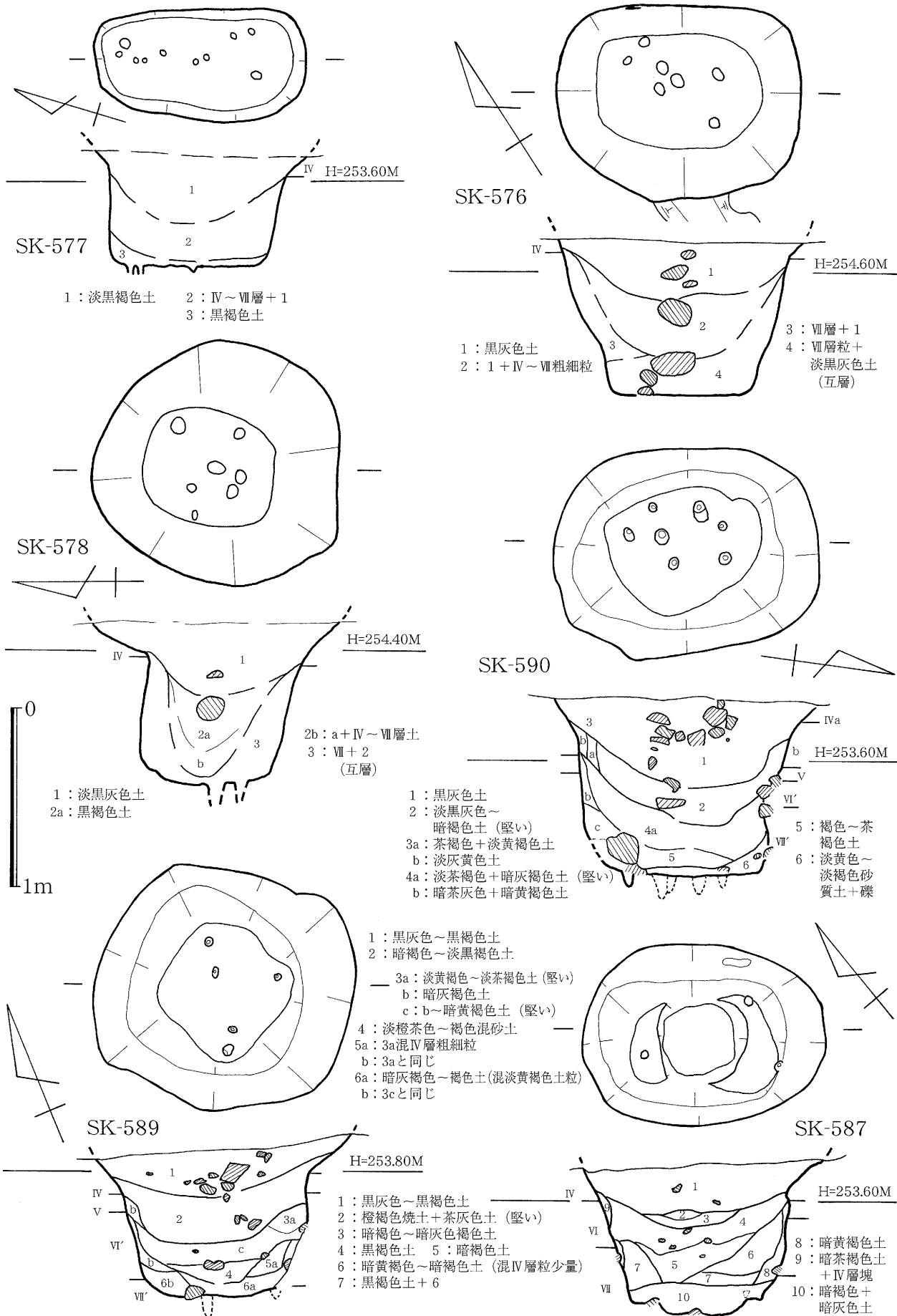
S K-575の北東5.8m（芯々距離）に位置した、長径1.4m（推定）・短径0.81mの楕円形を呈し、深さ0.60mを測る。土層的には、20cm程の削失が推定される。底面には、直径6cm前後、深さ12cm



第60図 VI~X区 遺構分布図



第61図 II・VI・VII区 陥し穴 遺構実測図(1)



第62図 VII区 陥し穴 遺構実測図(2)

前後的小pitが四隅とその間に14個検出された。出土遺物は、無い。

S K-577 (第62図)

S K-573の北東7.5mに位置した、長径1.16m・短径0.62mの長楕円形を呈し、深さは0.62mを測る。土層的には、20cm程の削失が推定される。底面には、直径3～6cm・深さ10cm前後の小pit 10個が検出された。出土遺物は、無い。

S K-576 (第62図)

VII区の北西部で検出した、主軸を北西にとる、長径1.35m・短径1.08mの楕円形を呈し、深さは0.85mを測る。土層的には、30cm程の削失が推定される。底面には、直径6cm内外・深さ10～16cmのsmall pit 7個が検出された。出土遺物は無いが、覆土の中心部には拳～人頭大の礫が入り込んでいる。

S K-578 (第62図)

S K-576の東8mに位置した、長径1.41m・短径1.33mの不整円形を呈し、深さ0.89mを測る。土層的には、10cm程の削失が推定される。深さ20cm程のところで長径85cm程になり、北壁は若干抉れる程になる。底面には、直径3～10cm・深さ10～20cmのsmall pit 7個が検出された。出土遺物は無い。

S K-590 (第62図)

S K-578の東、浅い凹地を挟んで13.3mの位置にある、長軸をほぼ北にとる、長径1.45m・短径1.14mの楕円形を呈し、深さ0.99mを測る。底面には、直径5～9cm・深さ7～14cm内外のsmall pit 7個が検出された。出土遺物は無い。壁面下半には自然礫が多く、覆土内の礫は、排土内にあったものと推定される。

S K-589 (第62図)

S K-590の北西7mに位置した、長径1.41m・短径1.35mの不整楕円形を呈し、20cm下では、幅96cmに狭まる。深さは82cmを測るが、土層的には10cm程の削失が推定される。底面には、直径4～6cm・深さ6～15cmのsmall pit 5個が検出された。出土遺物は無い。

S K-587 (第62図)

S K-589の北西6.5mに位置した、長径1.34m・短径1.0mの楕円形を呈し、深さは0.74～0.84mを測る。土層的には、20cm程の削失が推定される。底面には、直径5cm・深さ4～9cmのsmall pit 3個が検出された。出土遺物は無い。

S K-520 (第63図)

IX区の北東部で検出した、主軸を北北西にとる長径1.46m・短径1.0mの楕円形を呈し、深さ0.75mを測る。土層的には、20cm程の削失が推定される。底面には、四隅とその間に、直径4～7cm・深さ6～22cmのsmall pit 16個を検出した。出土遺物は無い。

S K-545 (第63図)

S K-520の東北東5.9mに位置した、長径1.22m・短径0.63mの不整長楕円形を呈し、深さは0.54mを測る。土層的には、30cm程の削失が推定される。底面には、四隅とその間に、直径3～8cm・

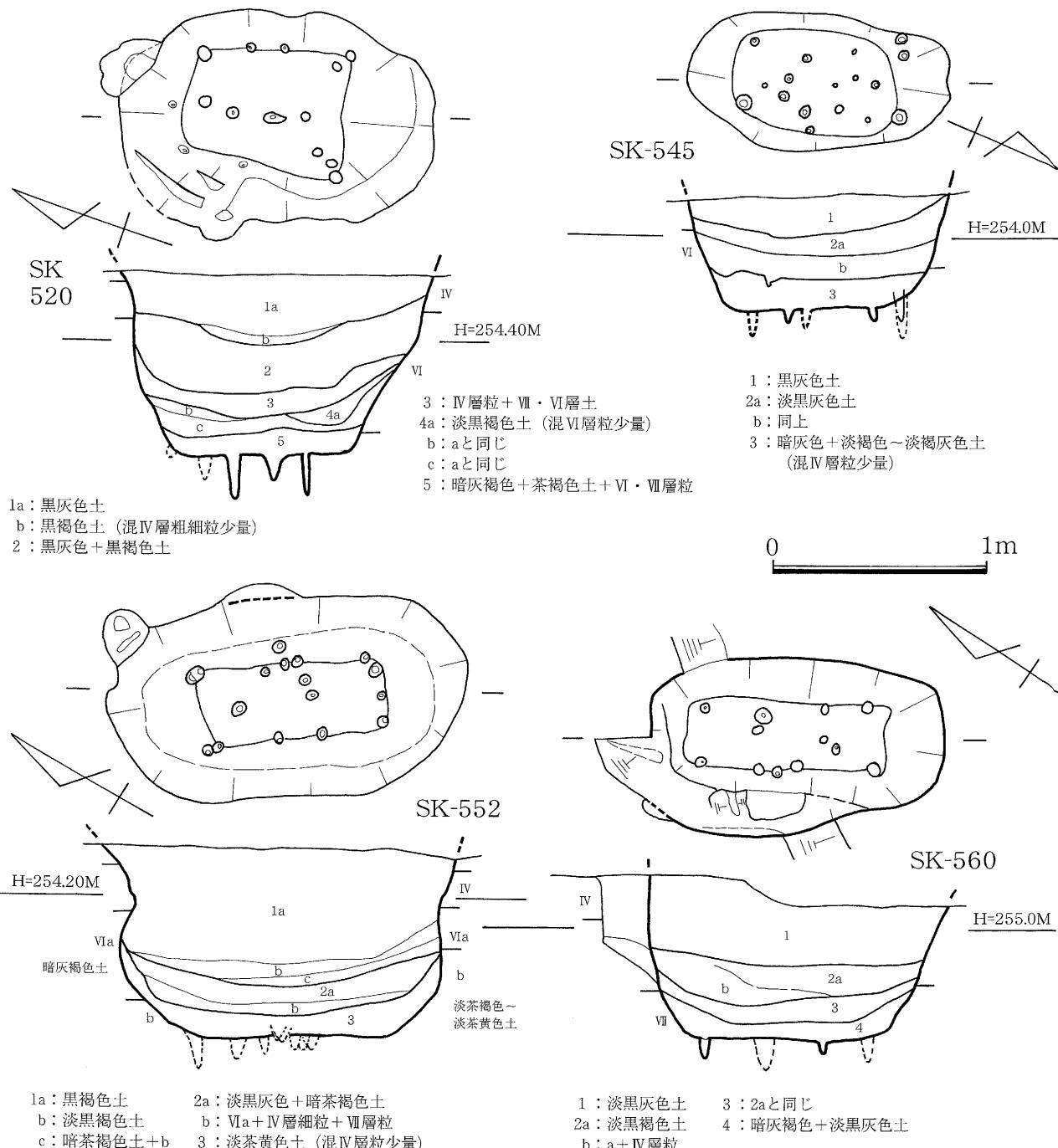
深さ10~16cmの小pit17個を検出した。出土遺物は無い。

SK-552 (第63図)

SK-545の北東6.4mに位置した、長径1.71m・短径0.95mの長楕円形を呈し、深さは0.88mを測る。底面には、四隅とその間に、直径6~8cm・深さ8~16cmの小pit16個を検出した。出土遺物は無い。

SK-560 (第63図)

SK-552の北東5.2mに位置した、長径1.42m・短径0.83mの長楕円形を呈し、深さは0.76mを



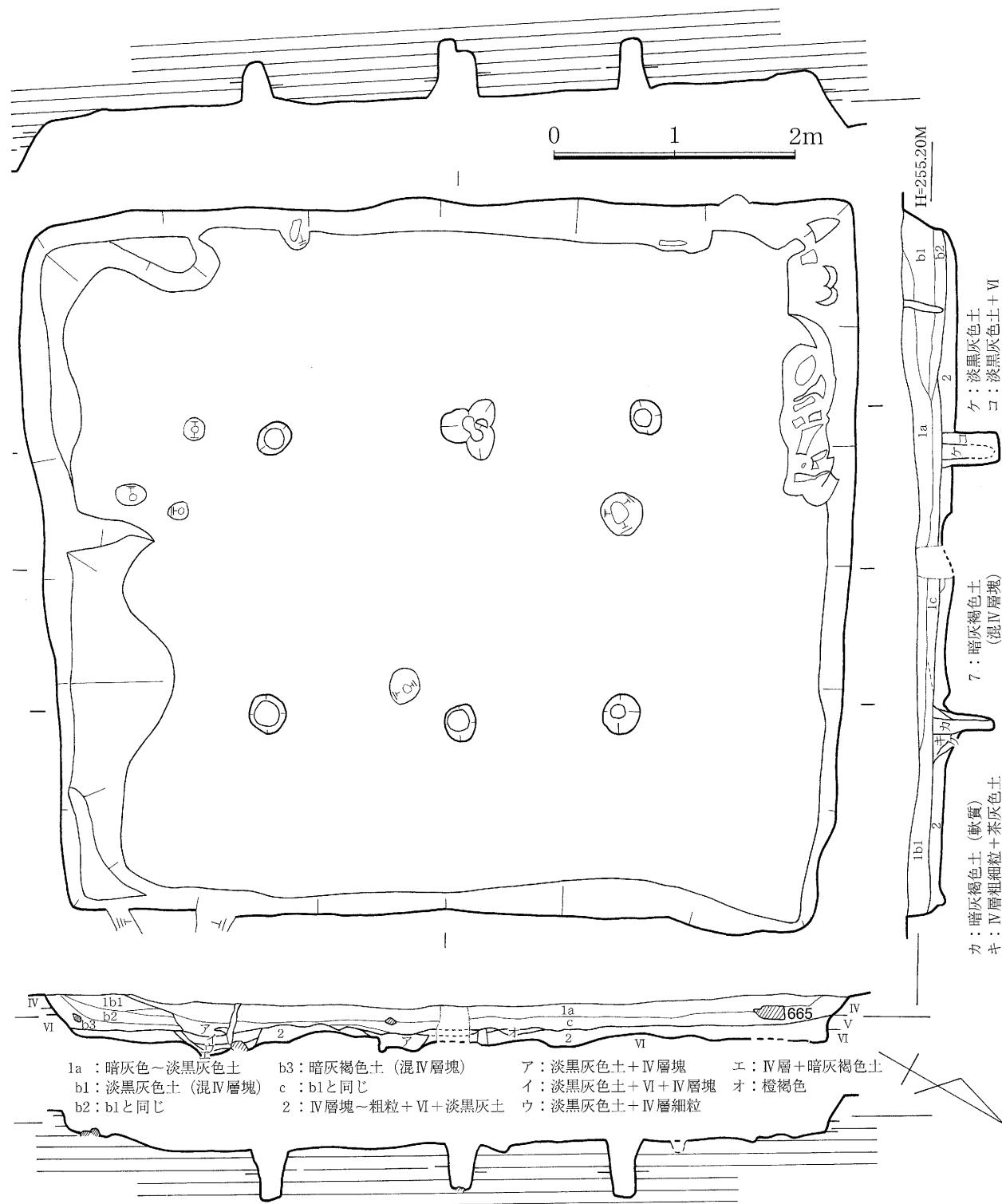
第63図 IX区 陥し穴 遺構実測図

測る。土層的には、20cm程の削失と推定される。底面には、四隅とその間に、直径4～8cm・深さ7～16cmの小pit12個が検出された。出土遺物は無い。

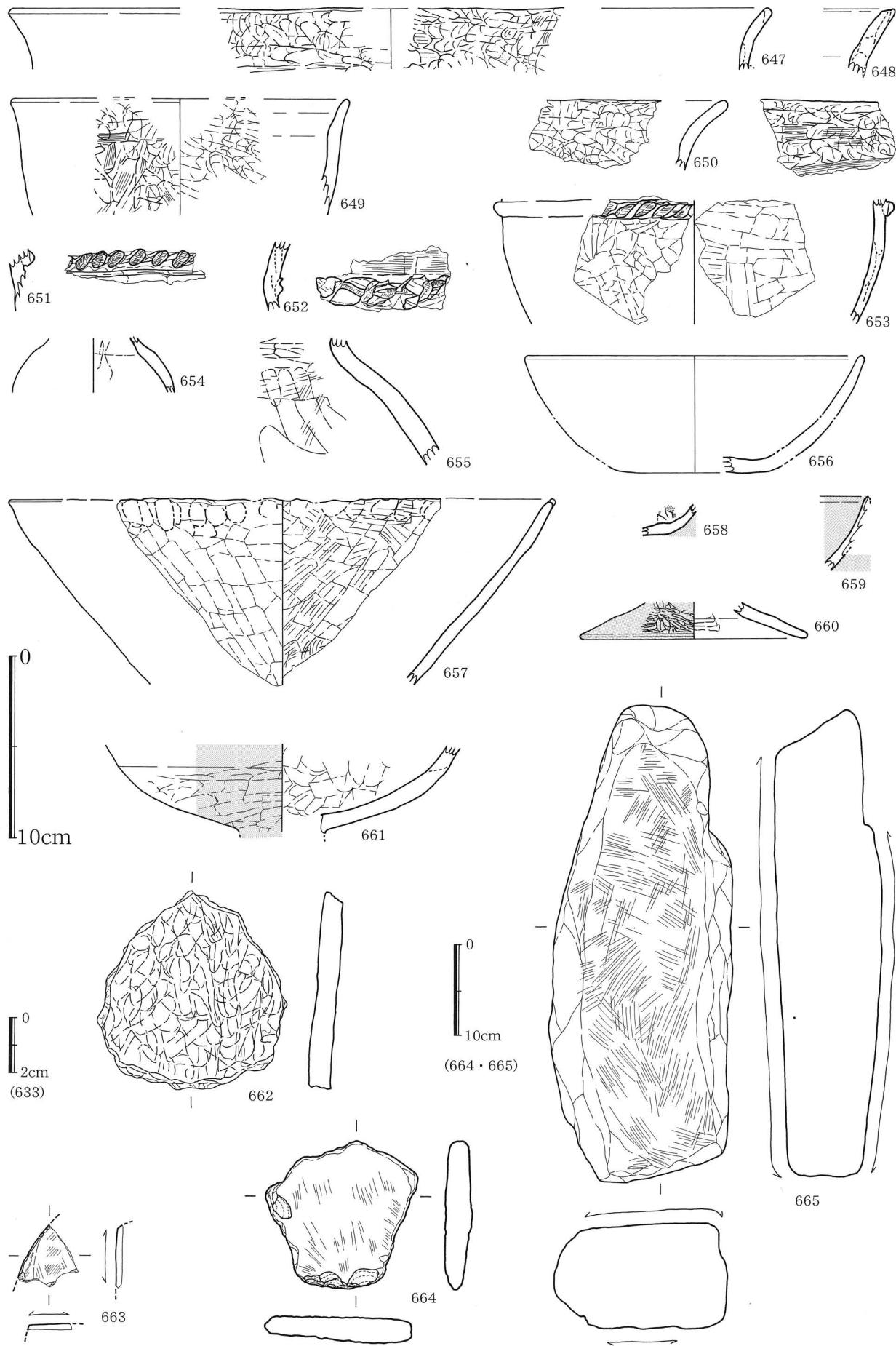
VII区のSK-575とは、旧谷を挟んで34m離れているが、双方とも旧谷へ入る獣道上に構築されたことは容易に理解される。

縄文土器（第109図）

主としてVII区の木馬道跡（SD-97）の南側の旧谷およびその攪乱層からの出土であり、III層下



第64図 SA-18 遺構実測図



第65図 SA-18 出土遺物実測図

層～IVa（アカホヤ2次堆積）層出土の轟式～曾畠式土器に代表される前期の土器が多い。

3. 弥生～古墳時代

竪穴住居27軒と地下式横穴墓4基、土坑などのほか、若干の遺物包含層を調査した。

S A-18 (第64図)

VI B区の中央やや北寄りに位置し、長さ6.24～6.96m、幅5.64～6.0mの長方形を呈する。覆土は10～30cmであるが、20～30cm程削失していると推定される。柱穴は、10cm程の貼り床を施した後に穿たれている。主柱穴は6本で、直径は22～38cm、深さ34～48cmを測る。柱痕跡は、直径14cmである。中央やや北寄りに、長さ40cmの浅い掘り込み炉を検出した。

覆土から土師器片204点が出土したが、小片が多く図化できたものが少ない。2層からは小破片6点が出土している。5世紀代か。

S A-19 (第66図)

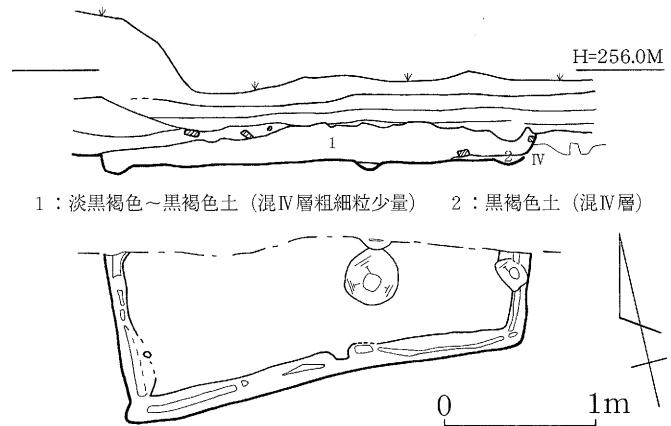
18号住居の北に位置し、南辺2.7mと西壁1.16m・東壁0.62mを検出した。上部は03号道路に20～30cm削平されている。貼り床は壁溝上位のみである。覆土は10～25cm遺存していたが、土師器片1点のみの出土で、図化に耐えない。

S A-20 (第67図)

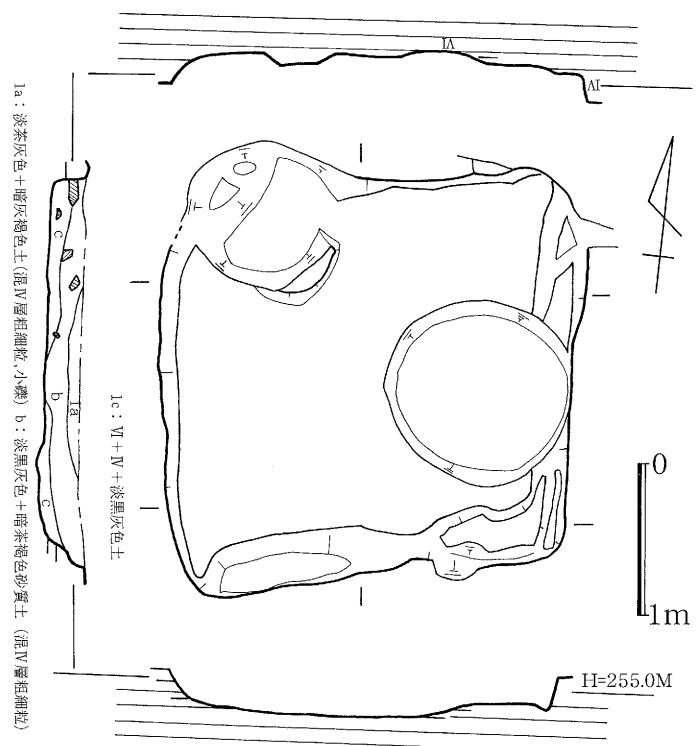
VI B区の南東部に位置し、東西2.5～2.8m、南北2.6～2.7m程の隅円方形を呈する。土層的には、20cm程の削失と推定される。主柱穴・炉・貼り床は無いが、東南部に壁溝があることから竪穴住居と断定した。覆土から土師器片36点が出土しているが、図化に耐えない。5世紀後半頃か。

S A-21 (第68図)

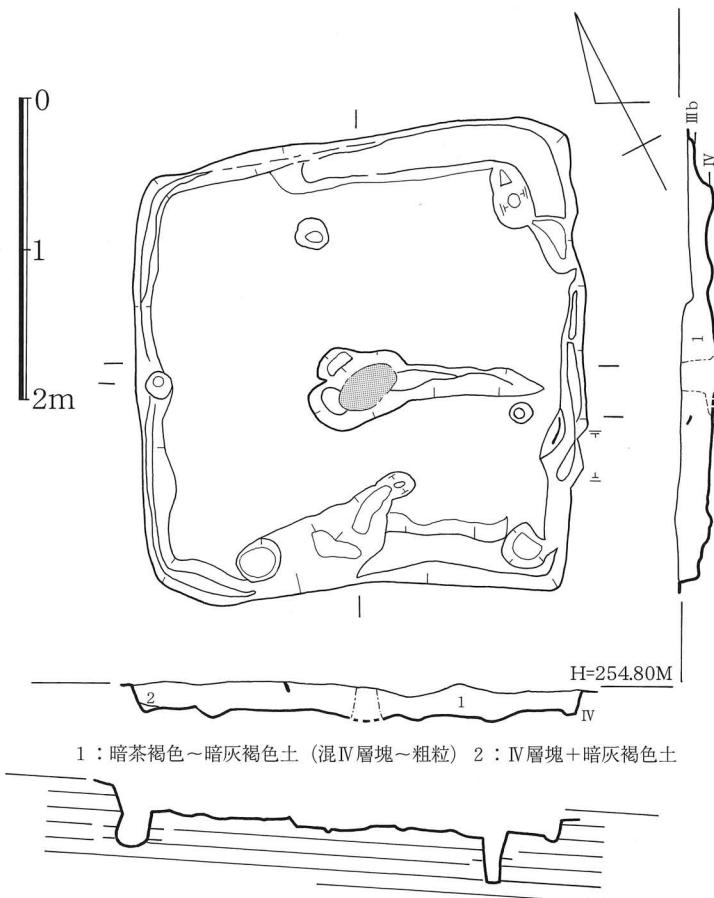
VI C区の北側に位置し、東西2.76～2.9m、南北2.7～3.1mの隅円方形を呈する。深さは20cm程で、10cm程の削失が推定される。主柱穴は不明瞭であるが、北



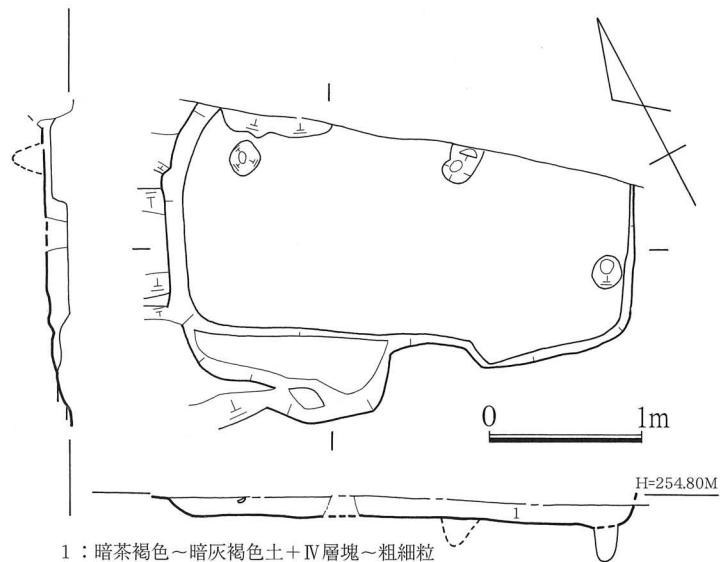
第66図 S A-19 遺構実測図



第67図 S A-20 遺構実測図



第68図 SA-21 遺構実測図 アミ目は焼土



第69図 SA-22 遺構実測図

器片 1 点が出土したが、2 点 (676・677) のみ図化できた。5 世紀代で、須恵器は混入と思われる。

S A-24 (第71図)

VIA 区の北側密集部に位置した、直径 4.54~4.78m の円形基調で 5ヶ所に間仕切りを有する。土層的には、30cm 程の削失と推定される。間仕切りの無い西半部の中央付近には、幅 72cm ・ 奥行き 56cm の張り出しがあり、貼り床も認められたことから出入口であろうと思われる。主柱穴は、直径 26

辺中央寄りの pit (深さ 34cm) と南辺中央の pit (深さ 26cm) が相当すると推定する。北東隅と南壁の 3/4 は壁溝が途切れている。中央には、長さ 55cm ・ 幅 35cm ・ 深さ 4 cm の掘り込み炉がある。

覆土から、土師器の小片が 80 点と須恵器片が 1 点などが出土したが、図化できたのは僅かである。675 は、器面調整具の可能性がある。6 世紀中頃か。

S A-22 (第69図)

21 号住居の南東 9 m に位置した、東西 3.1m 、南北 1.4m 以上の方形基調で南西部に奥行き 56cm 、南東部で 14cm の張り出しがあり、西壁北寄りには間仕切り的に内側へ入る。主柱穴や貼り床、炉は検出していない。

覆土から土器の小片 1 点が出土したが、図化に耐えない。

S A-23 (第70図)

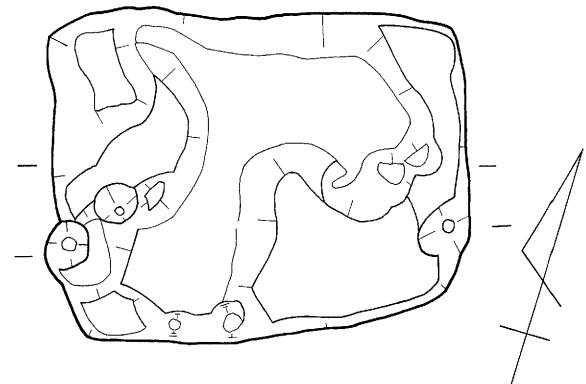
VIA 区の中央付近に位置し、東西 2.5~2.7m 、南北 1.8~2.2m の不整長方形を呈する。土層的には、40cm 程の削失と推定される。覆土は 4~8cm 遺存し、貼り床は 10~16cm 施される。主柱穴は壁に穿たれた 2 基 (深さ 31 · 34cm) であり、2 段掘り住居の 1 段目を削失した状態と想定される。

覆土から、土師器の小片 15 点と須恵

～28cm・深さ30・43cmを測る2本(P1・2)である。2層上面から掘り込む柱穴(P4、深さ49cm)は、P3(深さ15cm)と対で建て替え時の柱穴と推定される。炉は確認できない。覆土は8～22cmが遺存し、弥生終末～古墳時代前期を主とする土器片が49点出土した(うち5点が図化できた)。2層は8～22cmの厚さで、土器片が36点出土したが、図化に耐えない。

S A-25 (第72図)

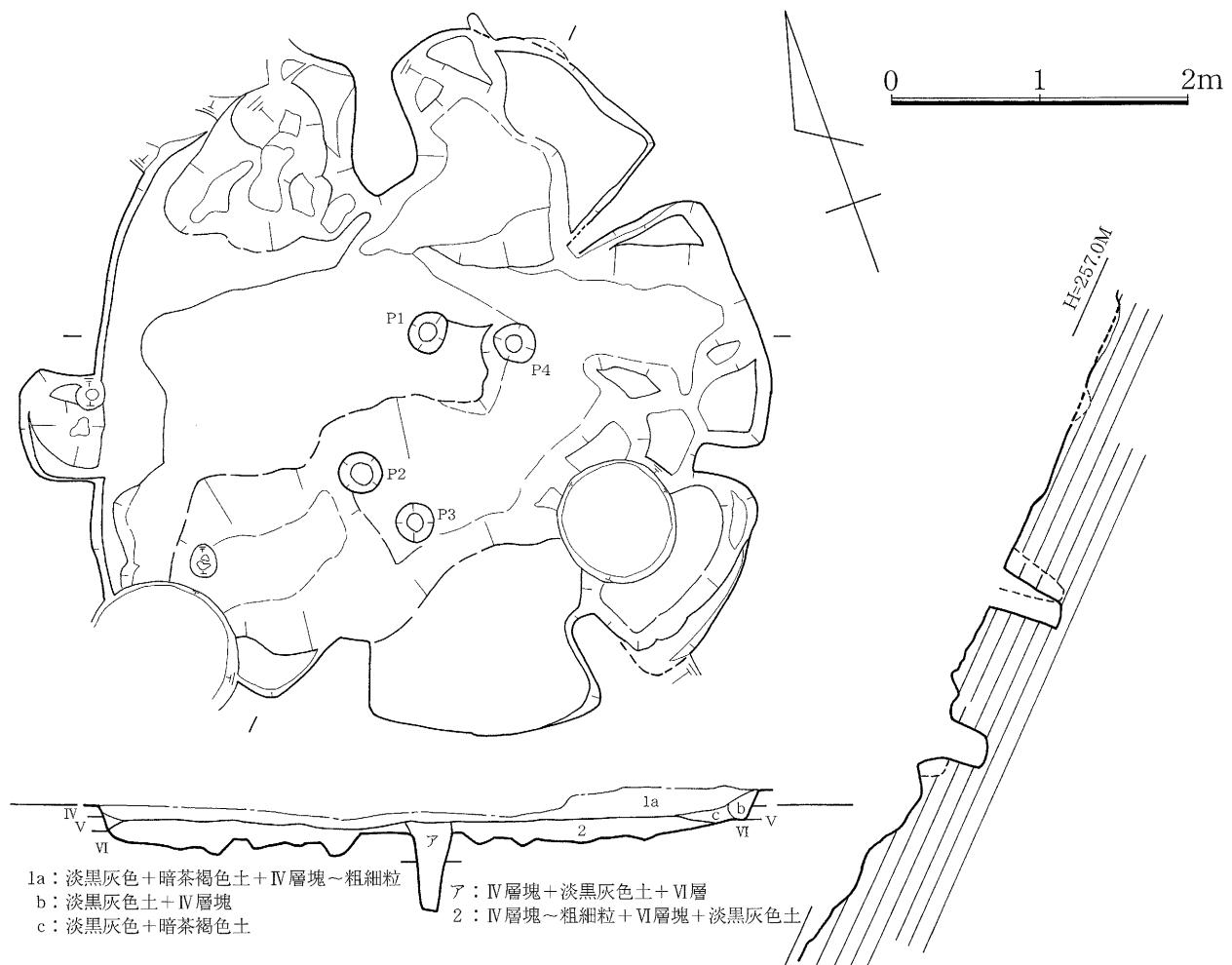
24号住居を切る、西辺4.05m、北辺1m以上、南辺1.6m以上の推定方形を呈する。西半部は、農道基礎により削平され、規模は不明である。西側の削失は20～30cm程と推定され



1 : 暗茶褐色～淡黒灰色土(混IV層塊少量)
2 : 1 + IV～VI層塊

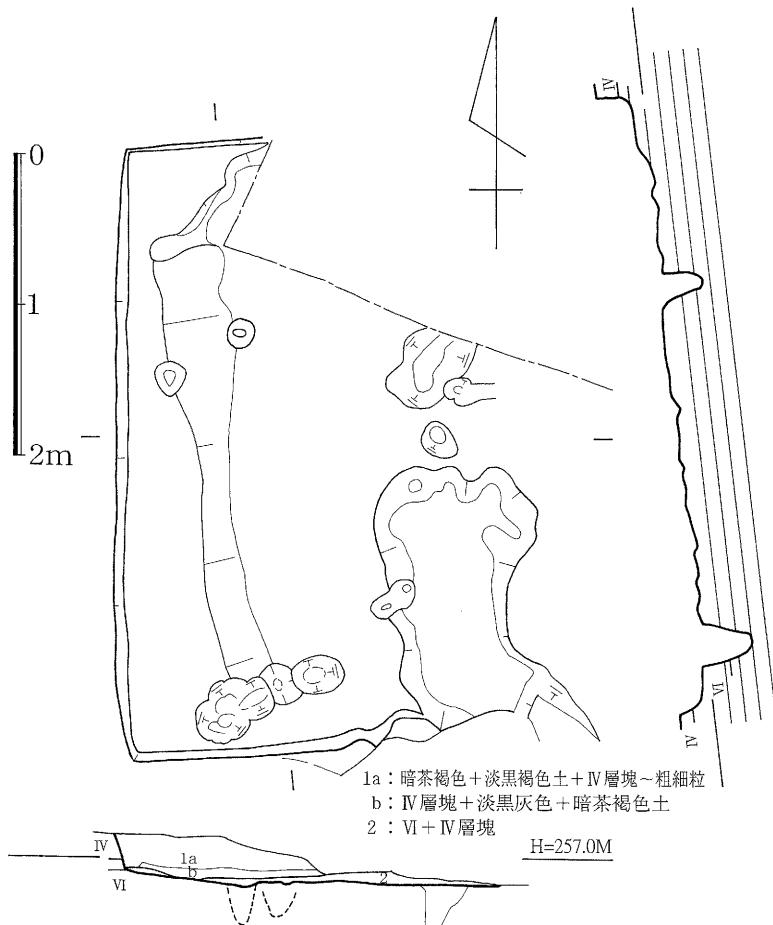


第70図 S A-23 遺構実測図



1a : 淡黒灰色+暗茶褐色土+IV層塊～粗細粒
b : 淡黒灰色土+IV層塊
c : 淡黒灰色+暗茶褐色土
ア : IV層塊+淡黒灰色土+VI層
2 : IV層塊～粗細粒+VI層塊+淡黒灰色土

第71図 S A-24 遺構実測図

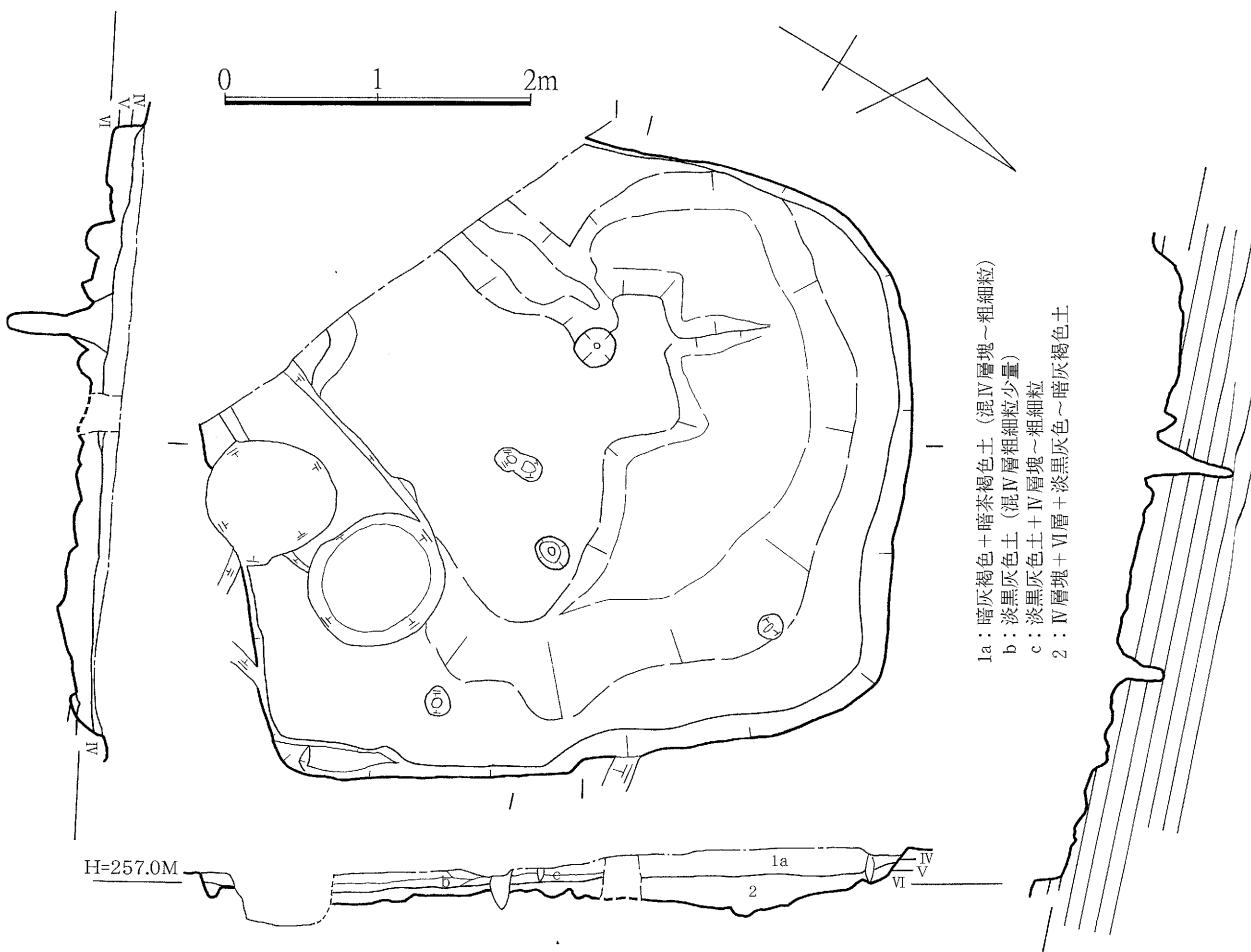


第72図 SA-25 遺構実測図

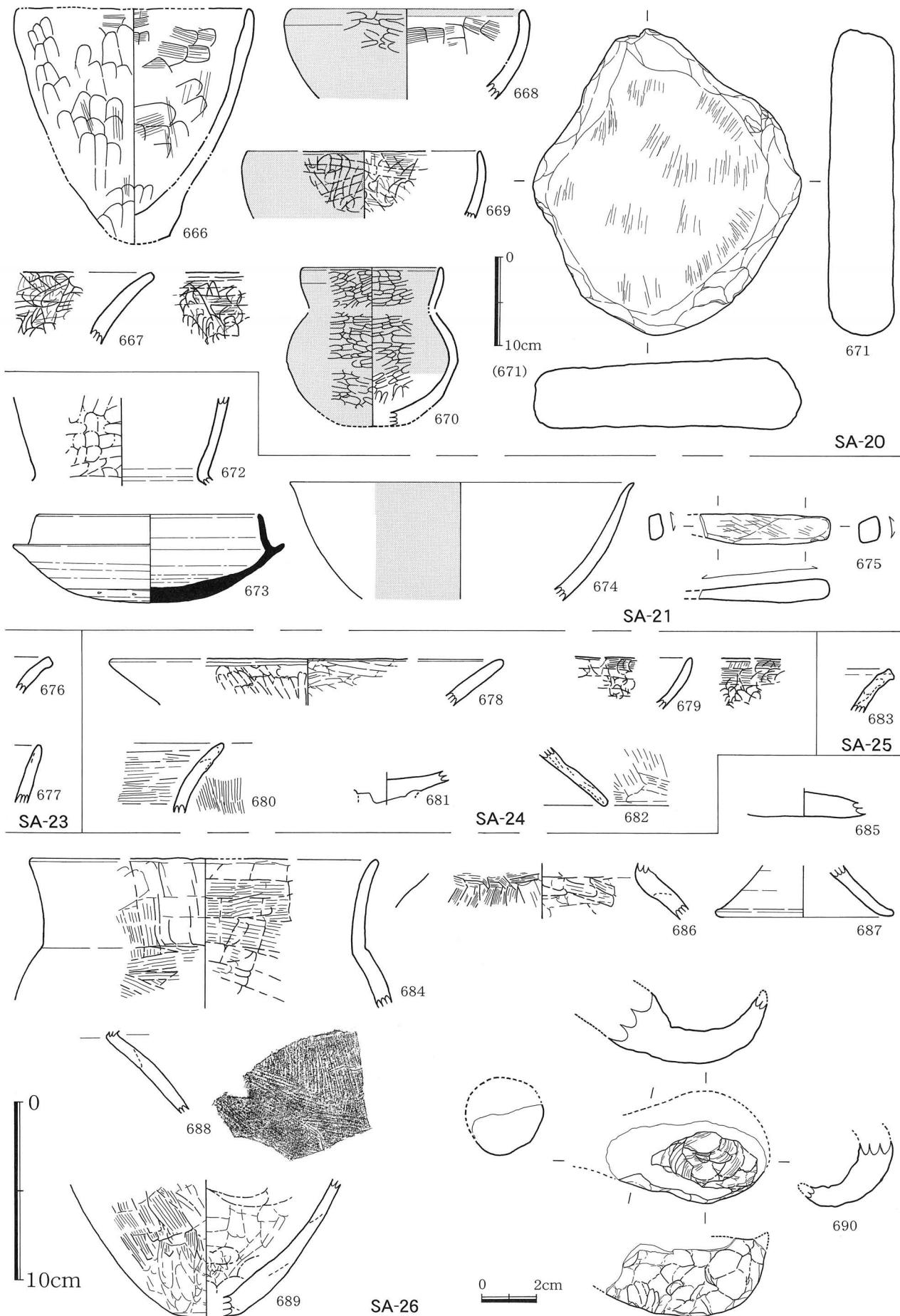
る。主柱穴と炉は不明瞭で、南中央部には長さ1.4m・幅0.6~0.85m・深さ6~10cmの不整形な掘り込みがある。2層は1~6cmの厚さしか無い。覆土より土師器片24点が出土したが、1点のみ図化できた。5~6世紀代か。

SA-26 (第73図)

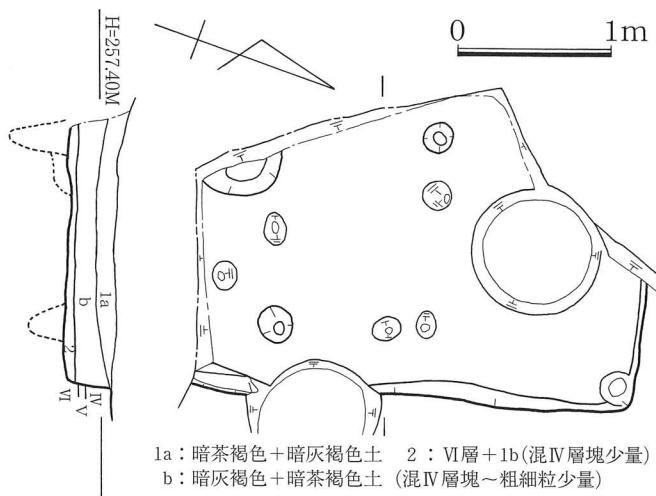
24号住居の北西に隣接した、南北4~4.4m、東西4mの歪つな隅円方形を呈する。西壁はやや胴張りで、北西隅はかなり丸みがある。覆土は2~18cm遺存し、土層的に30cm程の削失が推定される。主柱穴は2本で、直径20~27cm・深さ32~54cmを測り、貼り床後に掘り込まれている。2層は5~26cmの厚さで、北半分が深い。



第73図 SA-26 遺構実測図



第74図 SA-20・21・23~26 出土遺物実測図



第75図 S A-27 遺構実測図

さ20~42cmのpitが散在する。炉は未検出である。

覆土から、土師器の小片30点が出土したが、図化に耐えない。5～6世紀代か。

覆土から、土師器片86点（うち4点図化）と匙状土製品（690）が、2層からは土師器片11点（うち1点図化）が出土した。5世紀代か。

S A-27 (第75図)

VII A区の北西端で検出した、東壁が2.9m以上の推定方形を呈する。覆土は28~36cm遺存し、土層的には、20cm程の削失が推定される。貼り床は、6~8cm施される。主柱穴は不明であるが、直径16~25cm・深

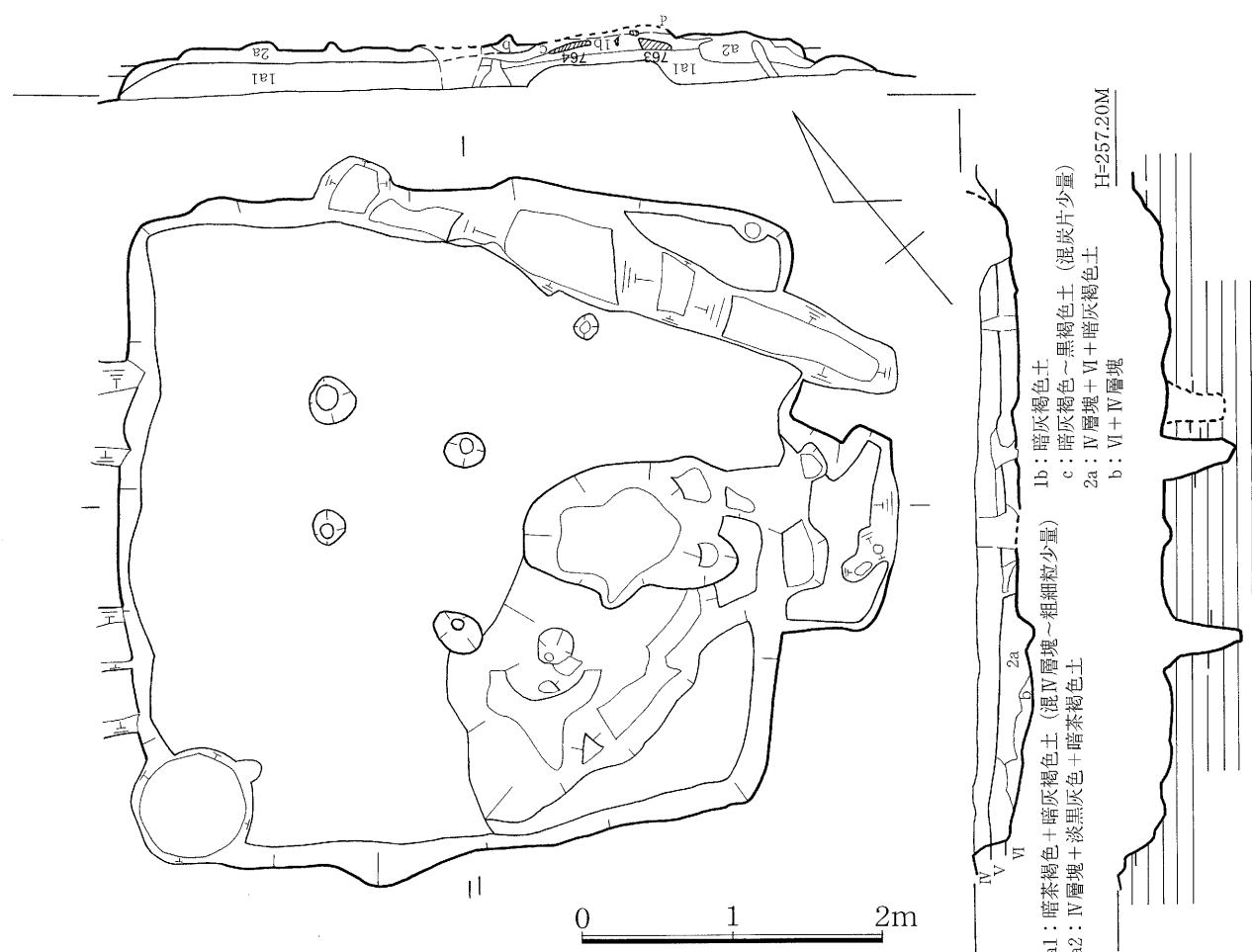


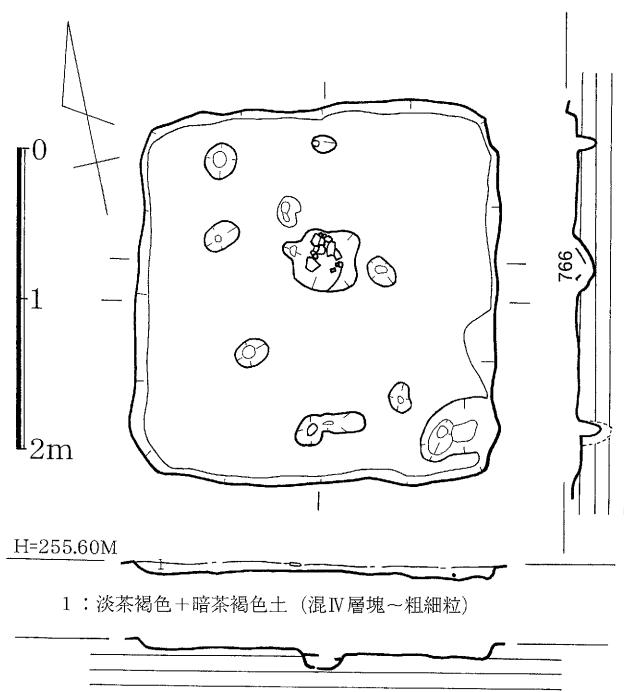
第76図 SA-28 遺構実測図

S A-28 (第76図)

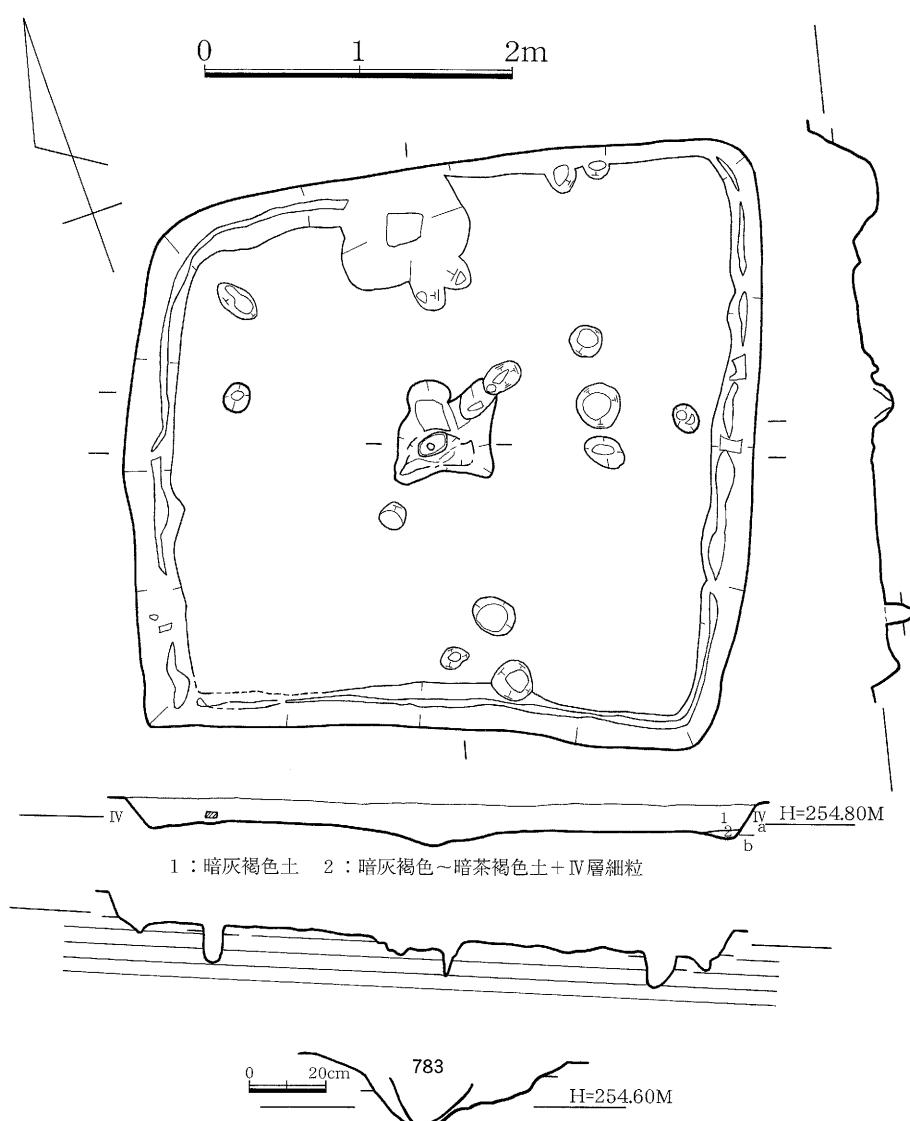
27号住居の東に位置し、主軸を西北西にとる、長さ5.6~5.8m・幅4~4.6mの不整隅円長方形を呈する。覆土は12~18cm遺存するが、土層的には20cm程の削失が推定される。貼り床は1~16cm施され、南東部が厚い。主柱穴は2本で、直径28~33cm・深さ60cmである。西壁沿いには3基の土坑があるが、用途は不明である。

貼り床上面の西側には、直径25cm程・高さ12~13cmの淡灰褐色~淡灰白色の粘土塊があった。土器埋設炉の南西隣には、石英の微細粒(図版413)を大量に含む微砂質土塊(A層)があり、南東部





第78図 SA-30 遺構実測図



第79図 SA-31 遺構実測図

SA-29 (第77図)

28号住居の東に位置した、1辺3.8～4.3mの南辺がやや短い略方形を呈し、南辺中央に幅1.4m・奥行き0.76mの出入口が付く。覆土は20～30cm遺存するが、土層的には20～30cmの削失が推定される。主柱穴は2本で、直径23～36cm・深さ48・52cmを測る。壁溝は顯著でなく、出入口寄りには長さ1.3m、幅0.84mの掘り込み炉がある。炉の底面には少量の炭片があり、その上で台石2個(763・764)が出土した。

覆土から、土師器の小片132点のほか砥石1点(765)が、2層からは土師器片6点が出土している。5世紀中葉か。

SA-30 (第78図)

IX区の西縁中央部で検出した、東西2.32～2.40m・南北2.3～2.53mの隅円方形を呈する。覆土は4～8cm程が遺存し、土層的には30cm程の削失が推定される。貼り床はない。主柱穴は不明瞭であるが、直径12～32cm・深さ12・16cmの2本柱と思われる。壁溝は無く、中央やや北寄りに、直径32～39cm・深さ13cmの掘り込み炉がある。炉の壁面には、大型甕の肩～胴部片(766)が貼られた

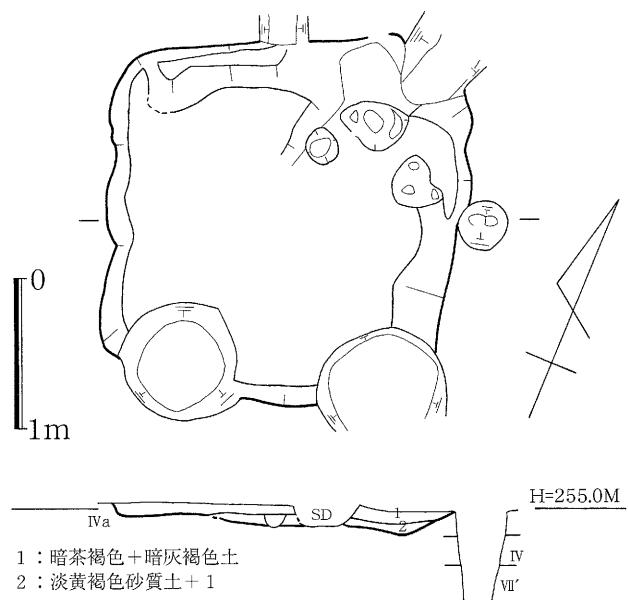
"土器片埋設炉"が構築されている。

覆土から、土師器片88点と須恵器2点が出
土している。6世紀後半である。

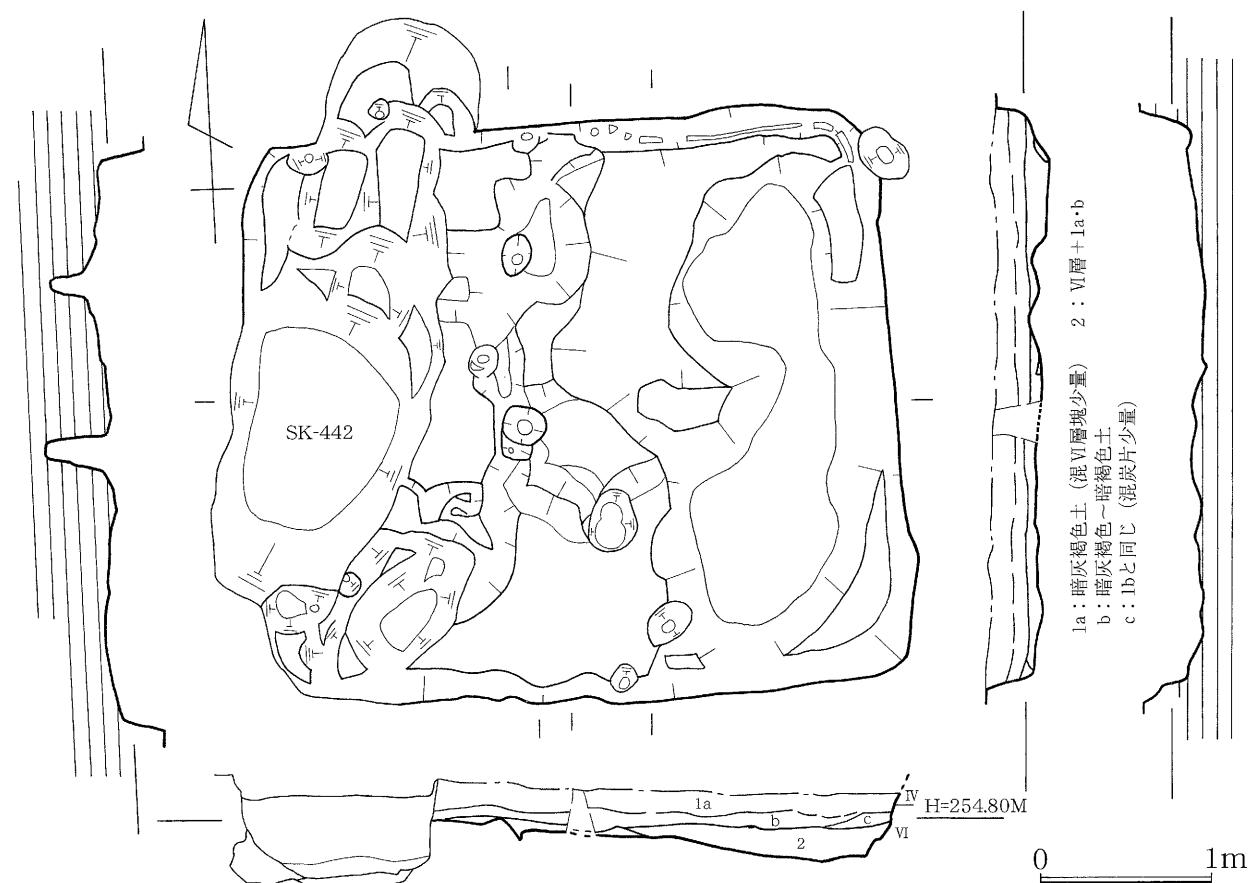
S A-31 (第79図)

IX区の南側で検出した、東西3.7~4.0m、南北3.4~4.0mの隅円方形を呈し、西辺が短い。覆土は16~20cmの厚さであるが、土層的には10cm程の削失が推定される。北辺中央には、長径87cm・深さ20cmの土坑がある。その東~北東隅は壁溝が途切れており、出入口があつたものと推定される。2層は壁溝上位のみにあり、主柱穴は不明瞭である。中央には、甌の口縁部を打ち欠いた(783)土器埋設炉がある。

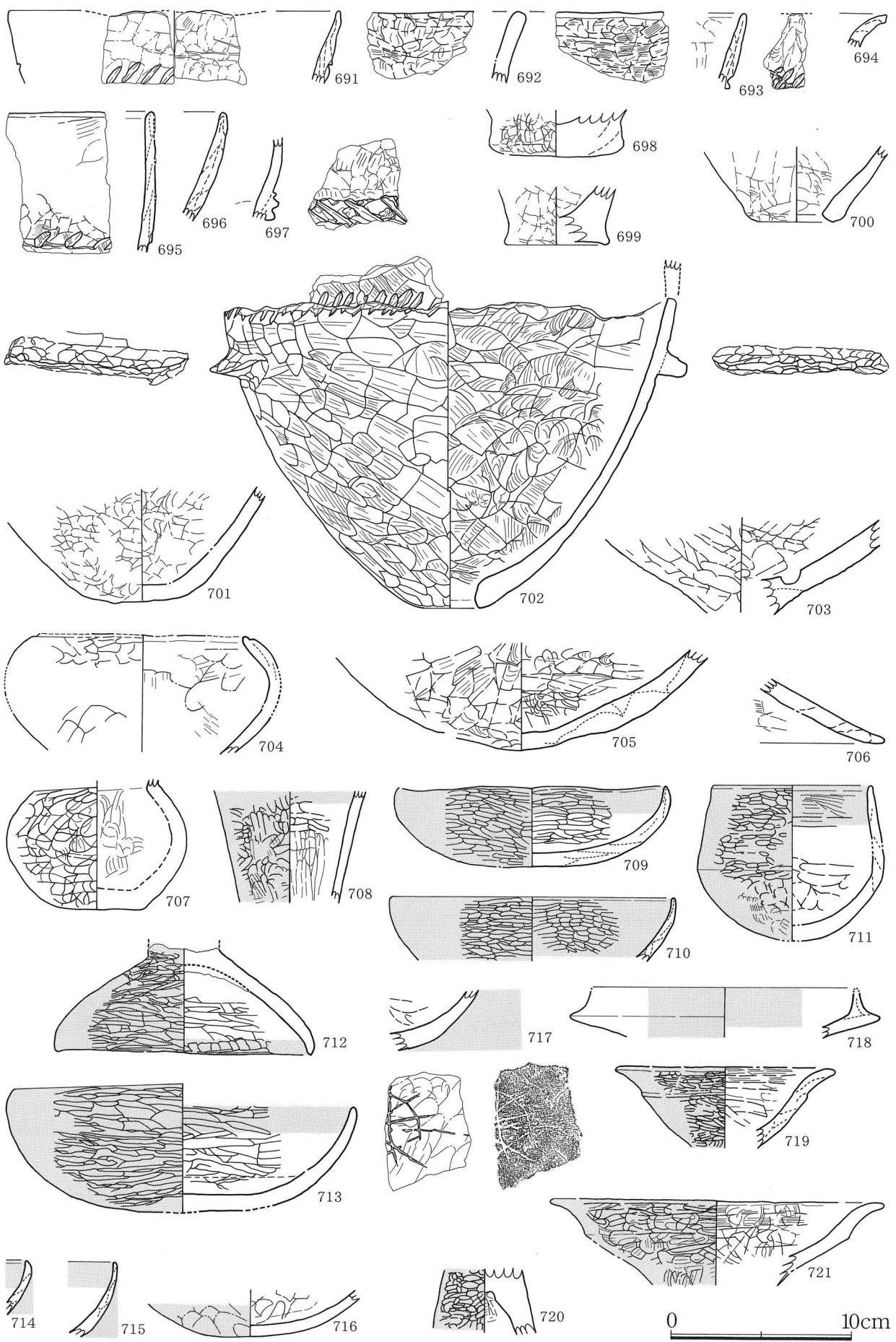
覆土から、土師器片88点、須恵器片2点、刀子片1点のほか、西縁中央南寄りにおいて長さ10~15cm程の亜角柱河原石が15個出土した。一見、竈構造物の様に思えるが、被熱は無く、焼土や炭片・粘土付着も確認されないため、特定できない。6世紀後半である。



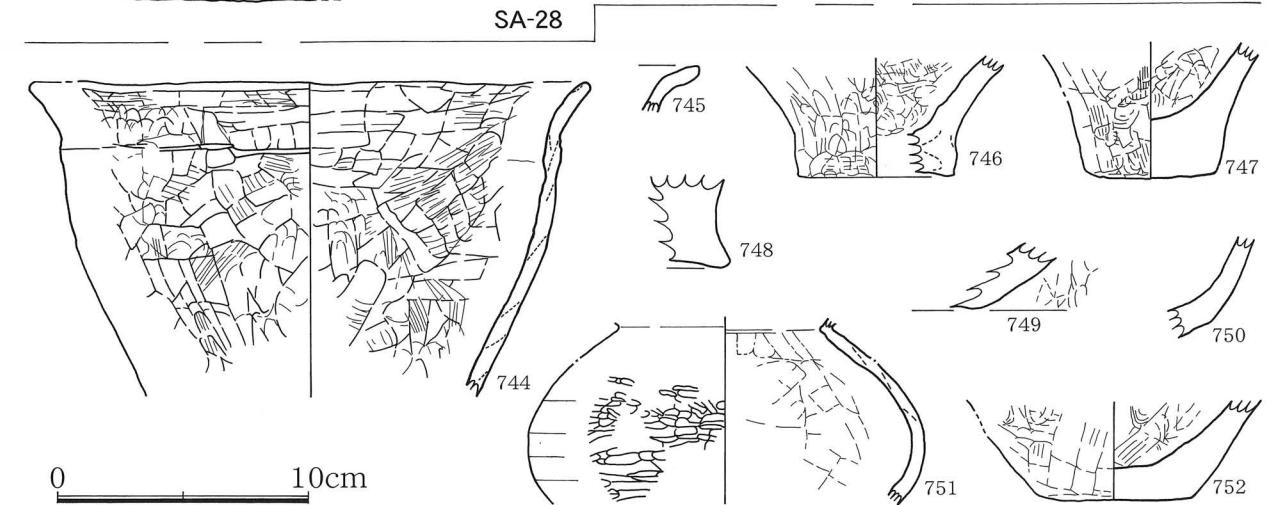
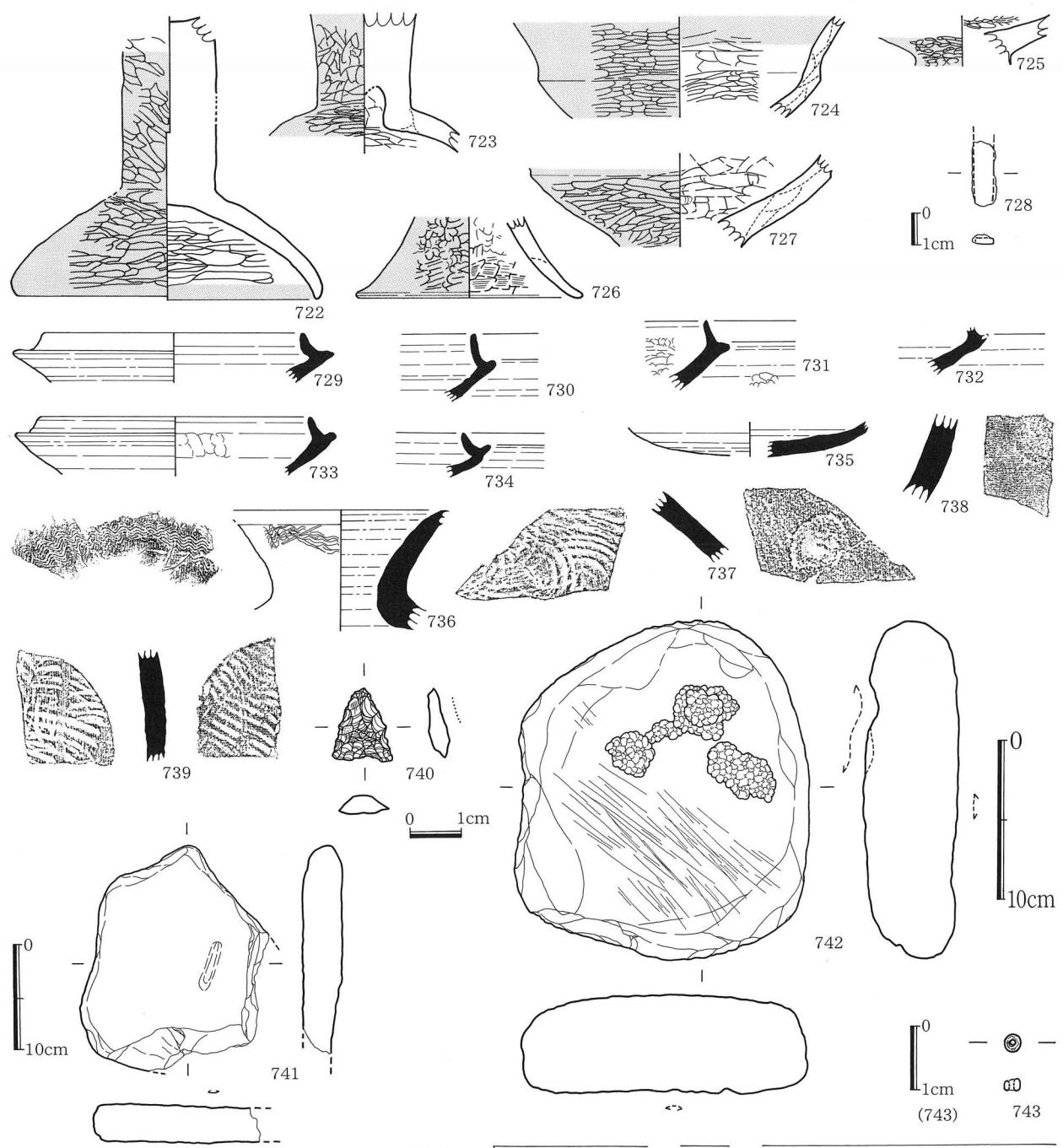
第80図 S A-32 遺構実測図



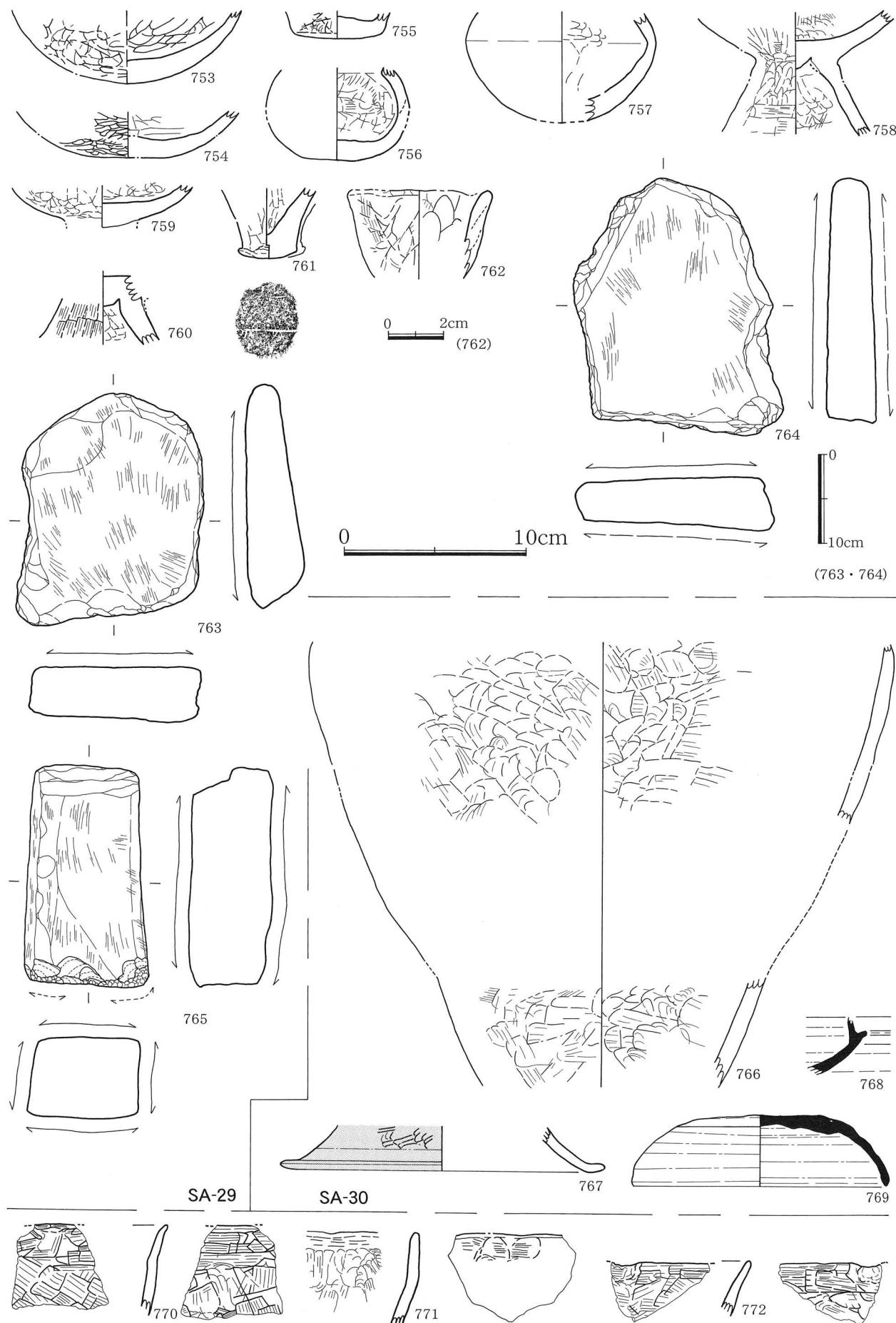
第81図 S A-33 遺構実測図



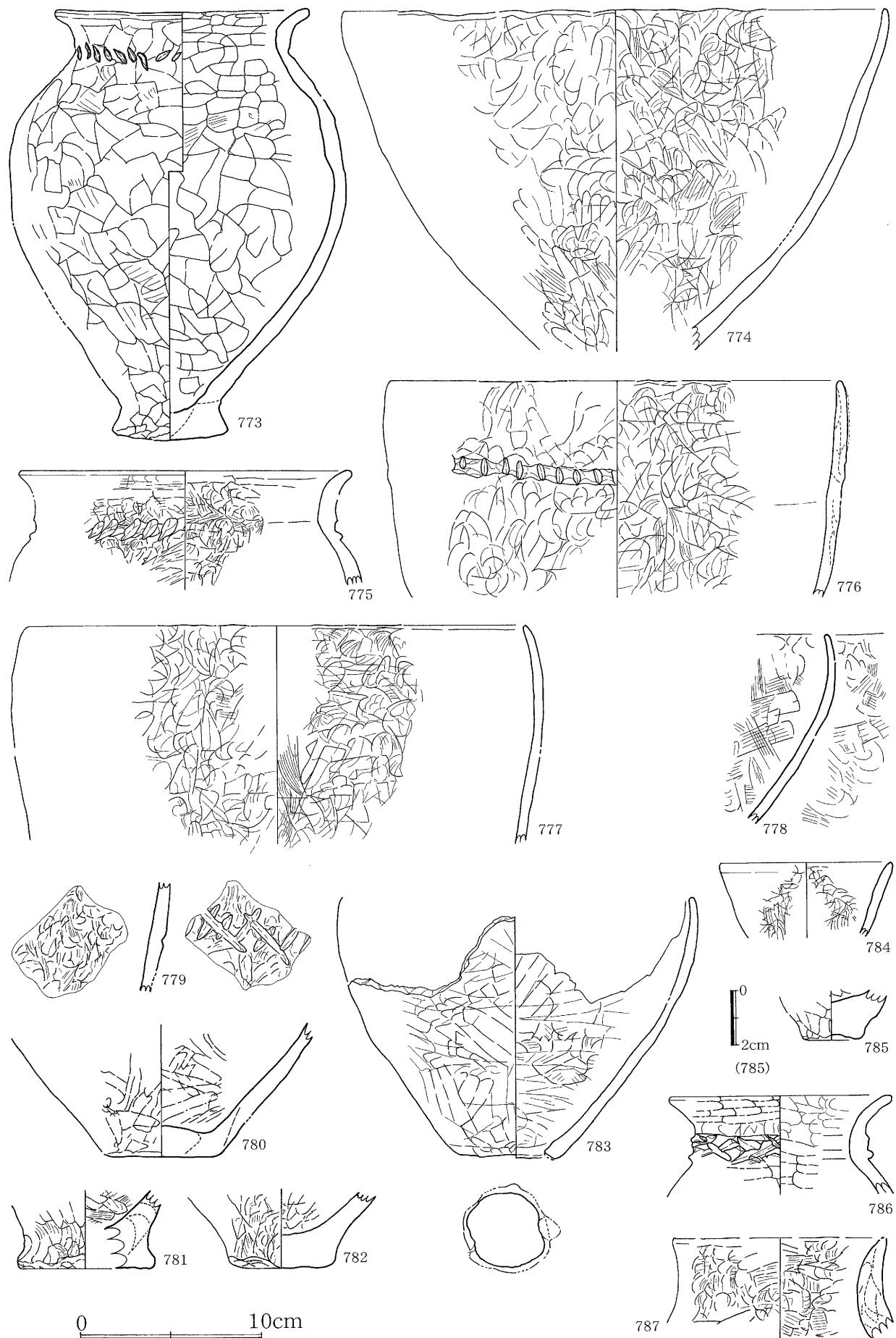
第82図 S A -28 出土遺物実測図(1)



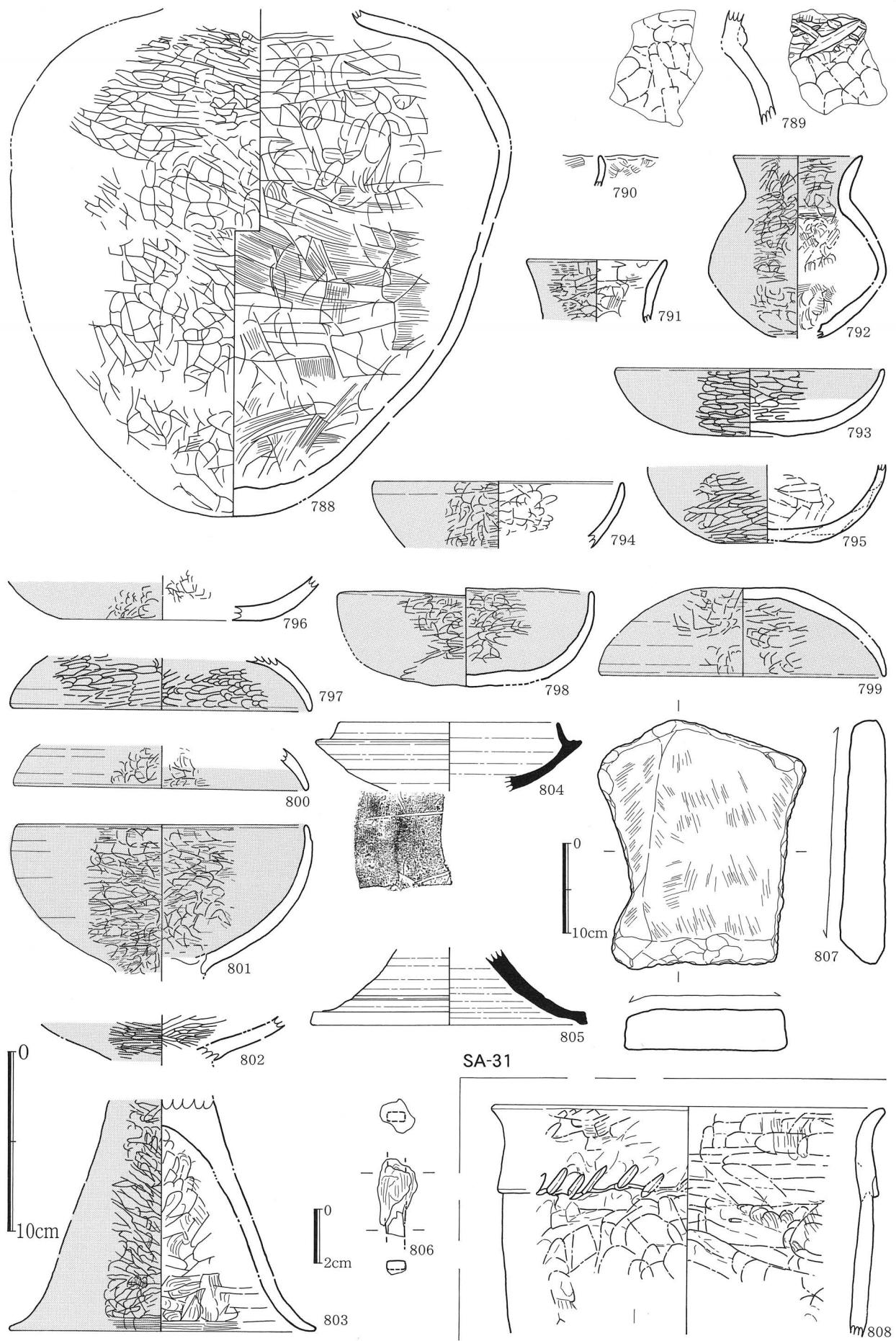
第83図 SA-28出土遺物実測図(2), SA-29出土遺物実測図(1)



第84図 SA-29出土遺物実測図(2), A-30・31出土遺物実測図(1)



第85図 SA-31出土遺物実測図(2)



第86図 SA-31出土遺物実測図(3), SA-32出土遺物実測図